

授業科目名(英文名) ／Course Title	応用力学序論		
担当教員(所属)／Instructor	清木 隆文(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R410003
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 1, 水/Wed 2	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	清木 隆文(E-mail: tseiki@cc.utsunomiya-u.ac.jp TEL: 028-689-6216)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	清木 隆文(月・火の12:00～13:00, または, e-mailによる予約)		
授業の内容／Course Description	本講義は土木の力学系専門科目を学ぶための基礎的事項について、力学を応用させるという視点で応用力学と位置づけ、その基本の一つ一つを学びます。		
授業の達成目標／Course Goals	本講義は、社会基盤デザイン学科の教育目標に関連して、目標(1)土木専門分野の中で、力学に関係する専門分野と力学の基礎理論との位置づけを理解すること。目標(2)力学の基礎理論で用いられている基本的な概念または用語を理解し、数式等で記述できること。目標(3)力学に関する基礎理論の特徴と適用範囲を説明できることを達成目標とします。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	社会基盤デザイン学科の学習・教育目標「(E) 自然科学の基礎理論と社会基盤整備のための専門的な基礎知識が理解できる。」に寄与する。(社会基盤デザイン学科の学習・教育目標については履修案内(地域デザイン科学部)等を参照)		
前提とする知識／Prerequisites	高校・大学で勉強した線形代数や微分積分、力学の基本的な知識を持っていれば良い。		
関連科目／Related Courses	高校・大学で勉強した線形代数や微分積分、力学の基本的な知識を持っていれば良い。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義は、基本的に教科書に沿って板書で説明します。適宜プリントを配布して理解を深める。教科書を事前に予習しておいてください。また、授業中に実施した課題を返却後、教科書などを参考にして、内容を良く復習してください。 AL20: 本授業では、授業の毎に課題を課し、採点后に返却し、学生の疑問点などを確認し、理解度の向上を図る。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 授業の進め方のガイダンス、応用力学の土木工学への適用(教科書 第1章) 第2週 座標の意味と力の表記方法について～ベクトル解析～(教科書 2.1～2.2) 第3週 力の組み合わせとベクトルの演算(教科書2.3) 第4週 力とモーメント(教科書 2.4) 第5週 物体力の概念と重心、図心について(教科書 2.5) 第6週 応力の概念と座標の関係について(教科書 3.1) 第7週 力のつりあい式とモーメントのつりあい式(教科書 3.2) 第8週 主応力、最大せん断応力について(教科書 3.3) 第9週 応力の不変量と平均応力、偏差応力について(教科書 3.3) 第10週 モールの応力円(教科書 3.4, 付録) 第11週 応力、ひずみに関連したテンソル解析(教科書 3.5～3.7) 第12週 応力-ひずみの構成則と材料実験(教科書 4.1) 第13週 弾性エネルギーの記述について(教科書 4.2) 第14週 材料の弾塑性挙動とモデル化について(教科書 4.3) 第15週 材料のレオロジー挙動、疲労破壊、最先端の応用力学(教科書 4.4～4.5) 第16週 期末試験		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書: 佐武正雄 村井貞規 共著 構造力学の基礎 I 技報堂出版(工学部生協で販売) 参考書: Y.C. ファン著 大橋 義夫 訳 連続体の力学入門改訂版 培風館(工学部図書館で閲覧可) 教材: 適宜配布		
成績評価の方法／Evaluation	講義中の課題(合計点を100点満点換算)の50%および期末試験(100点満点)の50%の総合点100点に対して、60点以上を得点した場合に目標が達成されたとする。		
学習上の助言／Learning Advice	この講義は、土木工学の分野で柱となる力学、構造力学、水理学、鉄筋コンクリート工学、土質力学の基礎となるものです。ここで学ぶ内容は、これらの学問分野を学ぶ際に知っていて当たり前のものです。しっかりと身につけて下さい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	建築設計基礎		
担当教員(所属)／Instructor	安森 亮雄(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R310007
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 ／Wed 5, 水／Wed 6, 水 ／Wed 7, 水／Wed 8, 水 ／Wed 9, 水／Wed 10	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	安森 亮雄(yasumori@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	安森 亮雄(e-mail等で予約をとってから質問・相談に応じる)		
授業の内容／Course Description	建築設計の基礎となるスケッチや立体構成についての技法を修得し、また、設計図面の作成(トレース)や模型の制作によって、建築の基礎的な表現方法を学び、建築空間の把握力と表現力を養う。		
授業の達成目標／Course Goals	本科目の達成目標は、建築空間の把握力と表現力、建築図面の基礎的な表現方法を習得することにある。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	建築都市デザイン学科の学習・教育目標のなかの、以下の目標と関係する。 1. 科学技術全般とデザイン科学に対する共通のリテラシーを身に付ける 2. 地域における多様な主体との間で意思疎通が図れるコミュニケーション能力を身に付ける		
前提とする知識／Prerequisites	建築図学を履修していること。		
関連科目／Related Courses	本科目は、建築設計製図Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、建築地域設計製図、卒業設計につながる。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	授業は製図室における実習形式で進める。スケッチ・図面・模型等による発表と講評を行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 オリエンテーション 第2週～4週 デザイン演習(スケッチ、平面構成等) 第5週～8週 デザイン演習(立体構成等) 第9週～12週 図面トレース(木造住宅) 第13週～15週 模型製作		
教科書・参考書等／Textbooks	特に無し		
成績評価の方法／Evaluation	与えられた全課題を提出した者を対象に提出課題ごとに評価します。各課題作品は原則としてA評価(90点)、B評価(75点)、C評価(60点)およびD評価(不合格=再提出)に段階分けし、これを各課題に要した時間(週)数で重みづけして評価する。原則として、90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とする。		
学習上の助言／Learning Advice	本科目は、建築空間を把握し表現するために、手を動かすトレーニングを中心に行います。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	地域資源論		
担当教員(所属)／Instructor	高橋 俊守(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R213001
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	高橋 俊守(ttaka@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	グローバル化の進展や超高齢社会の進展といった地域社会の変容を受けて、地域資源活用に対する期待が高まっている。地域資源には、自然、文化、施設、人材、コミュニティなど様々な種類が認められ、これらは、地域内の複数の資源と相互に密接に関係しながら存在している。地域資源は、地域的な存在であるとともに、どこでも移転して提供することができない非市場性を兼ね備えている。本講義では、持続可能な社会の形成や、豊かさを求める現代社会の期待に応じ、地域資源をどのように見だし、また活用すべきか、事例を示しながら解説する。		
授業の達成目標／Course Goals	現代社会における地域資源への期待を理解するとともに、地域資源活用のあり方について展望することができる能力を育成するため、以下の点を到達目標とする。 1. 地域資源の概念を説明できること 2. 地域資源の種類や再発見の方法を説明できること 3. 現代社会における地域資源活用のあり方を説明できること		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	コミュニティデザイン学科のディプロマポリシーのうち、以下に関連する。 ・地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力を身に付ける ・地域の資源を新たなまちづくりに活用することができる能力を身に付ける		
前提とする知識／Prerequisites	特に無し		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	AL50：地域資源に関する社会的背景や、地域資源活用に関する施策、具体的な事例について解説するとともに、グループワークによって地域資源を調査し、現状と課題点について整理した結果を発表させる。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	地域と地域資源 1. 地域社会の変容と課題 2. 地域資源活用への期待 3. 関連する施策の動向 地域資源とは何か 4. 地域資源の特徴 5. 地域資源の種類 6. 生態系サービスの概念 地域資源の活用 7. 地域資源の発掘 8. 栃木県の地域産業資源 9. 地域資源の活用方法 10. 多様な主体の連携と役割 地域資源活用の事例 11. 地域資源活用の事例(都市) 12. 地域資源活用の事例(農村) 13. 地域資源活用の事例(グループワークと発表) 14. 地域資源活用の事例(グループワークと発表) 15. 地域資源活用の事例(グループワークと発表)		
教科書・参考書等／Textbooks	講義のプリントを配布する。教科書は指定しない。参考書等は講義において示す。		
成績評価の方法／Evaluation	期末試験(50点)、グループワーク(50点)で成績を評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	地域資源を学ぶための前提として、地域をよく知り、理解しようとする姿勢が求められます。この授業を通じて、身近な地域についても関心が高まり、その成り立ちをより良く理解できる目が養われることを期待しています。		
キーワード／Keywords	コミュニティデザイン学科、地域資源領域、地域資源、生態系サービス		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	地域資源論		
担当教員(所属)／Instructor	高橋 俊守(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R420003
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	高橋 俊守(ttaka@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	グローバル化の進展や超高齢社会の進展といった地域社会の変容を受けて、地域資源活用に対する期待が高まっている。地域資源には、自然、文化、施設、人材、コミュニティなど様々な種類が認められ、これらは、地域内の複数の資源と相互に密接に関係しながら存在している。地域資源は、地域的な存在であるとともに、どこでも移転して提供することができない非市場性を兼ね備えている。本講義では、持続可能な社会の形成や、豊かさを求める現代社会の期待に応じ、地域資源をどのように見だし、また活用すべきか、事例を示しながら解説する。		
授業の達成目標／Course Goals	現代社会における地域資源への期待を理解するとともに、地域資源活用のあり方について展望することができる能力を育成するため、以下の点を到達目標とする。 1. 地域資源の概念を説明できること 2. 地域資源の種類や再発見の方法を説明できること 3. 現代社会における地域資源活用のあり方を説明できること		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	社会基盤デザイン学科の学習・教育目標「(H) 社会基盤整備による問題解決のための適切な施策を提案することができる」の修得に寄与する		
前提とする知識／Prerequisites	特に無し		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	AL50：地域資源に関する社会的背景や、地域資源活用に関する施策、具体的な事例について解説するとともに、グループワークによって地域資源を調査し、現状と課題点について整理した結果を発表させる。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	地域と地域資源 1. 地域社会の変容と課題 2. 地域資源活用への期待 3. 関連する施策の動向 地域資源とは何か 4. 地域資源の特徴 5. 地域資源の種類 6. 生態系サービスの概念 地域資源の活用 7. 地域資源の発掘 8. 栃木県の地域産業資源 9. 地域資源の活用方法 10. 多様な主体の連携と役割 地域資源活用の事例 11. 地域資源活用の事例(都市) 12. 地域資源活用の事例(農村) 13. 地域資源活用の事例(グループワークと発表) 14. 地域資源活用の事例(グループワークと発表) 15. 地域資源活用の事例(グループワークと発表)		
教科書・参考書等／Textbooks	講義のプリントを配布する。教科書は指定しない。参考書等は講義において示す。		
成績評価の方法／Evaluation	期末試験(50点)、グループワーク(50点)で成績を評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	地域資源を学ぶための前提として、地域をよく知り、理解しようとする姿勢が求められます。この授業を通じて、身近な地域についても関心が高まり、その成り立ちをより良く理解できる目が養われることを期待しています。		
キーワード／Keywords	コミュニティデザイン学科、地域資源領域、地域資源、生態系サービス		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	建築図学		
担当教員(所属)／Instructor	藤本 郷史(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R310006
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 木 /Thu 1, 木/Thu 2, 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact	藤本 郷史(メール：fujim@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours	藤本 郷史(水曜日：12:00-12:40, 工学部8号館5F 8-514室 メールで予約してから来室すること。 主要な講義ではメーリングリストシステムを構築するので活用してほしい。)		
授業の内容／Course Description	図学は幾何学的な形態を平面に描写する方法の科学であり、空間図形の理解を容易にし空間の把握力を養う。本演習では、幾何学的な形態を平面に描写する方法について学ぶ。		
授業の達成目標／Course Goals	空間図形の理解を容易にし空間の把握力を養うことを目標としている。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	この科目は、建築都市デザイン学科の以下の学習・教育目標に関係する。 (2) 地域における多様な主体との間で意思疎通が図れるコミュニケーション能力を身に付ける		
前提とする知識／Prerequisites	特になし。		
関連科目／Related Courses	建築設計基礎および建築設計製図と特に関係が深い。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	授業形態は、講義と演習課題を組み合わせる行う演習形式である。講義の前半では正投影図法（線・面・立体）について学び、講義の後半では軸測投影図法、斜投影図法、透視図法などを学んで、建築製図の基礎的技術を修得する。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第01回 正投影図法（点・線） 第02回 正投影図法（面・立体） 第03回 正投影図法（面・立体） 第04回 正投影図法（面・立体） 第05回 正投影図法（切断・断面） 第06回 正投影図法（切断・断面） 第07回 正投影図法（相貫） 第08回 正投影図法（陰影） 第09回 軸測投影図法 第10回 斜投影図法 第11回 斜投影図法 第12回 透視図法 第13回 透視図法 第14回 透視図法 第15回 総合演習・まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	講義前半：「図学概論」須藤利一著、東京大学出版会 講義後半：「建築パース演習教本」宮元健次著、彰国社		
成績評価の方法／Evaluation	演習（50％）と期末試験（50％）を総合評価する。 総合点100点に対して60点以上を得点した場合に目標が達成されたとする。		
学習上の助言／Learning Advice	以下の製図用具を用意する必要がある。 ・鉛筆あるいはシャープペンシル（芯はHB程度） ・消しゴム ・三角定規（20～30cm程度のもの） ・ものさし（30cm程度のもの） ・中コンパス（半径15cm程度の円が描けるもの）		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	政治学概論		
担当教員(所属)／Instructor	三田 妃路佳(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R222001
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	日本を含め先進国では高齢化が進み、政府の財政赤字は、年々増加し、国民への負担増が避けられない状況になってきている。多くの国では、民主主義に基づいて政治、経済などに関わる決定がなされている。民主主義の理念はどのようなものであり、民主主義を支える制度はどのようなものだろうか。国民の代表を選出する制度はどのようなになっているのだろうか。誰が、どこで、どのような過程で予算や法律を決定しているのだろうか。講義では、選挙制度、政党、大統領制・議院内閣制、議会制度等の制度について日本を中心とした事例を取り上げながら説明する。		
授業の達成目標／Course Goals	政治理論を通じて、日本を中心とする政治の制度や政治家・官僚・利益団体・有権者の関わりを理解するとともに、政治における問題点を見出す力を身につけることを目指す。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	学習・教育目標については、コミュニティデザイン学科専門科目の社会システム科目群の科目として、「地域の社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力を身に付ける」と関連する。		
前提とする知識／Prerequisites	国内外、国、地方自治体を問わず、選挙制度や議会制度といった政治に関わる様々な制度のほか、政治家、公務員、利益団体などの活動や役割に関心を持っていること。		
関連科目／Related Courses	公共政策入門、政策過程、論現代日本の政治と行政		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	AL20: 講義形式を基本とする。授業の最後には学生が選んだ国の選挙制度、立法制度について報告を求める。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回ガイダンス、民主主義の理念 第2回日本の選挙制度[1] 第3回日本の選挙制度[2] 第4回選挙制度改革 第5回政党の役割 第6回議院内閣制と大統領制 第7回内閣と首相 第8回中央・地方関係 第9回議会の仕組み 第10回 利益集団と多元主義 第11回政治資金 第12回日本の立法過程[1]政務調査会、与党審査 第13回日本の立法過程[2]国会審議、野党の役割 第14回米国の立法過程 第15回 学生による報告 定期試験		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書 加茂利男・大西仁・石田徹『現代政治学(第四版)』有斐閣、2012年。 参考書・参考資料等 杉田敦『政治的思考』岩波書店、2013年。 アレント・レイブハルト『民主主義対民主主義』勁草書房、2005年。 その他、授業中に指示する。		
成績評価の方法／Evaluation	定期試験70%、授業時の質問に対する発言などの授業への参加状況30%で評価する		
学習上の助言／Learning Advice	政治学では私たちの生活に関わる法律や予算などの決定の理由や背景について、様々な視点から考える姿勢が必要になる。誰が、どこで、いつ、どのように、なぜ決めたのか意識する姿勢が身につくよう資料等を読み、授業に臨むこと。		
キーワード／Keywords	民主主義、多元主義、決定、政官業の関係		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	社会基盤解析法Ⅱ		
担当教員(所属)／Instructor	近藤 伸也(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R410002
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 木 /Thu 5, 木/Thu 6	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	近藤 伸也(028-689-6212 kondos@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	近藤 伸也(授業時間中、またはe-mailによる予約)		
授業の内容／Course Description	予習では教科書から各授業のテーマに応じた内容を学習し、授業時間では、講義による説明は最小限に抑え、教員やTAとの双方向的演習授業により具体的な計算能力の修得を目指す。		
授業の達成目標／Course Goals	社会基盤の整備・設計に必要な数学的素養、特に線形代数学とその応用としての計画数理の基礎を修得する。具体的には、線形代数学については、ベクトルの積と微分、行列の計算、逆行列、行列式、線形空間、固有値と固有ベクトル等を扱う。計画数理の基礎については、線形計画法、勾配法による最適化計算、実験計画法等を扱う。また、表計算ソフトを活用して、多変数の最適化問題を解く基本的な計算手法を習得する。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	社会基盤デザイン学科の学習・教育目標「(E) 自然科学の基礎理論と社会基盤整備のための専門的な基礎知識が理解できる。」に寄与する。(社会基盤デザイン学科の学習・教育目標については履修案内(地域デザイン科学部)等を参照)		
前提とする知識／Prerequisites	高等学校での数学IIBを復習しておく。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	1. 予習では教科書から各授業のテーマに応じた内容を学習する 2. 予習でわかったこと、わからなかったことを予習シートに記入して授業冒頭で提出する 3. 授業のテーマを解説する 4. 2人1組で練習問題を解いて答え合わせをする 5. 個人で確認問題を解く 6. 振り返りをして授業でわかったこと、わからなかったことを振り返りシートに記入して授業最後に提出する。 AL50: 授業時間では、講義による説明は最小限に抑え、教員やTAとの双方向的演習授業により具体的な計算能力の修得を目指す。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	1 週: イントロダクション、行列の定義及び演算 2 週: 正方向行列と逆行列 3 週: 連立1次方程式 4 週: 行基本変形と行列の階数 5 週: 連立1次方程式の解 6 週: 逆行列の求め方 7 週: 行列式の定義 8 週: 行列式の性質 9 週: 逆行列の存在条件とクラメールの公式 1 0 週: ベクトル空間 1 1 週: 線形空間 1 2 週: 表計算ソフト(行列) 1 3 週: 表計算ソフト(ベクトル) 1 4 週: 線形計画法(表計算ソフトも用いる) 1 5 週: 実験計画法(表計算ソフトも用いる)		
教科書・参考書等／Textbooks	【1 3 週まで】(教科書)「やさしく学べる線形代数」 石村園子著 共立出版 (参考書)線形代数については、非常に多くの書籍が出版されています。 【1 4、1 5 週】(教科書)線形計画法、実験計画法については別途参考資料を配布 (参考書)「土木解析法」 松本嘉司著 技報堂		
成績評価の方法／Evaluation	問題の演習・期末試験・授業への取り組み・出席状況等で総合的に評価する。 評点の配分は、①期末試験(60%)、②演習・学習態度(40%)であり、学習態度には受講状況が含まれる。		
学習上の助言／Learning Advice	授業で問題が解けるように、いかに自分で予習するかが重要です。		
キーワード／Keywords	社会基盤デザイン学科 線形代数、固有値、固有ベクトル、行列		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	高齢社会学		
担当教員(所属)／Instructor	中川 敦(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R214001
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 木 /Thu 7, 木/Thu 8	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	中川 敦(木曜日5-6限 中川研究室)		
授業の内容／Course Description	本講義では現代社会における最も重要なテーマである、高齢社会の問題について福祉社会学の視点から学ぶ。まず、高齢社会の到来の背景を取り上げ、それらが問題化される理由を、戦後日本の歴史の中に位置づける。その上で、「老い衰えゆくこと」そして「呆けゆくこと」がどのような経験であるのか、当事者の立場に降り立った形で理解する。以上の理解の上で、高齢者福祉政策の歴史的な変化および、現代日本の高齢者福祉を支える介護保険制度について、理解を深める。さらに、高齢化する日本社会の中で、地域の民間レベルで始まり、介護システム全体に大きな影響を与えた、小規模ケアの展開、新しい認知症ケアのあり方を学びながら、それらの今後の可能性を探る。最後に、高齢者介護における新しい家族介護の形態として注目される遠距離介護について考察を行う。		
授業の達成目標／Course Goals	現代社会における高齢社会の問題を理解し、それらを解決するための方向性を、学生自身が見出せるようになることを目標とする。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	本授業は、コミュニティデザイン学科専門科目に含まれ、「新たな地域社会の担い手として率先して行動することができる能力」の養成というに必要な、高齢社会学の視点の涵養という点で、学習・教育目標と関連している。		
前提とする知識／Prerequisites	前提として要求する知識は求めないが、高齢社会学を学ぶための真摯な姿勢を要求する。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	パワーポイントのスライドや映像資料などを利用して講義を行う。また講義の途中で、理解度を問う確認テストを随時行う。授業計画は学生の理解に応じて、適宜変更の可能性があるので。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回 高齢社会の何が問題か 第2回 戦後日本社会の中の「老い」 第3回 「呆け」たら私はどうなるのか？ 第4回 本人の「呆けゆく」体験の語り”が生成される“場” 第5回 「呆けゆく」体験を“語り、明かすこと”と“語らず、隠すこと” 第6回 本人が「呆けゆく」体験を語り明かすことは、私たちに何をもたらすのか？ 第7回 できなくなっていく家族を介護すること 第8回 夫が老いるということ 第9回 妻が老いるということ 第10回 特養で老いるということ 第11回 病院で老いるということ 第12回 介護政策の変化と島根の先駆的高齢者福祉実践 第13回 小規模ケアの展開 第14回 新しい認知症ケアの展開 第15回 遠距離介護の社会学		
教科書・参考書等／Textbooks	天田城介、2011年『老い衰えゆくことの発見(角川選書)』角川学芸出版 山田富秋編著、出口泰靖著、2004年『老いと障害の質的社会学—フィールドワークから』世界思想社 ただし、どちらも購入の必要はない。		
成績評価の方法／Evaluation	授業内の確認テストで45点、学期末レポートを55点として評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	現代の高齢社会の問題に対する視野を広げられるよう、講義で学んだことについて、授業外の中で家族や友人などと積極的に議論してみたい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			



授業科目名(英文名) ／Course Title	建築構造力学演習Ⅱ		
担当教員(所属)／Instructor	中島 昌一(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R310005
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 木 /Thu 7, 木/Thu 8	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	建築構造力学Ⅰに引き続き構造力学の基礎を学び、構造設計の基本となる静定構造物の応力と応力度の関係、応力と変形の関係について理解を深めます。具体的には、断面図形の性質、断面部材の応力度、座屈、許容応力度設計、変形、仕事と歪エネルギーを学びます。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部材断面の諸性質を理解し、関係諸量を算定できる。</li> <li>・曲げモーメントと垂直応力度の関係を理解し、応力度の検討ができる。</li> <li>・せん断力とせん断応力度の関係を理解し、応力度の検討ができる。</li> <li>・長柱の座屈耐力および座屈応力度を算定できる。</li> <li>・部材および構造物の曲げ変形を求めることができる。</li> </ul>		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	下記の建築都市デザイン学科の学習・教育目標に対応します。 (5) 自然現象のメカニズムを理解し、建築・地域デザイン技術に活かす能力を身に付ける		
前提とする知識／Prerequisites	建築構造力学Ⅰの内容を理解しておく必要があります。		
関連科目／Related Courses	本講義は建築構造力学演習Ⅱと組み合わせて履修する必要があります。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	前回の講義内容に関連した演習問題を出題します。周りと相談したり、教員やTAにも質問しながら、授業時間内に解答します。解答用紙を授業の終わりに回収し、添削して次の講義で返却します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週断面図形の性質1(断面一次モーメント、図心、断面二次モーメント、断面係数) 第2週断面図形の性質2(断面相乗モーメント、主断面二次モーメント、主軸) 第3週断面部材の応力度1(軸方向応力度、曲げ応力度、せん断応力度) 第4週断面部材の応力度2(2方向曲げモーメント、軸方向力と曲げモーメント、偏心軸方向力) 第5週座屈、許容応力度(オイラー座屈、座屈応力度、許容応力度) 第6週静定梁の曲げ変形1(弾性曲線式(片持ち梁)) 第7週静定梁の曲げ変形2(弾性曲線式(単純梁)) 第8週静定梁の曲げ変形3(モールの定理(片持ち梁)) 第9週静定梁の曲げ変形4(モールの定理(単純梁)) 第10週中間試験(第1～9週のまとめ) 第11週構造物の変形(静定ラーメン) 第12週仕事と歪エネルギー1(仕事、歪エネルギー、エネルギー保存則) 第13週仕事と歪エネルギー2(仮想仕事の原理(静定梁)) 第14週仕事と歪エネルギー3(仮想仕事の原理(トラス)) 第15週構造設計への応用(許容応力度設計法)		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書:「建築構造の力学Ⅰ[静定力学編]」寺本隆幸 著, 森北出版 参考書:「建築骨組の力学 演習編」田中尚 他著 東洋書店 「建築構造のための力学演習」望月重 他著, 鹿島出版会 「建築構造力学 図説・演習1」中村恒善 編著, 丸善 「構造力学徹底演習」鈴木基行 著, 森北出版		
成績評価の方法／Evaluation	中間試験30%, 期末試験70%として評価します。原則として, 90%以上を「秀」, 75%以上を「優」, 65%以上を「良」, 50%以上を「可」とします。なお, 講義と演習の両方を合格した場合に単位が与えられます。		
学習上の助言／Learning Advice	直前の講義内容と前回までの演習内容の理解が不可欠なので, 十分に復習しておくことが重要です。演習問題などをうまく利用して, 自分の手を動かして実際に問題を解くことにより, 体感的に理解することが大切です。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	高齢社会学		
担当教員(所属)／Instructor	中川 敦(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R320001
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 木 /Thu 7, 木/Thu 8	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	中川 敦(木曜日5-6限 中川研究室)		
授業の内容／Course Description	本講義では現代社会における最も重要なテーマである、高齢社会の問題について福祉社会学の視点から学ぶ。まず、高齢社会の到来の背景を取り上げ、それらが問題化される理由を、戦後日本の歴史の中に位置づける。その上で、「老い衰えゆくこと」そして「呆けゆくこと」がどのような経験であるのか、当事者の立場に降り立った形で理解する。以上の理解の上で、高齢者福祉政策の歴史的な変化および、現代日本の高齢者福祉を支える介護保険制度について、理解を深める。さらに、高齢化する日本社会の中で、地域の民間レベルで始まり、介護システム全体に大きな影響を与えた、小規模ケアの展開、新しい認知症ケアのあり方を学びながら、それらの今後の可能性を探る。最後に、高齢者介護における新しい家族介護の形態として注目される遠距離介護について考察を行う。		
授業の達成目標／Course Goals	現代社会における高齢社会の問題を理解し、それらを解決するための方向性を、学生自身が見出せるようになることを目標とする。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	建築都市デザイン学科の学習教育目標「(3) 人間と社会・文化・地域に関する教養を身につける」の修得に寄与する		
前提とする知識／Prerequisites	前提として要求する知識は求めないが、高齢社会学を学ぶための真摯な姿勢を要求する。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	パワーポイントのスライドや映像資料などを利用して講義を行う。また講義の途中で、理解度を問う確認テストを随時行う。授業計画は学生の理解に応じて、適宜変更の可能性はある。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回 高齢社会の何が問題か 第2回 戦後日本社会の中の「老い」 第3回 「呆け」たら私はどうなるのか? 第4回 本人の「呆けゆく」体験の語り”が生成される“場” 第5回 「呆けゆく」体験を“語り、明かすこと”と“語らず、隠すこと” 第6回 本人が「呆けゆく」体験を語り明かすことは、私たちに何をもたらすのか? 第7回 できなくなっていく家族を介護すること 第8回 夫が老いるということ 第9回 妻が老いるということ 第10回 特養で老いるということ 第11回 病院で老いるということ 第12回 介護政策の変化と島根の先駆的高齢者福祉実践 第13回 小規模ケアの展開 第14回 新しい認知症ケアの展開 第15回 遠距離介護の社会学		
教科書・参考書等／Textbooks	天田城介、2011年『老い衰えゆくことの発見(角川選書)』角川学芸出版 山田富秋編著、出口泰靖著、2004年『老いと障害の質的社会学—フィールドワークから』世界思想社 ただし、どちらも購入の必要はない。		
成績評価の方法／Evaluation	授業内の確認テストで45点、学期末レポートを55点として評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	現代の高齢社会の問題に対する視野を広げられるよう、講義で学んだことについて、授業外の中で家族や友人などと積極的に議論してみたい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	高齢社会学		
担当教員(所属)／Instructor	中川 敦(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R420005
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 木 /Thu 7, 木/Thu 8	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	中川 敦(木曜日5-6限 中川研究室)		
授業の内容／Course Description	本講義では現代社会における最も重要なテーマである、高齢社会の問題について福祉社会学の視点から学ぶ。まず、高齢社会の到来の背景を取り上げ、それらが問題化される理由を、戦後日本の歴史の中に位置づける。その上で、「老い衰えゆくこと」そして「呆けゆくこと」がどのような経験であるのか、当事者の立場に降り立った形で理解する。以上の理解の上で、高齢者福祉政策の歴史的な変化および、現代日本の高齢者福祉を支える介護保険制度について、理解を深める。さらに、高齢化する日本社会の中で、地域の民間レベルで始まり、介護システム全体に大きな影響を与えた、小規模ケアの展開、新しい認知症ケアのあり方を学びながら、それらの今後の可能性を探る。最後に、高齢者介護における新しい家族介護の形態として注目される遠距離介護について考察を行う。		
授業の達成目標／Course Goals	現代社会における高齢社会の問題を理解し、それらを解決するための方向性を、学生自身が見出せるようになることを目標とする。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	社会基盤デザイン学科の学習・教育目標「(H) 社会基盤整備による問題解決のための適切な施策を提案することができる」の修得に寄与する		
前提とする知識／Prerequisites	前提として要求する知識は求めないが、高齢社会学を学ぶための真摯な姿勢を要求する。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	パワーポイントのスライドや映像資料などを利用して講義を行う。また講義の途中で、理解度を問う確認テストを随時行う。授業計画は学生の理解に応じて、適宜変更の可能性があるのである。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回 高齢社会の何が問題か 第2回 戦後日本社会の中の「老い」 第3回 「呆け」たら私はどうなるのか? 第4回 本人の「呆けゆく」体験の語り”が生成される“場” 第5回 「呆けゆく」体験を“語り、明かすこと”と“語らず、隠すこと” 第6回 本人が「呆けゆく」体験を語り明かすことは、私たちに何をもたらすのか? 第7回 できなくなっていく家族を介護すること 第8回 夫が老いるということ 第9回 妻が老いるということ 第10回 特養で老いるということ 第11回 病院で老いるということ 第12回 介護政策の変化と島根の先駆的高齢者福祉実践 第13回 小規模ケアの展開 第14回 新しい認知症ケアの展開 第15回 遠距離介護の社会学		
教科書・参考書等／Textbooks	天田城介、2011年『老い衰えゆくことの発見(角川選書)』角川学芸出版 山田富秋編著、出口泰靖著、2004年『老いと障害の質的社会学—フィールドワークから』世界思想社 ただし、どちらも購入の必要はない。		
成績評価の方法／Evaluation	授業内の確認テストで45点、学期末レポートを55点として評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	現代の高齢社会の問題に対する視野を広げられるよう、講義で学んだことについて、授業外の中で家族や友人などと積極的に議論してみたい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	まちづくり論		
担当教員(所属)／Instructor	石井 大 一 朗(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R211002
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 木 /Thu 9, 木/Thu 10	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	石井 大 一 朗(電話 028-649-5386 E-mail ish@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	石井 大 一 朗(木曜 7-8限)		
授業の内容／Course Description	まちづくり論では、身近なまちづくりに参加して活動していくための知識を歴史的背景や制度的背景を知り、社会問題・社会構造の変容とまちづくりの関係について理解を深め、まちづくりとは何かを捉える力を養う。 まず、公害問題や計画策定における市民参加・参画といった従来の運動論的な「まちづくり」を踏まえつつ、昨今の協働のまちづくりの現状を知る。さらに協働のまちづくりを進める上で重要となる制度・政策としての「地域ガバナンス」の視点を重視し、地域的まともに着目したコミュニティの持続的な仕組みづくりを学ぶ。持続的な仕組みづくりを担う、コミュニティ組織、コミュニティ組織が対象とする問題領域、またそれらを支える制度について、日欧米の相違を整理しつつ、理解を深める。		
授業の達成目標／Course Goals	日本の住民主体のまちづくりについて、参加と協働のまちづくりがどのように発展してきたのか、制度的位置づけや歴史的変遷などについて基本的なことを理解した上で、社会問題・社会構造の変容とまちづくりとの関係を捉える力を養うことを目標とする。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	・コミュニティデザイン学科の学習・教育目標「地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力を身に付ける」に対応する。 ・建築都市デザイン学科の学習・教育目標「人間および社会の要求・条件を理解し、建築・地域・環境・制度を構築する能力を身につける。」に対応する。 ・社会基盤デザイン学科の学習・教育目標「社会基盤整備による問題解決のための適切な施策を提案することができる。」に対応する。		
前提とする知識／Prerequisites	前提とする知識は特に求めない。		
関連科目／Related Courses	関連する科目には、まちづくり特講がある。まちづくり特講を受講するものは、本授業を受講していることが望ましい。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義形式を基本とする。3回に1回程度、講義の振り返りや課題について発表し、グループで意見交換する機会を設ける。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回：ガイダンス(授業のねらいと概要・進め方、本授業で扱うまちづくりとは) 第2回：まちづくりにおける当事者は誰か 第3回：まちづくりの系譜～欧米の歴史 第4回：まちづくりの系譜～日本の歴史 第5回：まちづくりの系譜～制度と仕組み 第6回：ふり返しワークショップ 第7回：参加と協働のまちづくり 第8回：まちづくりの実践～担い手 第9回：まちづくりの実践～支え手 第10回：まちづくりの実践～財源 第11回：ふり返しワークショップ 第12回：まちづくりの展開～協働型コミュニティ政策 第13回：まちづくりの展開～地方創生が目指すもの 第14回：まちづくりの展開～大学の新たな役割 第15回：ふり返しワークショップ		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書は特に指定しない。毎回資料を配布するとともに、適宜参考図書を紹介する。		
成績評価の方法／Evaluation	授業中に行う課題50%、最終レポート50%		
学習上の助言／Learning Advice	まちづくりの種は、自らや身近な人の暮らしの中にある「気がかり」や「困りごと」に気づくことから始まります。友人や家族と出しあってみましょう。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	まちづくり論		
担当教員(所属)／Instructor	石井 大 一 朗(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R320002
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 木 /Thu 9, 木/Thu 10	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	石井 大 一 朗(電話 028-649-5386 E-mail ish@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	石井 大 一 朗(木曜 7ー8限)		
授業の内容／Course Description	まちづくり論では、身近なまちづくりに参加して活動していくための知識を歴史的背景や制度的背景を知り、社会問題・社会構造の変容とまちづくりの関係について理解を深め、まちづくりとは何かを捉える力を養う。 まず、公害問題や計画策定における市民参加・参画といった従来の運動論的な「まちづくり」を踏まえつつ、昨今の協働のまちづくりの現状を知る。さらに協働のまちづくりを進める上で重要となる制度・政策としての「地域ガバナンス」の視点を重視し、地域的まとまりに着目したコミュニティの持続的な仕組みづくりを学ぶ。持続的な仕組みづくりを担う、コミュニティ組織、コミュニティ組織が対象とする問題領域、またそれらを支える制度について、日欧米の相違を整理しつつ、理解を深める。		
授業の達成目標／Course Goals	日本の住民主体のまちづくりについて、参加と協働のまちづくりがどのように発展してきたのか、制度的位置づけや歴史的変遷などについて基本的なことを理解した上で、社会問題・社会構造の変容とまちづくりとの関係を捉える力を養うことを目標とする。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	・建築都市デザイン学科の学習・教育目標「(3) 人間と社会・文化・地域に関する教養を身につける。」に対応する。		
前提とする知識／Prerequisites	前提とする知識は特に求めない。		
関連科目／Related Courses	関連する科目には、まちづくり特講がある。まちづくり特講を受講するものは、本授業を受講していることが望ましい。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義形式を基本とする。3回に1回程度、講義の振り返りや課題について発表し、グループで意見交換する機会を設ける。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回：ガイダンス(授業のねらいと概要・進め方、本授業で扱うまちづくりとは) 第2回：まちづくりにおける当事者は誰か 第3回：まちづくりの系譜～欧米の歴史 第4回：まちづくりの系譜～日本の歴史 第5回：まちづくりの系譜～制度と仕組み 第6回：ふり返しワークショップ 第7回：参加と協働のまちづくり 第8回：まちづくりの実践～担い手 第9回：まちづくりの実践～支え手 第10回：まちづくりの実践～財源 第11回：ふり返しワークショップ 第12回：まちづくりの展開～協働型コミュニティ政策 第13回：まちづくりの展開～地方創生が目指すもの 第14回：まちづくりの展開～大学の新たな役割 第15回：ふり返しワークショップ		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書は特に指定しない。毎回資料を配布するとともに、適宜参考図書を紹介する。		
成績評価の方法／Evaluation	授業中に行う課題50%、最終レポート50%		
学習上の助言／Learning Advice	まちづくりの種は、自らや身近な人の暮らしの中にある「気がかり」や「困りごと」に気づくことから始まります。友人や家族と出しあってみましょう。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	まちづくり論		
担当教員(所属)／Instructor	石井 大 一 朗(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R420004
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 木 /Thu 9, 木/Thu 10	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	石井 大 一 朗(電話 028-649-5386 E-mail ish@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	石井 大 一 朗(木曜 7ー8限)		
授業の内容／Course Description	まちづくり論では、身近なまちづくりに参加して活動していくための知識を歴史的背景や制度的背景を知り、社会問題・社会構造の変容とまちづくりの関係について理解を深め、まちづくりとは何かを捉える力を養う。 まず、公害問題や計画策定における市民参加・参画といった従来の運動論的な「まちづくり」を踏まえつつ、昨今の協働のまちづくりの現状を知る。さらに協働のまちづくりを進める上で重要となる制度・政策としての「地域ガバナンス」の視点を重視し、地域的まとまりに着目したコミュニティの持続的な仕組みづくりを学ぶ。持続的な仕組みづくりを担う、コミュニティ組織、コミュニティ組織が対象とする問題領域、またそれらを支える制度について、日欧米の相違を整理しつつ、理解を深める。		
授業の達成目標／Course Goals	日本の住民主体のまちづくりについて、参加と協働のまちづくりがどのように発展してきたのか、制度的位置づけや歴史的変遷などについて基本的なことを理解した上で、社会問題・社会構造の変容とまちづくりとの関係を捉える力を養うことを目標とする。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	・社会基盤デザイン学科の学習・教育目標「社会基盤整備による問題解決のための適切な施策を提案することができる。」に対応する。		
前提とする知識／Prerequisites	前提とする知識は特に求めない。		
関連科目／Related Courses	関連する科目には、まちづくり特講がある。まちづくり特講を受講するものは、本授業を受講していることが望ましい。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義形式を基本とする。3回に1回程度、講義の振り返りや課題について発表し、グループで意見交換する機会を設ける。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回：ガイダンス(授業のねらいと概要・進め方、本授業で扱うまちづくりとは) 第2回：まちづくりにおける当事者は誰か 第3回：まちづくりの系譜～欧米の歴史 第4回：まちづくりの系譜～日本の歴史 第5回：まちづくりの系譜～制度と仕組み 第6回：ふり返しワークショップ 第7回：参加と協働のまちづくり 第8回：まちづくりの実践～担い手 第9回：まちづくりの実践～支え手 第10回：まちづくりの実践～財源 第11回：ふり返しワークショップ 第12回：まちづくりの展開～協働型コミュニティ政策 第13回：まちづくりの展開～地方創生が目指すもの 第14回：まちづくりの展開～大学の新たな役割 第15回：ふり返しワークショップ		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書は特に指定しない。毎回資料を配布するとともに、適宜参考図書を紹介する。		
成績評価の方法／Evaluation	授業中に行う課題50%、最終レポート50%		
学習上の助言／Learning Advice	まちづくりの種は、自らや身近な人の暮らしの中にある「気がかり」や「困りごと」に気づくことから始まります。友人や家族と出しあってみましょう。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	GIS演習		
担当教員(所属)／Instructor	高橋 俊守(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R100007
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	高橋 俊守(ttaka@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	地理情報システム(GIS)は、社会統計や環境情報を始めとする地域の様々な空間情報を収集して整理するとともに、解析評価するために有効なコンピュータシステムである。本演習では、GISやリモートセンシングについて基本的な理論を学習するとともに、コンピュータを用いた演習を行うことで、地域の調査や研究でGISを実際に活用するために必要な初歩的な技能を修得することを目的とする。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GISやリモートセンシングについて基本的な理論や応用分野が理解できること</li> <li>・既存の地域環境情報をGISやリモートセンシングを用いて分析し、結果の概要を地図で描くことができること</li> <li>・GISやリモートセンシングを応用し、地域デザインに求められる主題図を作成することができること</li> </ul>		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学部共通の以下のディプロマポリシーに対応する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間と社会、多様な地域に関する基礎的教養を身に付ける</li> <li>・地域デザインに関する共通のリテラシーを身に付ける</li> </ul> </li> <li>●コミュニティデザイン学科の学習・教育目標「地域の資源を新たなまちづくりに活用することができる能力を身に付ける」に関連する。</li> <li>●建築都市デザイン学科の学習・教育目標「(3) 人間と社会・文化、地域に関する教養を身に付ける」に関連する(建築都市デザイン学科の教育目標については、履修案内等を参照すること)。</li> <li>●社会基盤デザイン学科の学習・教育目標「(B) 科学技術と地域デザインに関する共通のリテラシーを身につけている」、「(E) 自然科学の基礎理論と社会基盤整備のための専門的な基礎知識が理解できる」の修得に寄与する(社会基盤デザイン学科の教育目標については、履修案内(地域デザイン学部)等を参照のこと)</li> </ul>		
前提とする知識／Prerequisites	統計学の基本的な知識と理論を理解していることが望ましい。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	GISを用いて、行政機関等から提供されている各種統計データや地域環境情報を処理する演習を行う。また、GISやリモートセンシングを用いてテーマに即した空間情報データの構築を行う。 AL80: GISを用いて、行政機関等から提供されている各種統計データや地域環境情報を処理し演習を行う。また、GISやリモートセンシングを用いてテーマに即した空間情報データの構築を行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 GIS・リモートセンシングとは何か 第2週 GISの概要 第3週 リモートセンシングの概要 第4週 統計データの種類 第5週 地域分析の方法 第6週 コミュニティデザインへの活用 第7週 課題演習(1) 第8週 建築・都市計画とGIS 第9週 建築・都市計画への活用① 第10週 建築・都市計画への活用② 第11週 課題演習(2) 第12週 社会基盤整備とGIS 第13週 GIS技術の都市計画 第14週 社会基盤分野での活用 第15週 課題演習(3)		
教科書・参考書等／Textbooks	参考書 ArcGIS for Desktop 逆引きガイド ESRIジャパン(株) 参考書 改訂版 図解リモートセンシング 日本リモートセンシング研究会編 参考書 Quantum GIS入門 古今書院		
成績評価の方法／Evaluation	課題演習(1)～(3)の結果をレポートにまとめて提出することを成績評価の要件とする。 課題演習と演習への取組状況を勘案して総合的に成績を評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	GISやリモートセンシング技術は、地域デザインにおける基本的なリテラシーとして重要な基盤となっている。本演習を通じてGISやリモートセンシングの初歩的なスキルを身に付けることを期待する。		
キーワード／Keywords	コミュニティデザイン学科、建築都市デザイン学科、社会基盤デザイン学科、学部共通専門科目、GIS、地理情報システム、空間情報、リモートセンシング		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	地域デザイン倫理		
担当教員(所属)／Instructor	大森 宣暁(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R100008
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	地域デザインに携わる者は、重要な社会資本である社会基盤のデザインを通じて、社会や人そして環境などに対して大きな影響力を有しており、それらに対する責任や倫理観も確かなものが求められている。本講義では、高度に進んだ技術、巨大な組織、複雑に絡み合った利権構造から成り立っている現代社会における地域デザインに携わる者の立場、役割、義務、そして権利などを把握し、分析、判断することを学び、自らの倫理観を自ら確立することを学ぶ。また、研究をする場合の倫理についても併せて学ぶこととする。		
授業の達成目標／Course Goals	1. 現代における地域デザイン倫理の概念について理解すること。 2. 社会基盤デザインに絡む種々の事例を省みることで、現代の地域デザインに求められている内容を理解すること。 3. 問題に直面したときの対応や解決方法など、倫理観に基づき、各自がそれぞれ自ら判断し決定できること。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	学部共通の学習・教育目標「(D)社会基盤整備や地域デザインに関わる技術者としての倫理観を身につけている」に寄与する(学部共通の学習・教育目標については履修案内(地域デザイン科学部)等を参照のこと)。		
前提とする知識／Prerequisites	特にないが、法律と倫理、科学技術の歴史、科学技術と社会、国際問題等に関する一般常識を有していることが求められる。		
関連科目／Related Courses	特にないが、法律と倫理、科学技術の歴史、科学技術と社会、国際問題等に関する一般常識を有していることが求められる。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	地域デザインにおける主要な分野について、それぞれ担当の教員から倫理観が求められる事例について説明すると共に、グループディスカッションを行い、議論を深めることで倫理に関する理解の深化を図る。 AL80:教員から倫理的課題の説明の後、4人程度のグループに分かれてディスカッションを行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 地域デザイン倫理の概念 第2週 社会資本構築における事例 第3週 グループディスカッション 第4週 グループディスカッションおよびPPT作成 第5週 全体討議 第6週 地域計画における事例 第7週 グループディスカッション 第8週 グループディスカッションおよびPPT作成 第9週 全体討議 第10週 治水行政における事例 第11週 グループディスカッション 第12週 グループディスカッションおよびPPT作成 第13週 全体討議 第14週 理解度の確認 第15週 確認結果に関する解説		
教科書・参考書等／Textbooks	教材としてプリントを適宜配布する予定		
成績評価の方法／Evaluation	期末試験(60%)および各回のレポート(40%)を総合し、総合点100点に対して、60%以上を得点した場合に目標が達成されたとする。		
学習上の助言／Learning Advice	思考を深めることを心がけてください。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			



授業科目名(英文名) ／Course Title	法学概論		
担当教員(所属)／Instructor	黒川 亨子(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R222004
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	黒川 亨子(メールアドレス kurokawa@cc. 電話番号(内線) 5285)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	黒川 亨子(前期:水曜10:30~11:30 後期:水曜14:30~15:30 (事前にメールでアボを取ってください))		
授業の内容／Course Description	本講義では、法学を学ぶ基礎を修得したうえで、わが国の司法制度をその担い手や手続の観点から概観する。また、憲法学、民法学および刑法学について、基本的な考え方を学ぶとともに、各法分野における論点をひとつずつ取り上げ、さまざまな角度から検討する。さらに、最高裁判例などの事例も可能な限り紹介し、考察を加える。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わが国の司法制度の枠組みを理解し、これからの司法制度のあり方を考えるための基礎的な知識を身につけること</li> <li>・法学を学んでいくうえで必要な能力(六法全書の使い方や条文・判例の読み方等)を身につけること</li> <li>・論理的に思考し、法を根拠として自分の意見を表明できるようになること</li> </ul>		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	コミュニティデザイン学科専門科目社会システム領域科目群の科目として、地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力を身に付ける。		
前提とする知識／Prerequisites	特になし		
関連科目／Related Courses	基盤教育科目:「日本国憲法」および「法学入門」 専門科目:「憲法」、「民法」および「行政法」		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義形式で行う。毎回配付するレジュメに従って講義をすすめる。 AL20:提出レポートに対する添削、授業時間での討論など参加型の学修を取り入れ、能動的学修活動を保証する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回 ガイダンス、法学を学ぶ意義 第2回 法とは何か、法の位置づけ(国際法を含む) 第3回 法の解釈と三段論法、法的意見表明の技術 第4回 憲法(1)憲法の存在意義 第5回 憲法(2)憲法の事例検討 第6回 民法(1)民法の基本原則 第7回 民法(2)民法の事例検討 第8回 刑法(1)刑法の基本原則 第9回 刑法(2)刑法の事例検討 第10回 わが国の司法制度(1)わが国の裁判制度、裁判所の種類 第11回 わが国の司法制度(2)民事裁判と刑事裁判 第12回 わが国の司法制度(3)司法の担い手たち(裁判官・検察官・弁護士) 第13回 わが国の司法制度(4)裁判員制度の概要 第14回 わが国の司法制度(5)裁判員制度の意義と課題 第15回 まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	最新版の六法(ポケット六法(有斐閣)またはデイリー六法(三省堂))を毎回持参すること。レジュメや資料は、こちらで用意し配付する。参考文献等は、適宜紹介する。 教科書は以下の物を指定する。2冊とも購入すること。 伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第4版〕』(有斐閣、2005年) 市川正人・酒巻正・山本和彦『現代の裁判〔第6版〕』(有斐閣、2013年)		
成績評価の方法／Evaluation	学期末試験(論述式)で評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	身近な事例を素材にした議論を通じて、法学の面白さを体感してもらいたい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes	このシラバスに記載されている授業計画等は、平成28年度に教育学部にて開講される「法学概論」の内容です。 コミュニティデザイン学科においては、平成29年度以降に履修が可能になりますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	憲法		
担当教員(所属)／Instructor	石川 裕一郎(国際学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R222005
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	石川 裕一郎(yuichiro@gol.com)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	石川 裕一郎(講義期間中の金曜日 17:40-以降に「憲法」講義の教室にて、あるいはメールで事前に連絡をください。)		
授業の内容／Course Description	憲法における人権および統治機構の両分野を取り上げる。		
授業の達成目標／Course Goals	社会で生起する様々な問題を法的論理に基づいて考えることができるようになることを目指す。あわせて、毎講義後にリアクションペーパーを書き、次の講義でフィードバックすることにより、論理的な文章の作成能力養成をも企図している。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	憲法の主たる役割である人権保障のメカニズムと、それを支える統治機構の原理を習得する。憲法学を通して、国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけると同時に、異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができるようになることをめざす。 コミュニティデザイン学科専門科目社会システム領域科目群の科目として、地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力を身に付ける。		
前提とする知識／Prerequisites	前提とする知識：特になし		
関連科目／Related Courses	関連する科目：「法学入門」「日本国憲法」(基盤教育科目)「国際法」「国際人権法」(専門科目)		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	下記【授業計画】に沿って進めるが、できるだけアクチュアルな話題を取り上げたいので、実際の内容・順番には多少変更がありえる。また、受講者全員には毎回講義内容についてリアクションペーパーを作成してもらう。なお、原則として講義レジュメは事前に配布するので、予めそれに目を通しておき、講義後も読み返すことを予習・復習として求める。 AL20：講義で取り上げた課題についてグループ討議を実施する		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 はじめに 第2週 人権総論 第3週 信教の自由 第4週 政教分離原則 第5週 思想・良心の自由 第6週 表現の自由 第7週 刑事手続き上の人権保障 第8週 労働基本権 第9週 生存権 第10週 教育権 第11週 経済的自由権 第12週 参政権 第13週 国会・内閣・裁判所 第14週 地方自治・違憲立法審査権 第15週 まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	特定の教科書は用いず、毎回レジュメ・資料をこちらで用意、配布する。		
成績評価の方法／Evaluation	平常点(リアクションペーパーの記述状況)80%+期末レポート20%で評価する。単なる「出席」、すなわち物理的に教室に存在するだけでは平常点にはならない。		
学習上の助言／Learning Advice	テレビや雑誌に登場する、いわゆる「識者」や「評論家」の通り一遍の言説に飽き足らない、知的誠実さを備えた学生諸君の受講を期待する。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes	このシラバスに記載されている授業計画等は、平成28年度に国際学部にて開講される「憲法」の内容です。 コミュニティデザイン学科においては、平成29年度以降に履修が可能になりますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	民法		
担当教員(所属)／Instructor	杉田 明子(その他)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R222006
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	杉田 明子(授業時間後に、当該教室または非常勤講師室において)		
授業の内容／Course Description	民法は日常生活に直結する、非常に身近な法律である。民法の基礎知識を学びながら、日常生活とどのように関わるのか、これらの知識を用いて日々の生活において直面する問題にどのように対応したらいいのか、を考える。		
授業の達成目標／Course Goals	民法の基本原則や基礎知識の習得を主な目的とするが、単に条文の内容や知識を学ぶだけでなく、民法の学習を通じて法的なものの考え方も習得する。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。 (B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。 コミュニティデザイン学科専門科目社会システム領域科目群の科目として、地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力を身に付ける。		
前提とする知識／Prerequisites	特になし		
関連科目／Related Courses	特になし		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	民法の基礎知識につき、レジュメに従って講義する。また、演習問題(事例)にも取り組む。 AL20：講義で取り上げた課題についてグループ討議を複数回実施する		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 民法について 第2週 意思表示(契約はどのように成立するか) 第3週 代理 第4週 契約総論 第5週 契約各論1 - 売買契約 第6週 契約各論2 - 賃貸借契約 第7週 契約各論3 - 消費貸借契約(消滅時効・保証契約など) 第8週 契約各論4 - 雇用契約 第9週 契約各論5 - 雇用契約2 第10週 不法行為 第11週 物に対する権利(所有権・担保権など) 第12週 婚姻・離婚 第13週 親子関係 第14週 相続 第15週 まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	六法は必ず持参してください。参考書等は、初回講義時に紹介します。		
成績評価の方法／Evaluation	学年末のレポート結果を評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	皆さんは、これまで法律を学ぶ機会はありませんでしたが、交通事故を起こしてしまった場合どうしたらいいのか、アパートから引っ越しをする際に敷金を返してくれないときはどうしたらいいのか、など日常生活で生じる様々な問題の解決には、民法の知識が不可欠です。また、民法を含む様々な法律にかかわる問題は、毎日のように新聞記事やテレビのニュースなどで取り上げられています。興味関心を持ってこれらの記事やニュースなどに目を通すようにしてください。講義の際は、民法の条文を参照しますので、六法は必ず持参してください。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes	このシラバスに記載されている授業計画等は、平成28年度に国際学部・教育学部にて開講される「民法」の内容です。 コミュニティデザイン学科においては、平成29年度以降に履修が可能になりますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	プロジェクト評価論		
担当教員(所属)／Instructor	阪田 和哉(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R222014
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	阪田 和哉(028-689-6220 k-sakata@cc.utsunomiya-u.ac.jp 陽東地区10号館6階10-604号室 ※ オフィスアワー訪問の空振りを避けたい場合は事前にメール等で予約することをお勧めする。)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	阪田 和哉(前期：木曜日15：00～16：00 後期：月曜日15：00～16：00 ※ 会議などの理由で留守の場合もある。上記以外の時間帯も在室中に対応する。)		
授業の内容／Course Description	まちづくり、地域づくりのプロジェクト(公共事業やイベントなど)を経済評価する手法を学習する。 費用便益分析を中心に、便益の計測手法や、実務的に活用されている事業評価マニュアルの内容、理論的・実務的背景、課題などを学習する。 プロジェクトの経済評価の際には、効果・便益の計測手法が難しいとされており、この科目では、便益計測手法として、CVM、TCM、ヘドニックアプローチ、コンジョイント分析を取り上げ、その理論、手順、適用・研究事例、課題について学習する。		
授業の達成目標／Course Goals			
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	コミュニティデザイン学科専門科目社会システム科目群の科目として、「地域社会の課題を発見するとともに、分析することができる能力」を身に付ける。		
前提とする知識／Prerequisites			
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	AL20：便益計測や費用便益分析の学習にあたっては、データを用いて自身で分析・計算を行うことで、技術の修得を図る。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule			
教科書・参考書等／Textbooks			
成績評価の方法／Evaluation			
学習上の助言／Learning Advice			
キーワード／Keywords			
備考／Notes	今年度は開講されません。 平成30年度から開講されますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	環境・資源経済学		
担当教員(所属)／Instructor	加藤 弘二(農学部農業経済学科)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R222016
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	経済学(主にミクロ経済学)の理論をベースに、環境・資源問題がなぜ起こっているのか、どのような方法で解決することが可能であるかを理解する。		
授業の達成目標／Course Goals	環境税や排出権取引制度など環境政策手段の基本的な考え方を理解するとともに、現状の環境・資源問題と経済との関係を知る。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	コミュニティデザイン学科専門科目社会システム領域科目群の科目として、新たなまちづくりに向けて制度を設計し政策を提案することができる能力を身に付ける。		
前提とする知識／Prerequisites	「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」を受講していることが望ましい。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	毎回配布するプリントに沿って講義を行う。 AL20:講義形式を基本とする。提出レポートに対する添削、授業時間での討論など参加型の学修を取り入れ、能動的学修活動を保証する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	1) 経済成長と持続可能な発展 2) 競争市場の効率性 3) 市場の失敗と環境問題 4) 環境政策その1, 環境税 5) 環境政策その2, 排出権取引制度 6) プロパティライトと環境問題 7) 自然資源の最適利用 8) 再生可能資源 9) 再生可能資源の最適利用 10) 漁業資源管理 11) コモンズ 12) 費用便益分析と環境評価 13) 農産物貿易と日本農業 14) 農産物貿易と農村環境 15) 貧困問題と環境・資源		
教科書・参考書等／Textbooks	特に指定しない。		
成績評価の方法／Evaluation	期末試験(100%)		
学習上の助言／Learning Advice	環境問題に対する経済学からのアプローチを学びます。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes	このシラバスに記載されている授業計画等は、平成28年度に農学部にて開講される「環境・資源経済学」の内容です。 コミュニティデザイン学科においては、平成30年度以降に履修が可能になりますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	地域福祉論		
担当教員(所属)／Instructor	長谷川 万由美(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R224004
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	長谷川 万由美(mayumit@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	地域福祉の現状と課題を把握し、社会福祉援助技術としての地域援助の方法について学ぶ。		
授業の達成目標／Course Goals	自ら主体的に地域の課題を見つけ、解決の方法を検討できる知識と技術を身につける。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	コミュニティデザイン学科専門科目地域実践領域科目群の科目として、地域社会の課題を発見するとともに、分析することができる能力を身に付ける。		
前提とする知識／Prerequisites	地域に対して関心をもてること。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	AL50：授業計画に沿って、調査設計や実査を行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第一回オリエンテーション 第二回調べたいテーマ 第三回地域福祉の概要(1) 第四回地域福祉の概要(2) 第五回地域福祉援助の基本(1) 第六回地域福祉援助の基本(2) 第七回社会福祉調査の基本(1) 第八回社会福祉調査の基本(2) 第九回地域調査の実施(1) 第十回地域調査の実施(2) 第十一回地域調査の実施(3) 第十二回調査結果のまとめ(1) 第十三回調査結果のまとめ(2) 第十四回追加調査の実施 第十五回全体の振り返り		
教科書・参考書等／Textbooks	授業の中で指示します		
成績評価の方法／Evaluation	授業内レポート60%最終レポート40%		
学習上の助言／Learning Advice	地域での調査など時間外の作業も必要となります。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes	このシラバスに記載されている授業計画等は、平成28年度に教育学部にて開講される「地域福祉論」の内容です。 コミュニティデザイン学科においては、平成29年度以降に履修が可能になりますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	社会教育計画Ⅱ		
担当教員(所属)／Instructor	佐々木 英和(教育学研究科 修士課程)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R224006
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	佐々木 英和(sasakih@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	佐々木 英和(火曜日11:00-12:00)		
授業の内容／Course Description	社会教育主事有資格者にふさわしい実力を着実に身につけるために、応用的・実践的な授業を進め、学生が自らを研鑽する中で、「生涯学習まちづくり」における有効な手法として社会教育計画を作成することの意義を学んでもらう。なお、本授業では、コミュニティデザイン学科専門科目地域実践領域科目群の科目として、新たなまちづくりに向けて制度を設計し政策を提案することができる能力を身に付けることをめざす。		
授業の達成目標／Course Goals	実際に社会教育主事として働く場合には、どのような力量や心構えが必要かを自覚し、それを実行・実現できるようにする。また、社会人基礎能力の習得も視野に入れて、授業を進める。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	社会教育計画Ⅱは、大学の社会教育主事養成コースにおける教育内容のうち、「地域社会と社会教育」「学習情報提供と学習相談」「社会教育と広報・広聴」「社会教育の評価」について深めることを目標としたものである。		
前提とする知識／Prerequisites	社会教育計画Ⅱは、社会教育計画Ⅰと併せて、社会教育主事の資格取得のための必修科目である。原則として、生涯学習概論・生涯学習社会論・社会教育計画Ⅰを単位取得しておくこと。		
関連科目／Related Courses	社会教育計画Ⅱは、社会教育計画Ⅰと併せて、社会教育主事の資格取得のための必修科目である。原則として、生涯学習概論・生涯学習社会論・社会教育計画Ⅰを単位取得しておくこと。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	最初は、参加体験型学習が効果的に行われるための基礎的な授業を、講師主導で進めていく。その後は、学生主導型で積極的に進めざるを得ない構成にする。AL80：指定されたテーマについて学習した成果をグループ発表し相互評価し合うことが要求される。また、司会として発表全体を調整する機会も設ける。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 オリエンテーションおよび履修選抜 第2週 創造性開発トレーニング&コミュニケーション・トレーニング 第3週 グループづくり&発表順番決め 第4週 グループ発表(生涯学習概念)&講話 第5週 グループ発表(地域参画力)&講話 第6週 グループ発表(教育概念)&講話 第7週 グループ発表(教育技法)&講話 第8週 グループ発表(生涯学習啓発資料)&講話 第9週 グループ発表(生涯学習プラン)&講話 第10週 グループ発表(生涯学習プログラム)&講話 第11週 グループ発表(生涯学習テクニック)&講話 第12週 個人1分プレゼンテーション&講話 第13週 啓発資料コンペ&講話 第14週 総括および補足(全体コミュニケーションなど) 第15週 まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	①鈴木真理・佐々木英和編『社会教育と学校』学文社、2003年 ②倉内史郎・鈴木真理編『生涯学習の基礎』学文社、1998年		
成績評価の方法／Evaluation	出席状況が整っていることが、単位取得のための必須条件である(50%)。他には、グループ活動、グループ成果物、個人プレゼンテーション、最終レポートなどの質に対する評価(50%)により加点する。		
学習上の助言／Learning Advice	単に机上の理論の表面的な習得で終わることのないよう、授業時間以外にもグループ活動を行わざるをえないなど、多大な学習時間を要するような授業構成にする。これに対する覚悟ができていない人、このような状況ゆえに魅力を感じる人の受講を希望する。なお、初回の授業で履修希望アンケートを配布し、それを提出してもらった人を対象として受講者を決定するので、やむをえない理由で初回に出席できなさそうな人は、事前に担当教員まで連絡すること。		
キーワード／Keywords	生涯学習。社会教育。学校教育。コミュニケーション。自己表現。		
備考／Notes	このシラバスに記載されている授業計画等は、平成28年度に教育学部にて開講される「社会教育計画Ⅱ」の内容です。コミュニティデザイン学科においては、平成30年度以降に履修が可能になりますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	防災マネジメントⅠ		
担当教員(所属)／Instructor	近藤 伸也(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R225001
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	近藤 伸也(028-689-6212 kondos@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	近藤 伸也(授業時間中、またはe-mailによる予約)		
授業の内容／Course Description	近年、地震、津波、洪水、土石流、高潮、竜巻など過去に例をみないような自然災害が頻発しています。本講義は、これらの自然災害の発生メカニズム、防御・軽減対策、災害時の危機管理および災害後の復旧に向けた防災計画の立案・策定に必要な基礎知識を身につけることをねらいとしています。		
授業の達成目標／Course Goals	本講義では、1. 災害の特性や発生メカニズムに関する知識を身につける。2. 平時の防災対策、災害発生後の危機管理の基本や災害後の復旧を視野に入れた防災マネジメントの考え方を身につける。3. さらに国内外を問わず行われている先進事例を含め、実社会における防災対策の実現に向けた視点と留意点を理解することを目標とします。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	コミュニティデザイン学科専門科目他学科科目として、地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力を身に付ける。  社会基盤デザイン学科の学習・教育目標「(F) 社会基盤整備の実務上の問題に専門知識を適用・発展することができる」「(G) 社会基盤の世界的動向を把握して、グローバルな技術展開ができる」「(H) 社会基盤整備による問題解決のための適切な施策を提案することができる」に寄与する。		
前提とする知識／Prerequisites	特に必要なし		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義はパワーポイントを中心に視覚的に情報を提供し、各テーマの理解促進を図ります。また、学生の理解度を高めるために、講義の内容に関する宿題の内容をもとに学生との対話を促しながら、進めていきます。 AL:20: 各回の授業で、その授業内容に即した宿題(練習問題と疑問点・意見)を課し、その日のうちに提出させる。次回授業までに提出物をチェックし、次回授業時にコメントを述べ、理解度の向上を図る。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 講義概要と防災マネジメントの基礎 第2週 災害の特性・発生メカニズム:地震災害 第3週 災害の特性・発生メカニズム:風水害 第4週 災害の特性・発生メカニズム:土砂災害 第5週 災害の特性・発生メカニズム:津波・高潮災害 第6週 予報・警報 第7週 初動期 第8週 応急期 第9週 復旧・復興期 第10週 災害事例1:地震災害 第11週 災害事例2:風水害・土砂災害 第12週 災害事例3:津波・高潮災害 第13週 実効的な防災対策の考え方 第14週 先進的な防災対策事例 第15週 次の大災害に向けて:とりまとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	参考資料は授業で配布する。		
成績評価の方法／Evaluation	成績は各回の授業で出す内容に即した宿題課題(40%)、および期末レポート(60%)で評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	皆さんが社会で生活していると、災害は切り離せない存在です。自分の生活と講義内容を頭の中でリンクさせて、災害を身近なものとして考えられるようにしましょう。		
キーワード／Keywords	コミュニティデザイン学科 防災、減災、災害、震災、風水害、火山災害、土砂災害		
備考／Notes	この科目は、コミュニティデザイン学科においては、平成29年度以降に履修が可能になりますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		



授業科目名(英文名) ／Course Title	地区計画		
担当教員(所属)／Instructor	長田 哲平(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R225004
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	長田 哲平(E-mail : osada-teppey@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	長田 哲平(・火曜日:10:00～12:00 ※事前にメール予約願います。 ・在室時の随時対応可(8-303) ・講義実施日の講義時間前後および休憩時間に対応)		
授業の内容／Course Description	前半は佐藤教員が、また後半は長田教員が行う。日常生活の身近な範囲である地区を主な対象として、まちづくりとコミュニティの概念の基礎的な理解をもとに、住民参加を推進するコミュニティ計画、地区計画のあり方を解説する。さらに、市街地の具体的な事例を通して計画の進め方と事業制度の根拠を学ぶ。		
授業の達成目標／Course Goals	1. 法定地区計画および自治体まちづくり条例にもとづく地区計画など、地区レベルの計画に必要な基礎的な概念と手法として下記を修得する。 1) まちづくりの概念と地区計画との係わり 2) まちづくり条例とまちづくり規範 3) コミュニティと住民参加 2. 具体的な事例を通して、地区計画の内容と整備手法を理解する。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	コミュニティデザイン学科専門科目他学科科目として、地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力を身に付ける。		
前提とする知識／Prerequisites	・コミュニティデザイン学科にあっては、・・・		
関連科目／Related Courses	・コミュニティデザイン学科にあっては、・・・		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	授業は必要に応じて資料やパワーポイントなどのAV教材を使用し、受講生の理解を促す。前半は主に資料に基づいて講義を行う。毎回、最後に講義内容について小レポートを課す。後半は、教科書の解説と宇都宮市での事例の解説を行い、課題に関するレポートを課す。  AL50:前半では毎回小レポートを行うとともに、後半の講義では毎回、講義内容の理解を促すために講義メモを配布し、記入回収する。適宜、コメントなどを記入させて、学生の理解度を確認しながら講義を進める。また、それとは別に課題レポートを課して地区計画について自身で探求をさせる。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	■佐藤教員担当 1. 地区計画とは 2. 地区計画の諸タイプ 3. まちづくり条例と地区計画 4. まちづくり規範 5. コミュニティと地区計画 6. 住民参加による地区計画 7. 震災復興としての地区計画 8. まとめと中間試験  ■長田教員担当 9. 身体尺度 10. 市街地開発事業の位置づけ概要 11. 土地区画整理事業 12. 市街地再開発事業 13. 法定地区計画 14. 市街地開発事業と交通 15. 景観計画		
教科書・参考書等／Textbooks	「新・都市計画概論」加藤晃竹内伝史編 共立出版株式会社 必要に応じてプリントを配布する。		
成績評価の方法／Evaluation	前半は試験(40%)に小レポートの内容(10%)を加味して評価する。後半は課題に対するレポート(50%)で評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	地区計画は制度として一律の固定化されたものではなく、自治体や地区住民の取組により、また、地区が置かれたさまざまな問題に応じて多様であり、変化しつつある。都市や地区をめぐる問題や新たな動向に関心をもつよう心がけてほしい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes	この科目は、コミュニティデザイン学科においては、平成30年度以降に履修が可能になりますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	高齢者防災論		
担当教員(所属)／Instructor	古賀 誉章(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R225005
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact	古賀 誉章(koga-t@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours	古賀 誉章(e-mailで予約をとってから質問や相談に応じる。)		
授業の内容／Course Description	心身機能が衰えてくる高齢期には、それまでにない災厄に見舞われやすくなってしまいます。ただ災厄といっても、天災・人災から事故や犯罪などさまざまです。本科目では、高齢者をはじめとする乳幼児・障がい者ら災害弱者に対する防災について広く学び考えることで、万人の安心と安全につながる知識を得ることを目指します。具体的には、災厄の種類と特徴、安心と安全の関係、高齢者等の感覚・知覚・行動・心理の特性、日常生活での予防、罹災時の対応、罹災後のケアなどをテーマにしていく。		
授業の達成目標／Course Goals	本講義によって、高齢者の特性や被災時の人の行動について理解し、災害弱者をはじめとした様々な人々の防災に役立つ知識を得ることを、を目標とします。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	コミュニティデザイン学科専門科目他学科科目として、地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力を身に付ける。		
前提とする知識／Prerequisites	特にありません。		
関連科目／Related Courses	相手の立場になって考えられるようになるためには、「バリアフリー建築論」や高齢者・障害者を主題とした講義を受講していることが望ましい。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	原則毎回、自ら考えるような小課題を出題する。 さらに数回ごとにグループに分かれて、調べ学習や議論・提案発表などを行う。（AL50）		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第1回 災厄の種類と特徴 1 第2回 災厄の種類と特徴 2 第3回 安心と安全の関係 1 第4回 安心と安全の関係 2 第5回 高齢者等の感覚・知覚の特性 1 第6回 高齢者等の感覚・知覚の特性 2 第7回 高齢者等の行動・心理の特性 1 第8回 高齢者等の行動・心理の特性 2 第9回 日常生活での予防 1 第10回 日常生活での予防 2 第11回 罹災時の対応 1 第12回 罹災時の対応 2 第13回 罹災後のケア 1 第14回 罹災後のケア 2 第15回 まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	（教科書）指定しません。 （参考書）未定。講義で伝えます。		
成績評価の方法／Evaluation	授業出席回数3分の2以上の受講者を対象に、小課題レポート、期末試験を総合的に評価し、原則として、90点以上を秀、80点以上を 優、70点以上を良、60点以上を可とします。		
学習上の助言／Learning Advice	自分と異なる特性の人間の存在を認め、尊重し、理解しようとする姿勢が大切だと思います。		
キーワード／Keywords	高齢者、障害者、乳幼児、災害弱者、防災、予防、減災、ケア、安心、安全		
備考／Notes	この科目は、コミュニティデザイン学科においては、平成30年度以降に履修が可能になりますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	バリアフリー建築論		
担当教員(所属)／Instructor	古賀 誉章(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R310017
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact	古賀 誉章(koga-t@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours	古賀 誉章(e-mailで予約をとってから質問や相談に応じる。)		
授業の内容／Course Description	あらゆる人々が自立した社会生活を送れるようになることが、現代社会においては理想とされています。そのための障壁を取り除くのが、バリアフリーであり、ユニバーサルデザインです。そこで、本科目では建物・空間におけるバリアフリー・ユニバーサルデザインについて、学び考えるものとします。具体的には、バリアフリー・ユニバーサルデザインの考え方、体験、バリアフリー法の概要、事例紹介、点検などを通じて、新しい手法の提案まで行います。		
授業の達成目標／Course Goals	本講義によって、バリアフリー・ユニバーサルデザインに関する基本的な考え方と代表的な事例に対して理解すること、また様々な人々の行動に関して思慮できるようになること、を目標とします。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	建築都市デザイン学科の学習・教育目標とは、以下の3つと関係します。 (3)人間と社会・文化、地域に関する基礎的教養を身に付ける。 (4)建築・地域デザイン技術者としての倫理観を養う。 (6)人間および社会の要求・条件を理解し、建築・地域・環境・制度を構築する能力を身に付ける。		
前提とする知識／Prerequisites	特にありません。		
関連科目／Related Courses	計画学の基礎である「建築計画学Ⅰ」を履修していることが望ましいです。 また、この科目で学習したことは、各設計製図課題や建築計画学Ⅱ・Ⅲ・Ⅳにおいても有用な内容です。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	原則毎回、自ら考え理解するために小課題をだします。 また、数回ごとにグループ作業をします。(AL50) テーマとしては、 ・バリアの疑似体験 ・施設や街のバリアの点検 ・新しいバリアフリー・ユニバーサルデザインの手法を議論して提案する、 等を予定しています。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第1回 バリアフリー、ユニバーサルデザインとは 第2回 バリアの疑似体験1 第3回 バリアの疑似体験2 第4回 施設や街のバリア点検1 点検の方法 第5回 施設や街のバリア点検2 点検の実施 第6回 施設や街のバリア点検3 点検結果の整理 第7回 施設や街のバリア点検4 点検結果のまとめ・解説 第8回 手法の調査1 調査の方法 第9回 手法の調査2 調査の実施 第10回 手法の調査3 調査結果の集約 第11回 手法の調査4 結果のまとめ・解説 第12回 新しい手法の提案1 発想のヒント 第13回 新しい手法の提案2 発想の検討 第14回 新しい手法の提案3 デザインの深化 第15回 新しい手法の提案4 提案の発表・講評		
教科書・参考書等／Textbooks	(教科書) 指定しません。 (参考書) 講義で伝えます。		
成績評価の方法／Evaluation	授業出席回数3分の2以上の受講者を対象に、小課題レポート、期末試験を総合的に評価し、原則として、90点以上を秀、80点以上を 優、70点以上を良、60点以上を可とします。		
学習上の助言／Learning Advice	世の中には様々なハンデを持っている人がいます。文字が読めないことも、大きな荷物を持っていることも、時に大きなハンデとなります。それぞれの人の立場に立って空間を見るように、普段から気をつけてみてください。		
キーワード／Keywords	バリアフリー、ユニバーサルデザイン、高齢者、障害者、車イス		
備考／Notes	2017年度用（2016年度入学者用）		

授業科目名(英文名) ／Course Title	設備工学Ⅰ		
担当教員(所属)／Instructor	郡 公子(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R310018
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	郡 公子(689-6232 hot@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	郡 公子(火曜日11:00-12:00 10号棟6F)		
授業の内容／Course Description	建築設備は、建築室内環境を良好にし、人の活動を支援するためにある。ただし、室内環境を良好にするには、建築設備以前に建築自体の性能をも高くする必要がある。設備工学Ⅰでは、建築と設備の環境調整性能について、電気設備・給排水設備・空調設備の使命、仕組み、主要な機器構成など設備全般の概要について講義する。		
授業の達成目標／Course Goals	建築設備全般に関する基本知識を修得する。具体的な目標は以下である。 ・自然、周囲環境との調和、建築と建築設備の協調が重要であることを理解する。 ・建築設備に関連する人の生理・健康性・快適性及び環境の基本を理解する。 ・建築設備システムを構成する主要な機器の役割と機器同士のつながりを理解する。 ・身近にある建築設備とその機能に関心をもつ。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	建築・都市デザイン学科の学習・教育目標のなかの以下の目標と関係する。 (4)建築・地域デザイン技術者としての倫理観を養う (6)人間および社会の要求・条件を理解し、建築・地域・環境・制度を構築する能力を身に付ける		
前提とする知識／Prerequisites	高等学校までに学ぶ物理と数学の知識		
関連科目／Related Courses	高等学校までに学ぶ物理と数学の知識		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義は、配布資料、教科書をもとに行う。ミニ演習やレポート課題の出題もある。なお、工学倫理・研究者倫理についてもふれる。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	基本的に次の流れで行う。ただし、部分的に内容や順序を変更する場合がある。 第1週 オリエンテーション(講義概要、実務との関連、資格など) 第2週 建築と建築設備 第3週 建築設備と都市設備の関係 第4週 高性能住宅の事例 第5週 電気設備の構成 第6週 給排水衛生設備の構成 第7週 空調設備の構成と目的 第8週 温熱感と温熱環境要素のコントロール 第9週 空調熱負荷要素 第10週 給排水衛生設備の目的 第11週 給水・給湯方式と原理 第12週 トラップ類・通気の方式の原理 第13週 排水方式、浄化方式と原理 第14週 照明設備と搬送設備 第15週 建築事例紹介		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書：なし 参考書：建築設備学教科書研究会著、建築設備学教科書、彰国社		
成績評価の方法／Evaluation	・2/3以上の出席回数を満たさない場合は評価の対象にならない。 ・レポートの評価を2割、期末試験結果を8割の重みで総合得点を算出し、原則的に、得点が満点に対して90%以上のとき秀、75%以上のとき優、60%以上75%未満のとき良、50%以上60%未満のとき可、50%未満のときは不可と評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	人間が安全で快適に生活し効率的に活動するため、あるいは高品質の生産を行うために必要となる諸機能と設備全般の機器構成を理解して下さい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	建築材料Ⅰ		
担当教員(所属)／Instructor	杉山 央(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R310019
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact			
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours			
授業の内容／Course Description	建築物を構成する種々の材料のうち、主要な構造材料であるコンクリートおよび鋼材の特性や性能等を学習する。		
授業の達成目標／Course Goals	建築材料の特性や性状変化のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身に付ける。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	下記の建築都市デザイン学科の学習・教育目標に対応する。 (4) 建築・地域デザイン技術者としての倫理観を養う (5) 自然現象のメカニズムを理解し、建築・地域デザイン技術に活かす能力を身に付ける (7) 資源活用と建設プロセスを構想し、建築・まちづくりとして実現する能力を身に付ける		
前提とする知識／Prerequisites	高等学校・大学教養の数学、力学および化学の初歩の知識を習得しておくこと。		
関連科目／Related Courses	高等学校・大学教養の数学、力学および化学の初歩の知識を習得しておくこと。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	教科書の内容を中心とした講義を行うが、適宜、プロジェクトによる画像投影やプリント配付などにより、具体的な例を紹介する。なお、工学倫理および研究者倫理についても講義する。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第1週：ガイダンス・建築材料の分類と規格 第2週：コンクリートの特徴および構成材料Ⅰ（セメント） 第3週：コンクリートの構成材料Ⅱ（骨材および混和材料） 第4週：フレッシュコンクリートの性質 第5週：硬化したコンクリートの性質Ⅰ（強度性状） 第6週：硬化したコンクリートの性質Ⅱ（収縮および火・熱に対する性質） 第7週：コンクリートの耐久性Ⅰ（ひび割れ、中性化） 第8週：コンクリートの耐久性Ⅱ（塩害、アルカリ骨材反応、凍害） 第9週：コンクリートの調合設計 第10週：各種コンクリート 第11週：鉄類の分類・製造・加工 第12週：炭素鋼の性質・種類 第13週：炭素鋼以外の鉄類・鉄類以外の金属・合金 第14週：金属製品 第15週：建築材料の規格に関連した工学倫理および研究者倫理		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書「建築材料第四版」橘高・杉山著 市ヶ谷出版社		
成績評価の方法／Evaluation	講義における演習（30％）と期末試験（70％）を総合評価する。総合点100点に対して60点以上を得点した場合に目標が達成されたとする。		
学習上の助言／Learning Advice	建築構造材料であるコンクリートや鋼材に関する知識は、建築物の設計・施工において不可欠であり、建築士の受験に際しても必ず出題される。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	社会調査法		
担当教員(所属)／Instructor	佐藤 栄治(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R320005
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /Oth.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact	佐藤 栄治(e-satoh@cc.utsunomiya-u.ac.jp, 028-689-6202)		
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours	佐藤 栄治(e-mail等で予約を取って質問, 相談に応じる)		
授業の内容／Course Description	地域課題の把握, 発見の基礎となる各種社会調査法に関する専門的、技術的な事項について解説する。		
授業の達成目標／Course Goals	本講義の達成目標は, 各種社会調査法に関する専門技術の知識とそれらをもちいて地域を分析できる能力を養うことである。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	建築都市デザイン学科の学習・教育目標との関係: 4. 建築・地域デザイン技術者としての倫理観を養う。 6. 人間および社会の要求・条件を理解し, 建築・地域・環境・制度を構築する能力を身に付ける。 に関連する。		
前提とする知識／Prerequisites	地域に興味を持ち, 地域の課題をどのようにとらえるかの論理的思考のトレーニングを積むことが必要である。		
関連科目／Related Courses	情報処理基礎科目, 地域デザイン訪問等の1年次, 2年次前期の学部必修科目の知識が必要である。またGIS演習と並行して履修することが望ましい。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義中心に進めるが, 具体的な事例にあたるのが社会調査法を理解する上で不可欠である。そのために, 毎回の講義に関連する資料の配付, スライドによる事例紹介を織り交ぜながら理解を深めるようにする。また講義の理解を深めるために, グループ課題を課す。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	1. ガイダンス, 社会調査法のご概念と種類 (佐藤) 2. データの量と質, 公開データと収集データ (佐藤) 3. データの可視化 (佐藤) 4. 広域人口データ分析の実例 (佐藤) 5. 地域の課題とデータ分析①, グループごとに課題設定, データ収集 (佐藤) 6. 地域の課題とデータ分析②, データ分析とプレゼン資料作成 (佐藤) 7. 地域の課題とデータ分析③, プレゼンテーション (佐藤) 8. 環境心理と評価 (古賀) 9. 心理評価とデータ分析①, グループごとに課題設定, データ収集 (古賀) 10. 心理評価とデータ分析②, データ分析とプレゼン資料作成 (古賀) 11. 心理評価とデータ分析③, プレゼンテーション (古賀) 12. マーケティングと製品 (糸井川) 13. マーケティングとデータ分析①, グループごとに課題設定, データ収集 (糸井川) 14. マーケティングとデータ分析②, データ分析とプレゼン資料作成 (糸井川) 15. マーケティングとデータ分析③, プレゼンテーション (糸井川)		
教科書・参考書等／Textbooks	講義で資料は, 各回に配布する。また演習等で必要な資料は各自で収集, 持参する。		
成績評価の方法／Evaluation	出席, プレゼンテーション, 筆記試験を総合的に評価する。 成績は, 秀 (90点以上), 優 (80点以上), 良 (70点以上), 可 (60点以上), 不可の5段階で評価する。 また, 授業期間の3分の1以上の欠席は認めない。		
学習上の助言／Learning Advice	本科目は選択科目になっているが, 社会調査法を知ることは, 課題の的確な整理, 問題抽出等に大いに有効である。		
キーワード／Keywords	調査手法, 情報, 大容量データ		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	環境工学Ⅱ		
担当教員(所属)／Instructor	横尾 昇剛(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R320009
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	建築環境および都市環境に関する講義を行なう。光、熱、空気、音に関する計算方法、建築・都市の総合的な環境性能評価、ライフサイクル評価について取り扱う。またグループによる調査・分析・討論を行い、建築環境、地域環境についての理解を深める。		
授業の達成目標／Course Goals	1. 建築内外の環境を構成する物理的要素を理解し、優れた環境を創造するための技術を学ぶ。 2. 建物が外部環境に及ぼす影響と環境負荷削減方法について学ぶ。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	(5)自然現象のメカニズムを理解し、建築・地域デザイン技術に生かす能力を身につける。		
前提とする知識／Prerequisites	共通専門基礎科目、共通専門科目で学ぶ一般的な数学、物理をよく理解しておくことが必要である。		
関連科目／Related Courses	共通専門基礎科目、共通専門科目で学ぶ一般的な数学、物理をよく理解しておくことが必要である。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義と演習が主体であるが、パッシブデザインや環境配慮を行なった先進的な建物事例、都市再開発事例を随時、紹介する。環境工学に関する小課題を出し、次の授業では小課題の解答例や考え方について振り返る。またグループ課題を行い、共同作業を通じて、熱負荷対策、昼光利用、自然換気利用、再生可能エネルギー利用、資源消費対策等についてのアイデアを討議し発表する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 建築物、地域の総合的な環境性能 第2週～第4週 エネルギー消費、CO2排出量 第5週～第7週 通風の理論と計算法、自然換気デザイン 第8週～第9週 自然エネルギー利用建築(通風および昼光利用) 第10週～第11週 音環境の理論と計算方法 第12週～第13週 建築・都市の環境性能評価 第14週～第15週 建築・都市のライフサイクル評価		
教科書・参考書等／Textbooks	田中俊六他、建築環境工学、井上書店(工学部生協) 都市環境学教材編集委員会、都市環境学、森北出版		
成績評価の方法／Evaluation	1. 2/3以上の出席回数を満たさない場合は、不可とする。 2. 期末試験の採点に基づき、優100～85点、良84点～70点、可69点～60点とする。 60点未満は不可である。なお秀は90点以上で、且つ授業中の質疑、レポートから総合的に判断し、上位5%程度の学生数とする。		
学習上の助言／Learning Advice	環境配慮デザインを行うための基礎的な知識、理論を身につけ、建築物の設計に役立てることが出来るよう期待します。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	防災マネジメントⅠ		
担当教員(所属)／Instructor	近藤 伸也(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R320010
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	近藤 伸也(028-689-6212 kondos@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	近藤 伸也(授業時間中、またはe-mailによる予約)		
授業の内容／Course Description	近年、地震、津波、洪水、土石流、高潮、竜巻など過去に例をみないような自然災害が頻発しています。本講義は、これらの自然災害の発生メカニズム、防御・軽減対策、災害時の危機管理および災害後の復旧に向けた防災計画の立案・策定に必要な基礎知識を身につけることをねらいとしています。		
授業の達成目標／Course Goals	本講義では、１．災害の特性や発生メカニズムに関する知識を身につける。２．平時の防災対策、災害発生後の危機管理の基本や災害後の復旧を視野に入れた防災マネジメントの考え方を身につける。３．さらに国内外を問わず行われている先進事例を含め、実社会における防災対策の実現に向けた視点と留意点を理解することを目標とします。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	社会基盤デザイン学科の学習・教育目標「(F) 社会基盤整備の実務上の問題に専門知識を適用・発展することができる」「(G) 社会基盤の世界的動向を把握して、グローバルな技術展開ができる」「(H) 社会基盤整備による問題解決のための適切な施策を提案することができる」に寄与する。		
前提とする知識／Prerequisites	特に必要なし		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義はパワーポイントを中心に視覚的に情報を提供し、各テーマの理解促進を図ります。また、学生の理解度を高めるために、講義の内容に関する宿題の内容をもとに学生との対話を促しながら、進めていきます。 AL:20: 各回の授業で、その授業内容に即した宿題(練習問題と疑問点・意見)を課し、その日のうちに提出させる。次回授業までに提出物をチェックし、次回授業時にコメントを述べ、理解度の向上を図る。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 講義概要と防災マネジメントの基礎 第2週 災害の特性・発生メカニズム:地震災害 第3週 災害の特性・発生メカニズム:風水害 第4週 災害の特性・発生メカニズム:土砂災害 第5週 災害の特性・発生メカニズム:津波・高潮災害 第6週 予報・警報 第7週 初動期 第8週 応急期 第9週 復旧・復興期 第10週 災害事例1:地震災害 第11週 災害事例2:風水害・土砂災害 第12週 災害事例3:津波・高潮災害 第13週 実効的な防災対策の考え方 第14週 先進的な防災対策事例 第15週 次の大災害に向けて:とりまとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	参考資料は授業で配布する。		
成績評価の方法／Evaluation	成績は各回の授業で出す内容に即した宿題課題(40%)、および期末レポート(60%)で評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	皆さんが社会で生活していると、災害は切り離せない存在です。自分の生活と講義内容を頭の中でリンクさせて、災害を身近なものとして考えられるようにしましょう。		
キーワード／Keywords	建築都市デザイン学科 防災、減災、災害、震災、風水害、火山災害、土砂災害		
備考／Notes	この科目は平成29年度より開講する予定です。		



授業科目名(英文名) ／Course Title	まちづくり特講		
担当教員(所属)／Instructor	石井 大 一 朗(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R320011
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	石井 大 一 朗(電話 028-649-5386 E-mail ish@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	石井 大 一 朗(木曜 7－8限)		
授業の内容／Course Description	地方都市やその周縁部地域における社会構造や人口・世帯構造の変化を整理しつつ、地域問題の傾向を把握する。そして、典型的な地域問題に対するまちづくりの実践例を学び、問題解決に向けて、まちづくりの今後の方向性を議論し、受講生自らがまちづくりリーダーとなることを想定したまちづくりプランを作成する。講義では複数の教員によるオムニバス授業とワークショップを行う。		
授業の達成目標／Course Goals			
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	建築都市デザイン学科の学習教育目標「(3) 人間と社会・文化・地域に関する教養を身につける」の修得に寄与する		
前提とする知識／Prerequisites			
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	AL:50 オムニバス授業では、各テーマごとにレポートの提出を求める。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule			
教科書・参考書等／Textbooks			
成績評価の方法／Evaluation			
学習上の助言／Learning Advice			
キーワード／Keywords			
備考／Notes	今年度は開講されません。 平成29年度から開講されますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	設備工学Ⅲ		
担当教員(所属)／Instructor	郡 公子(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R320022
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	郡 公子(689-6232 hot@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	郡 公子(火曜日11:00-12:00 10号棟6F)		
授業の内容／Course Description	設備工学Ⅲでは、空調設備のうち、主に室内環境を良好に保つためのシステムを講義する。用途に応じた空調方式、空調ゾーニングや空調装置設計法、環境建築設計のための各種手法と設計事例について講義する。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空調機での空気加熱冷却・加湿除湿の原理と特徴を理解し熱量計算ができる。</li> <li>・主要な室内空調方式の特徴、空調ゾーニングと空調方式の選定法を理解する。</li> <li>・省エネルギー技術の特徴を理解し、建築と設備の性能向上の重要性を認識する。</li> <li>・設計製図Ⅴ(事務所)の空調システムのコンセプト提案のための基礎力をつける。</li> </ul>		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	建築都市デザイン学科の学習・教育目標のなかの以下の目標と関係する。 (6)人間および社会の要求・条件を理解し、建築・地域・環境・制度を構築する能力を身に付ける。		
前提とする知識／Prerequisites	「設備工学Ⅰ、Ⅱ」を修得していることが望ましい。		
関連科目／Related Courses	「設備工学Ⅰ、Ⅱ」を修得していることが望ましい。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義は、配布資料、教科書をもとに行う。ミニ演習やレポート課題の出題もある。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	<p>基本的に次の流れで行う。ただし、部分的に内容や順序を変更する場合がある。</p> <p>第1週 オリエンテーション(梗概概要)  第2週 空調機の基本的な機能  第3週 湿り空気と湿度指標  第4週 空調における熱処理と空気の状態変化  第5週 空気状態変化の指標と空気線図  第6週 空調機の設計法  第7週 基本的な空調方式  第8週 進化する空調方式  第9週 外気処理法  第10週 建物用途と空調ゾーニング法  第11週 オフィスビルの空調計画  第12週 高性能窓システムとペリメータ空調  第13週 タスク・アンビエント空調  第14週 自然換気併用空調  第15週 建築事例紹介</p>		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書：なし 参考書：井上宇市編、改訂5版 空気調和ハンドブック、丸善		
成績評価の方法／Evaluation	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2/3以上の出席回数を満たさない場合は評価の対象にならない。</li> <li>・レポートの評価を2割、期末試験結果を8割の重みで総合得点を算出し、原則的に、満点に対して90%以上のとき秀、75%以上のとき優、60%以上75%未満のとき良、50%以上60%未満のとき可、50%未満のときは不可と評価する。</li> </ul>		
学習上の助言／Learning Advice	<ul style="list-style-type: none"> <li>・快適性と省エネルギー性に配慮した空調計画法を身につけて下さい。</li> <li>・建築設計製図Ⅴあるいは卒業設計における環境・エネルギー計画のコンセプト構築、具体的な建築熱設計、設備スペース計画に本講義の学習成果を活かして下さい。</li> </ul>		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	生物多様性論		
担当教員(所属)／Instructor	西尾 孝佳(農学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R320025
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact	西尾 孝佳(電話番号: 028-649-5147 Email: nishio@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours	西尾 孝佳(月曜日午後3時から5時。来室前に電話かEメールで問い合わせて下さい。)		
授業の内容／Course Description	環境破壊の中でも、回復が最も難しいのが生物多様性の破壊です。野生で生活する個体が失われると、その個体群を回復させるのは非常に困難で、絶滅すれば、その種は二度と戻りません。人間は生態系がもたらす様々なサービスに完全に依存していて、そのサービスの相当部分を生物多様性がもたらしています。本講義では、「生物多様性を失うと、こうしたサービスも失われるのか」という問いかけに応じた様々な研究事例と、それらから得られた知見を平易に紹介します。		
授業の達成目標／Course Goals	生物多様性は私たちの暮らしにどのような財や恩恵を提供しているのか、また生物多様性はどのように維持されているのかについての知識を習得し、生物多様性保全の意義について理解することを目標としています。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	「現代社会に必要なリテラシー（素養）」、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につける教養教育を行う」という教育目標に対応します。また、建築都市デザイン学科の学習教育目標「（３）人間と社会・文化・地域に関する教養を身につける」の修得に寄与する		
前提とする知識／Prerequisites	特にありません。		
関連科目／Related Courses	雑草観察入門，野外調査論，人と自然の共生を考える		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	写真や図表を中心としたスライドを用い、講義形式で以下を行います。 1. 基礎となる用語及び概念の説明，2. 研究方法の解説，3. 様々な研究事例からの各種現象の紹介		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第1回ガイダンス（講義内容の説明，生物多様性の定義） 第2回生物が支える私たちの暮らし 第3回大量絶滅時代の到来 第4回逆行する進化非在来種の侵入 第5回遺伝子組み換え作物の光と影 第6回どの生物が重要なのか？ 第7回生物間の結びつき 第8回水がもたらす恵み 第9回土壌は生きている 第10回植物とその生産力 第11回土地を形作る生命の力 第12回気候と大気 第13回保全そして再生の取り組み 第14回それでも自然は必要か？ 第15回利益の分配を目指して		
教科書・参考書等／Textbooks	必要に応じて配布する。		
成績評価の方法／Evaluation	講義内ミニレポートの結果を20%，レポートの結果を80%として成績評価を行います。		
学習上の助言／Learning Advice	日常生活の中でも、生物多様性の問題について興味と関心を持ち、私たち一人一人に何ができるのか考えてもらいたいです。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes	建築都市デザイン学科においては、平成30年度以降に履修が可能になりますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	建築デザイン		
担当教員(所属)／Instructor	安森 亮雄(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R320027
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	安森 亮雄(yasumori@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	安森 亮雄(e-mail等で予約をとってから質問・相談に応じる)		
授業の内容／Course Description	建築の構成に関して、室、架構、動線、ヴォリューム、外部空間等による部分と全体の原理を解説し、建築デザインの統合方法についての分析力と構想力を修得する。		
授業の達成目標／Course Goals	建築デザインのまとめ方に関するリテラシーを獲得する。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	建築都市デザイン学科の学習・教育目標(8)歴史文化を尊重し、目標を立てて建築・地域を創造するデザイン能力を身に付ける、に関連する。		
前提とする知識／Prerequisites	建築設計基礎、建築設計製図I, II, IIIの単位を修得していることが望ましい。		
関連科目／Related Courses	建築設計基礎、建築設計製図I, II, IIIの単位を修得していることが望ましい。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義と発表により行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	1. オリエンテーションと概説 2. 建築構成学原論 3. 室による住宅の構成 4. 架構による住宅の構成 5. 室群による建築と用途 6. 動線による室の接続 7. 用途の複合とヴォリューム 8. ヴォリュームによる外形構成 9. 立地環境とヴォリューム 10. 単位の反復による集合住宅の構成 11. 建築による外部空間の構成 12. 建築の配列による構成 13. 建築の集合による都市空間の構成 1 14. 建築の集合による都市空間の構成 2 15. まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	「建築構成学－建築デザインの方法－」安森亮雄ほか著、実教出版		
成績評価の方法／Evaluation	レポートと発表により総合評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	日常的に建築や都市のデザインについて関心を持ち見聞を広めること。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	高齢者防災論		
担当教員(所属)／Instructor	古賀 誉章(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R320028
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact	古賀 誉章(koga-t@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours	古賀 誉章(e-mailで予約をとってから質問や相談に応じる。)		
授業の内容／Course Description	心身機能が衰えてくる高齢期には、それまでにない災厄に見舞われやすくなってしまいます。ただ災厄といっても、天災・人災から事故や犯罪などさまざまです。本科目では、高齢者をはじめとする乳幼児・障がい者ら災害弱者に対する防災について広く学び考えることで、万人の安心と安全につながる知識を得ることを目指します。具体的には、災厄の種類と特徴、安心と安全の関係、高齢者等の感覚・知覚・行動・心理の特性、日常生活での予防、罹災時の対応、罹災後のケアなどをテーマにしていく。		
授業の達成目標／Course Goals	本講義によって、高齢者の特性や被災時の人の行動について理解し、災害弱者をはじめとした様々な人々の防災に役立つ知識を得ることを、を目標とします。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	建築都市デザイン学科の学習・教育目標とは、以下の項目と関係します。 (6)人間および社会の要求・条件を理解し、建築・地域・環境・制度を構築する能力を身に付ける。		
前提とする知識／Prerequisites	特にありません。		
関連科目／Related Courses	相手の立場になって考えられるようになるためには、「バリアフリー建築論」や高齢者・障害者を主題とした講義を受講していることが望ましい。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	原則毎回、自ら考えるような小課題を出題する。 さらに数回ごとにグループに分かれて、調べ学習や議論・提案発表などを行う。（AL50）		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第1回 災厄の種類と特徴 1 第2回 災厄の種類と特徴 2 第3回 安心と安全の関係 1 第4回 安心と安全の関係 2 第5回 高齢者等の感覚・知覚の特性 1 第6回 高齢者等の感覚・知覚の特性 2 第7回 高齢者等の行動・心理の特性 1 第8回 高齢者等の行動・心理の特性 2 第9回 日常生活での予防 1 第10回 日常生活での予防 2 第11回 罹災時の対応 1 第12回 罹災時の対応 2 第13回 罹災後のケア 1 第14回 罹災後のケア 2 第15回 まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	（教科書）指定しません。 （参考書）未定。講義で伝えます。		
成績評価の方法／Evaluation	授業出席回数3分の2以上の受講者を対象に、小課題レポート、期末試験を総合的に評価し、原則として、90点以上を秀、80点以上を 優、70点以上を良、60点以上を可とします。		
学習上の助言／Learning Advice	自分と異なる特性の人間の存在を認め、尊重し、理解しようとする姿勢が大切だと思います。		
キーワード／Keywords	高齢者、障害者、乳幼児、災害弱者、防災、予防、減災、ケア、安心、安全		
備考／Notes	2018年度用（建築都市デザイン学科2016年度入学者用）		

授業科目名(英文名) ／Course Title	土質基礎工学		
担当教員(所属)／Instructor	實松 俊明(工学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R320030
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	實松 俊明(sanematsu@kajima.com)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	實松 俊明(授業終了後、又はE-mailで質問に応じる。)		
授業の内容／Course Description	建物を設計・施工する上で必要な基本的な地盤・基礎に関する知識や考え方。		
授業の達成目標／Course Goals	基礎構造は、建物からの応力を地盤に伝達する重要な部分であり、建物の安全性に重要な役割を担っている。本講義では、建物を設計・施工する上で必要な盤・基礎に関する基本的な地知識や考え方の習得を目標とする。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	下記の建築都市デザイン学科の学修・教育目標に対応します。 (5) 自然現象のメカニズムを理解し、建築・地域デザイン技術に活かす能力を身に付ける。		
前提とする知識／Prerequisites	特に必要としない。		
関連科目／Related Courses	特になし。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	パワーポイントでの講義を主体に、演習課題またはレポートを設ける。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 概論(建物と地盤基礎)、地形と地質、土の基本的性質 第2週 土の強度・変形特性 第3週 地盤調査、基礎の被害、液状化とその対策 第4週 基礎の計画、直接基礎(支持力、沈下) 第5週 杭基礎 第6週 併用基礎・地盤改良、土圧・法面安定・擁壁 第7週 地下・山留め工法、基礎の診断・補修 第8週 地盤基礎に関する最近の話題、期末試験		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書：特に使用しない。プリント、テキスト等を配布する。 参考書：「絵とき土質力学」安川郁夫、今西清志、立石義孝 共著(株)オーム社 参考書：「新ザ・ソイル」藤井 衛、若命善雄、真島正人、河村壮一 共著(株)建築技術 参考書：「基礎構造の設計 学びやすい構造設計」日本建築学会関東支部 参考書：「建築基礎構造[改訂版]」畑中宗憲、加倉井正昭 共著(株)東洋書店		
成績評価の方法／Evaluation	演習課題・レポート30%、期末試験70%として評価する。		
学習上の助言／Learning Advice			
キーワード／Keywords	建築都市デザイン学科		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	地域環境エネルギー計画		
担当教員(所属)／Instructor	横尾 昇剛(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R320031
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	地域環境と地域エネルギー計画に関する講義を行なう。地域の環境資源、未利用エネルギー資源を見出し、それらを地域の特性に応じて技術的に利用可能なシステムとして計画する方法論について取り扱う。先進事例、現地見学・調査、グループ課題を通じて、地域環境計画、地域エネルギー計画の基礎について理解を深める。		
授業の達成目標／Course Goals	1. 地域の環境資源、未利用エネルギーを見出すスキルを身につける。 2. 地域、都市レベルでのエネルギー供給、需給、システムについて理解する。 3. 地域の特性に応じた環境資源、エネルギー資源の活用方法について学ぶ。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	(5)自然現象のメカニズムを理解し、建築・地域デザイン技術に生かす能力を身につける。		
前提とする知識／Prerequisites	環境工学Ⅰ、環境工学Ⅱを受講しておくことが望ましい。		
関連科目／Related Courses	環境工学Ⅰ、環境工学Ⅱ、設備工学Ⅰ、設備工学Ⅱ		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義と演習が主体であるが、地域の環境資源、未利用エネルギー資源の活用を行なった先進的な事例、再開発事例を随時、紹介する。地域エネルギー計画について個人課題とグループ課題を出す。地域環境、地域エネルギー活用方策、エネルギー需要抑制方策について討論し、発表する。学外での現地見学・調査も行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 地域環境資源と地域エネルギー 第2週～第4週 エネルギー供給・需給システム 第5週～第7週 先進都市事例、先進地域開発事例、現地見学 第8週～第9週 地域環境の調査・分析方法、グループ発表と討論 第10週～第11週 システム計画 第12週～第13週 エネルギー計算、環境負荷計算 第14週～第15週 グループ課題発表とグループ討論		
教科書・参考書等／Textbooks	佐土原聡他、都市・地域エネルギーシステム、鹿島出版会 都市環境学教材編集委員会、都市環境学、森北出版		
成績評価の方法／Evaluation	1. 2/3以上の出席回数を満たさない場合は、不可とする。 2. 期末試験の採点に基づき、優100～85点、良84点～70点、可69点～60点とする。 60点未満は不可である。なお秀は90点以上で、且つ授業中の質疑、レポートから総合的に判断し、上位5%程度の学生数とする。		
学習上の助言／Learning Advice	地域の環境デザイン、エネルギー計画を行うための基礎的な知識、理論を身につけ、技術者の立場から環境に配慮した地域のまちづくりに貢献出来るよう期待します。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	工業日本語基礎Ⅱ		
担当教員(所属)／Instructor	堀尾 佳以(工学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R320036
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact			
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours			
授業の内容／Course Description	工学系留学生対象。学生による留学生支援アプリを作成します。また、宇大イグノーベル賞で実験と結果発表を行います。アクティブラーニングを通して、自分たちの学んでいる専門知識がどのように使え、役に立つのかについて考えていきます。		
授業の達成目標／Course Goals	○専門知識を応用し、「ものづくり」に活かす。 ○グループで話し合い、傾聴力をつける。 ○協力して発表の準備を進める。 ○発表の際に役立つ日本語表現を学ぶ。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	この科目は建設学科建設工学コースの学習・教育目標（G）情報および意思伝達能力の育成に寄与する。 宇都宮大学の教育目標である、「専門に関する基礎を身につけ、広い視野とバランスのとれた判断を可能にする豊かな人間性を持った人材の育成」を目指しています。特に、働きかけ力や課題発見力を身につけるだけでなく、グループ活動を通して規律性など、社会人基礎力を養います。		
前提とする知識／Prerequisites	日本語能力試験N2程度の日本語レベルが必要です。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	アクティブラーニングであり、学生の自主性を重視します。 分かりやすく伝わる発表とはどういうものかを学んだ上で、各自テーマを選び、成果を発表します。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第1週：授業および発表についての説明 第2～10週：留学生支援アプリ開発 グループ決定、アプリ開発作成 第11週：発表会練習 第12週：発表会 第13～14週：宇大イグノーベル賞 グループ討論、実験 第15週：発表会		
教科書・参考書等／Textbooks	プリント教材		
成績評価の方法／Evaluation	出席率80%以上のみ評価対象とします。 口頭発表（30%）、課題（30%）、授業態度（40%）を総合的に評価します。 「秀」90点以上、「優」80点～89点、「良」70点～79点以上、「可」60点～69点		
学習上の助言／Learning Advice	発表の準備では、日本語の原稿を書いて貰います。必ずチェックを受けてください。		
キーワード／Keywords	共通専門基礎科目、留学生支援アプリ、発表技術、協働学習		
備考／Notes			



授業科目名(英文名) ／Course Title	水理学Ⅱ		
担当教員(所属)／Instructor	池田 裕一(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R410007
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /Oth.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact			
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours			
授業の内容／Course Description	水理学Ⅰで学んだ流体力学の基本的事項をもとに、開水路の流れ、管路の流れにおける問題を解くための基本的項目を学習する。また乱流と抵抗の基礎理論についても学ぶ。		
授業の達成目標／Course Goals	開水路、管路、乱流と抵抗の基本的事項について説明ができる。 開水路、管路、乱流と抵抗の基本的な定量的問題を解くことができる。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	社会基盤デザイン学科の学習・教育目標（E）自然科学の基礎理論と社会基盤整備のための専門的な基礎知識が理解できる。」（社会基盤デザイン学科の学習・教育目標については履修案内（地域デザイン科学部）等を参照）に寄与する。		
前提とする知識／Prerequisites	微分積分，微分方程式，力学の基本的知識は備えていてほしい。また水理学Ⅰの授業を受講しておくこと。		
関連科目／Related Courses	流域環境学Ⅰ，流域環境学Ⅱ		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	授業開始前日までに，教科書をもとに予習シートに記入して提出。授業では，その回のテーマを簡単に解説した後，ペアやグループで例題演習を行う。授業の最後に理解度を確認するテストを実施し，振り返りシートを記入して提出する。 AL50：毎回，ペアやグループでディスカッションしながら例題演習に取り組み，必要に応じて担当教員へも質問する。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第1週 ガイダンス，水理学Ⅰの復習 第2週 管路の摩擦損失 第3週 管路の平均流速公式 第4週 管路の種々の損失 第5週 管路の定常流の解析 第6週 開水路のエネルギー保存則（1） 第7週 開水路のエネルギー保存則（2） 第8週 開水路の運動量保存則 第9週 常流と射流 第10週 開水路の等流・平均流速公式 第11週 開水路の不等流の基礎方程式 第12週 開水路の不等流の水面形 第13週 摩擦損失の基礎理論 第14週 物体に作用する力 第15週 まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書：玉井・有田（共編），大学土木 水理学 第二版，オーム社 参考書：日野幹雄，明解水理学，丸善 ※かなり詳しい。		
成績評価の方法／Evaluation	毎回の提出物(20%)と期末試験(80%)により総合的に評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	授業中の例題演習では，ペアやグループで積極的に意見交換しながら取り組むこと。お互いに学び合い，教員にも遠慮なく質問することで授業内容を理解するとともに，卒業後にチームで仕事をするための一歩としてほしい。		
キーワード／Keywords	社会基盤デザイン学科専門科目，水理学，管水路，開水路，乱流，抵抗		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	土質力学Ⅱ		
担当教員(所属)／Instructor	海野 寿康(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R410009
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	本講義は、地盤工学上における安定問題を計算する際に必要な土のせん断強さを学びます。その後、土圧・斜面安定・支持力を評価する方法について学びます。		
授業の達成目標／Course Goals	本講義は、(1) 土質力学の基礎理論の位置づけを理解できること、(2) 土質力学の基本的な概念または用語を理解し、数式等の適切な表現でそれを記述できること、(3) 基礎理論の特徴と適用範囲を説明できること、を目標とします。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	建設工学コースの教育目標(A) 専門基礎力の育成(建設工学コースの教育目標について、履修案内(工学部)等を参照のこと)。 社会基盤デザイン学科の学習・教育目標「(E) 自然科学の基礎理論と社会基盤整備のための専門的な基礎知識が理解できる」の修得に寄与する(社会基盤デザイン学科の学習・教育目標については履修案内(地域デザイン科学部)等を参照)。		
前提とする知識／Prerequisites	2年生前期で学習した「土質力学Ⅰ」に相当する内容を理解していることを前提とします。		
関連科目／Related Courses	2年生前期で学習した「土質力学Ⅰ」に相当する内容を理解していることを前提とします。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	重要な用語・考えをプロジェクターで映し、教科書と併用して解説します。式の誘導に関しては板書や資料を配付し説明します。毎授業前半には前回講義内容の演習を行います。(前半30分は演習、後半60分が講義) AL50: 各回の授業で前回授業の内容に即した演習(練習問題と疑問点・意見)を課し時間内に提出してもらいます。次回授業までに教員が提出物をチェックし次回授業時に解説・コメント付きで答案を返却、理解度の向上を図ります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週授業計画、成績評価の方法、静水圧、地盤内の鉛直応力、全応力と有効応力 第2週せん断抵抗力とせん断強さ、モール・クーロンの破壊基準 第3週せん断試験の種類と強度定数の求め方、三軸試験、一軸試験 第4週排水条件と現場条件、砂のせん断挙動、粘土のせん断挙動、液状化 第5週ランキンの土圧公式の考え方と注意点 第6週クーロンの土圧公式の考え方と注意点 第7週地震時土圧、静止土圧、抗土圧構造物の設計方法 第8週前半のまとめ 第9週達成度確認試験(中間試験) 第10週斜面安定と安全率、無限斜面の安定計算 第11週円弧すべりによる斜面安定計算、臨界円の求め方 第12週浅い基礎の種類とその支持力、テルツァギの支持力式、建築基準法、告示式の説明 第13週深い基礎、杭基礎の種類とその鉛直支持力を求める方法 第14週土の締固め特性と土質による相違、締固め管理 第15週後半のまとめ 第16週期末試験		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書河上房義: 土質力学(第8版)・森北出版(工学部生協で販売) 参考書石原研而: 土質力学・丸善、石橋勲: 土質力学の基礎・共立出版 中野正樹: 地盤力学・コロナ社 教材適宜配布する。		
成績評価の方法／Evaluation	授業中の課題(合計点を100点満点換算)20%、前半の達成度確認[中間試験](100点満点)の30%および期末試験(100点満点)の50%の総合点100点に対して、60点以上を得点した場合に目標が達成されたとします。		
学習上の助言／Learning Advice	授業ではポイントを絞って説明しますので講義時間内に理解するように集中して下さい。放課後はノートに授業内容を整理・補足して理解を深めて下さい。理解できないことは授業時間中外を問わず積極的に質問してください。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	社会調査法		
担当教員(所属)／Instructor	大森 宣暁(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R410014
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact			
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours			
授業の内容／Course Description	地域の課題を理解し、地域資源・地域特性を活かしたまちづくりを行い、特に社会基盤をデザインする上で必要となる、社会調査とデータ分析の方法の基礎的な内容に関する講義を行う。具体的には、既存の統計調査、アンケート調査法、母集団と標本抽出、測定 of 尺度、データの集計、推定と検定、多変量解析、最適化法などについて基礎的な内容を解説する。		
授業の達成目標／Course Goals	社会基盤をデザインする上で必要となる社会調査とデータ分析の方法の基礎を身につけること。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	学部共通の学習・教育目標「(B) 科学技術と地域デザインに関する共通のリテラシーを身につけている」に寄与する。		
前提とする知識／Prerequisites	高校レベルの統計学の基礎と「土木計画学」で学ぶ計画の基礎		
関連科目／Related Courses	高校レベルの統計学の基礎と「土木計画学」で学ぶ計画の基礎		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	毎回、授業の最後に習熟度をチェックするための小テストを行い、次回の授業時に解説を行うことで、講義内容の理解を深める。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第1週 社会調査の概要 第2週 情報収集、統計資料 第3週 調査方法 第4週 統計基礎（母集団と標本抽出） 第5週 統計基礎（測定 of 尺度、データの集計） 第6週 統計基礎（分布と推定） 第7週 統計基礎（検定） 第8週 多変量解析1 第9週 多変量解析2 第10週 予測手法 第11週 最適化法 第12週 費用便益分析 第13週 まとめと整理 第14週 実例を通して（1）：都市計画・交通計画 第15週 実例を通して（2）：社会基盤整備		
教科書・参考書等／Textbooks	毎回資料を配布する予定		
成績評価の方法／Evaluation	毎回の講義の小テスト（30％）と定期試験（70％）の結果を総合して評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	地域の現状と課題をどのような調査と分析によって捉えることができるか、日常生活の中で日頃から考えるくせをつけよう。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	鉄筋コンクリート工学																																				
担当教員(所属)／Instructor	丸岡 正知(地域デザイン科学部)																																				
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R410015																																		
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位																																		
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可																																				
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	丸岡 正知(mmaruoka@cc.utsunomiya-u.ac.jp)																																				
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	丸岡 正知(木曜10:30～12:00, メールによる事前予約が優先される。)																																				
授業の内容／Course Description	本講義では鉄筋コンクリート構造物を構成する材料の力学特性および鉄筋コンクリート部材の力学的性状の基本について学ぶ。また、限界状態設計法の考え方について理解を深め、土木学会標準示方書設計編に基づく設計の基礎について学ぶ。																																				
授業の達成目標／Course Goals	1. 鉄筋コンクリート部材の成立条件および設計理論の基礎を説明できる。 2. 鉄筋コンクリート部材の耐力の基本的な概念を理解すると共に、基本的な耐力の算定が出来る。 3. 外力を受ける鉄筋コンクリート部材に発生する基本的な応力やひび割れ幅の算定ができる。																																				
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	社会基盤デザイン学科の学習・教育目標「(E)自然科学の基礎理論と社会基盤整備のための専門的な基礎知識が理解できる」の修得に寄与する(社会基盤デザイン学科の学習・教育目標については履修案内(地域デザイン科学部)等を参照)																																				
前提とする知識／Prerequisites	高等学校における数学・物理, および「応用力学序論」「コンクリート工学Ⅰ」「構造力学Ⅰ」の学習内容が必要。																																				
関連科目／Related Courses	「応用力学序論」「コンクリート工学Ⅰ」「構造力学Ⅰ」「土木工学実験」「社会基盤設計演習」																																				
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	授業は講義を中心に進める。適宜、演習問題など具体的な計算問題を解き、理解の深化を図る。 講義時間のみでは十分な学習効果は得られないため、予習・復習など受講生自身の自主的な取り組みが必須。 AL20: 学習の区切り毎に課題を課し答合せの上、回収する。また、返却時に授業において解説や学習上の注意点について追加説明する。																																				
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	<table><tr><td>第 1週 ガイダンス・鉄筋コンクリートの基本的概念 理由</td><td>鉄筋コンクリート構造が利用される</td></tr><tr><td>第 2週 限界状態設計法の基本的な概念と設計の手順</td><td>設計手法の概要</td></tr><tr><td>第 3週 コンクリートの力学的特性 と特性値の関係</td><td>特性値, 応力～ひずみ関係, 試験値</td></tr><tr><td>第 4週 鉄筋の力学特性</td><td>特性値, 応力～ひずみ関係</td></tr><tr><td>第 5週 安全性の照査</td><td>部材設計における安全性の検討方法</td></tr><tr><td>第 6週 外力を受けた棒部材の変形挙動 概要</td><td>棒部材の外力作用に伴う変形挙動の概要</td></tr><tr><td>容との相違</td><td>応用力学序論・構造力学Ⅰの学習内</td></tr><tr><td>第 7週 断面に生じる応力度の算定 じる力の釣合</td><td>棒部材の変形初期における断面に生</td></tr><tr><td>第 8週 ひび割れに対する検討 形挙動, 曲げひび割れについて</td><td>棒部材の変形初期～中期における変</td></tr><tr><td>第 9週 棒部材の曲げ耐力(1)</td><td>棒部材の曲げ耐力の算定方法</td></tr><tr><td>第10週 棒部材の曲げ耐力(2)</td><td>T形断面部材の曲げ耐力の算定方法と</td></tr><tr><td>注意点</td><td></td></tr><tr><td>第11週 曲げと軸方向力に対する耐力</td><td>相互作用図について</td></tr><tr><td>第12週 演習</td><td></td></tr><tr><td>第13週 棒部材のせん断耐力 ・せん断耐力の算定</td><td>せん断変形, 斜めひび割れ発生耐力</td></tr><tr><td>第14週 演習</td><td></td></tr><tr><td>第15週 習熟度の確認</td><td></td></tr></table>			第 1週 ガイダンス・鉄筋コンクリートの基本的概念 理由	鉄筋コンクリート構造が利用される	第 2週 限界状態設計法の基本的な概念と設計の手順	設計手法の概要	第 3週 コンクリートの力学的特性 と特性値の関係	特性値, 応力～ひずみ関係, 試験値	第 4週 鉄筋の力学特性	特性値, 応力～ひずみ関係	第 5週 安全性の照査	部材設計における安全性の検討方法	第 6週 外力を受けた棒部材の変形挙動 概要	棒部材の外力作用に伴う変形挙動の概要	容との相違	応用力学序論・構造力学Ⅰの学習内	第 7週 断面に生じる応力度の算定 じる力の釣合	棒部材の変形初期における断面に生	第 8週 ひび割れに対する検討 形挙動, 曲げひび割れについて	棒部材の変形初期～中期における変	第 9週 棒部材の曲げ耐力(1)	棒部材の曲げ耐力の算定方法	第10週 棒部材の曲げ耐力(2)	T形断面部材の曲げ耐力の算定方法と	注意点		第11週 曲げと軸方向力に対する耐力	相互作用図について	第12週 演習		第13週 棒部材のせん断耐力 ・せん断耐力の算定	せん断変形, 斜めひび割れ発生耐力	第14週 演習		第15週 習熟度の確認	
第 1週 ガイダンス・鉄筋コンクリートの基本的概念 理由	鉄筋コンクリート構造が利用される																																				
第 2週 限界状態設計法の基本的な概念と設計の手順	設計手法の概要																																				
第 3週 コンクリートの力学的特性 と特性値の関係	特性値, 応力～ひずみ関係, 試験値																																				
第 4週 鉄筋の力学特性	特性値, 応力～ひずみ関係																																				
第 5週 安全性の照査	部材設計における安全性の検討方法																																				
第 6週 外力を受けた棒部材の変形挙動 概要	棒部材の外力作用に伴う変形挙動の概要																																				
容との相違	応用力学序論・構造力学Ⅰの学習内																																				
第 7週 断面に生じる応力度の算定 じる力の釣合	棒部材の変形初期における断面に生																																				
第 8週 ひび割れに対する検討 形挙動, 曲げひび割れについて	棒部材の変形初期～中期における変																																				
第 9週 棒部材の曲げ耐力(1)	棒部材の曲げ耐力の算定方法																																				
第10週 棒部材の曲げ耐力(2)	T形断面部材の曲げ耐力の算定方法と																																				
注意点																																					
第11週 曲げと軸方向力に対する耐力	相互作用図について																																				
第12週 演習																																					
第13週 棒部材のせん断耐力 ・せん断耐力の算定	せん断変形, 斜めひび割れ発生耐力																																				
第14週 演習																																					
第15週 習熟度の確認																																					
教科書・参考書等／Textbooks	教科書:「鉄筋コンクリート工学【三訂版】」市ヶ谷出版, 宇大生協で販売, 必用に応じ追加資料を適宜配布																																				
成績評価の方法／Evaluation	学習単元毎に課演習課題およびレポート(40%)の提出状況・出来映えおよび期末試験(60%)の結果を総合して評価する。 レポートおよび期末試験の総合点100点に対し, 60%以上を得点した場合に目標が達成されたとする。																																				
学習上の助言／Learning Advice	講義の後, 復習として自分で例題を解いてみることで, より理解を深めてください。																																				
キーワード／Keywords																																					
備考／Notes																																					

授業科目名(英文名) ／Course Title	防災マネジメントⅠ		
担当教員(所属)／Instructor	近藤 伸也(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R410016
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	近藤 伸也(028-689-6212 kondos@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	近藤 伸也(授業時間中、またはe-mailによる予約)		
授業の内容／Course Description	近年、地震、津波、洪水、土石流、高潮、竜巻など過去に例をみないような自然災害が頻発しています。本講義は、これらの自然災害の発生メカニズム、防御・軽減対策、災害時の危機管理および災害後の復旧に向けた防災計画の立案・策定に必要な基礎知識を身につけることをねらいとしています。		
授業の達成目標／Course Goals	本講義では、1. 災害の特性や発生メカニズムに関する知識を身につける。2. 平時の防災対策、災害発生後の危機管理の基本や災害後の復旧を視野に入れた防災マネジメントの考え方を身につける。3. さらに国内外を問わず行われている先進事例を含め、実社会における防災対策の実現に向けた視点と留意点を理解することを目標とします。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	社会基盤デザイン学科の学習・教育目標「(F) 社会基盤整備の実務上の問題に専門知識を適用・発展することができる」「(G) 社会基盤の世界的動向を把握して、グローバルな技術展開ができる」「(H) 社会基盤整備による問題解決のための適切な施策を提案することができる」に寄与する。		
前提とする知識／Prerequisites	特に必要なし		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義はパワーポイントを中心に視覚的に情報を提供し、各テーマの理解促進を図ります。また、学生の理解度を高めるために、講義の内容に関する宿題の内容をもとに学生との対話を促しながら、進めていきます。 AL:20: 各回の授業で、その授業内容に即した宿題(練習問題と疑問点・意見)を課し、その日のうちに提出させる。次回授業までに提出物をチェックし、次回授業時にコメントを述べ、理解度の向上を図る。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 講義概要と防災マネジメントの基礎 第2週 災害の特性・発生メカニズム: 地震災害 第3週 災害の特性・発生メカニズム: 風水害 第4週 災害の特性・発生メカニズム: 土砂災害 第5週 災害の特性・発生メカニズム: 津波・高潮災害 第6週 予報・警報 第7週 初動期 第8週 応急期 第9週 復旧・復興期 第10週 災害事例1: 地震災害 第11週 災害事例2: 風水害・土砂災害 第12週 災害事例3: 津波・高潮災害 第13週 実効的な防災対策の考え方 第14週 先進的な防災対策事例 第15週 次の大災害に向けて: とりまとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	参考資料は授業で配布する。		
成績評価の方法／Evaluation	成績は各回の授業で出す内容に即した宿題課題(40%)、および期末レポート(60%)で評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	皆さんが社会で生活していると、災害は切り離せない存在です。自分の生活と講義内容を頭の中でリンクさせて、災害を身近なものとして考えられるようにしましょう。		
キーワード／Keywords	社会基盤デザイン学科 防災、減災、災害、震災、風水害、火山災害、土砂災害		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	海外プロジェクトⅠ		
担当教員(所属)／Instructor	山岡 暁(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R410017
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	本講義では、海外プロジェクトの発掘から完成、維持管理、評価までの一連の流れを学ぶ。		
授業の達成目標／Course Goals	社会基盤の世界的動向を把握して、グローバルな技術展開ができる能力を育成するため下記を到達目標とする。 1. 海外プロジェクトの必要性を説明できること。 2. 海外プロジェクトの発掘から完成までの流れを説明できること。 3. 海外プロジェクトの価値の評価方法を説明できること。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	社会基盤デザイン学科の学習・教育目標： (E) 自然科学の基礎理論と社会基盤整備のための専門的な基礎知識が理解できる (F) 社会基盤整備の実務上の問題に専門知識を適用・発展することができる (G) 社会基盤の世界的動向を把握して、グローバルな技術展開ができる に寄与する(社会基盤デザイン学科の学習・教育目標については履修案内(地域デザイン科学部)等を参照)。		
前提とする知識／Prerequisites	高等学校における英語および数学、物理、社会領域の知識が必要である。		
関連科目／Related Courses	海外プロジェクト演習 海外プロジェクトII		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	授業は講義を中心に進めるが、視覚的な資料を用いて理解の深化を図る。講義の後半では、海外プロジェクトの実例を紹介し、数人からなるグループに分けて、その課題と対策を議論して報告を行う。 AL20：開発途上国の社会基盤整備プロジェクトについて、グループ討議を行い、目的やマネジメントについて理解と関心を深める。グループ討議結果は、その講義内で発表し、他のグループはコメントをすることによって、相互理解を深める。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 海外プロジェクトとは 第2週 プロジェクトの発掘(誰が、何のために、資金) 第3週 プロジェクトマネジメントの概要 第4週 プロジェクトの計画(1/2) 第5週 プロジェクトの計画(2/2) 第6週 プロジェクトの設計(1/2) 第7週 プロジェクトの設計(2/2) 第8週 プロジェクトの施工 第9週 プロジェクトの維持管理 第10週 プロジェクトの評価(1/2) 第11週 プロジェクトの評価(2/2) 第12週 環境問題と対策 第13週 海外プロジェクトの実例(1/2) 第14週 海外プロジェクトの実例(2/2) 第15週 理解度の確認		
教科書・参考書等／Textbooks	教材としてプリントを適宜配布する予定		
成績評価の方法／Evaluation	期末試験時に提出するレポート(10%)と期末試験(90%)を総合し、総合点100点に対して、60%以上得点した場合に目標が達成されたとする。		
学習上の助言／Learning Advice	途上国でなぜ社会基盤の開発が必要なのか、そのためにどのようなプロジェクトが進められるのかということを理解してください。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	防災マネジメント演習		
担当教員(所属)／Instructor	近藤 伸也(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R410021
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	近藤 伸也(028-689-6212 kondos@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	近藤 伸也(授業時間中、またはe-mailによる予約)		
授業の内容／Course Description	クラスを3～4人のグループに分ける。具体的な地域を設定し、そこで想定される災害の種類と規模、災害前の防災・減災、災害時の危機管理、災害後の復旧について、各人の役割分担を決めて、プランの立案に取り組む。効果的なプランの立案のために、それぞれの分担を独立させるのではなく、お互いに情報交換しながら、その地域で最も重要な点を考慮して一つのプランにまとめていくことが求められる。まとめられたプランは、最後にプレゼンを行うとともに、地方自治体の防災担当職員をはじめとした防災の実務者にも意見をうかがう機会を設ける。		
授業の達成目標／Course Goals	実際に地域の防災対策を立案し、その概要を策定する。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	社会基盤デザイン学科の学習・教育目標「(C)多様な主体との間で意思疎通が図れるコミュニケーション能力を身につけている」「(F)社会基盤整備の実務上の問題に専門知識を適用・発展することができる」「(G)社会基盤の世界的動向を把握して、グローバルな技術展開ができる」「(H)社会基盤整備による問題解決のための適切な施策を提案することができる」に寄与する。		
前提とする知識／Prerequisites	防災マネジメントⅠの受講は必須である。		
関連科目／Related Courses	防災マネジメントⅠ、防災マネジメントⅡ		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	AL50：各回の授業でグループは取り組み状況を全体に報告して、意見交換を実施する。各グループは意見交換での結果を踏まえて次回 までに行う作業を検討する。まとめられたプランは、最後にプレゼンテーションを行うとともに、地方自治体の防災担当職員をはじめとした防災の実務者から意見をうかがう。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 講義概要 第2週～第7週 対象地域と災害の選定 第8週 中間発表 第9週～第14週 防災計画の具体的な検討 第15週 最終発表		
教科書・参考書等／Textbooks	参考資料は授業で配布する。		
成績評価の方法／Evaluation	成績は最終発表での成果物(50%)、および期末レポート(50%)で評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	皆さんが社会で生活していると、災害は切り離せない存在です。自分の生活と講義内容を頭の中でリンクさせて、災害を身近なものとして考えられるようにしましょう。		
キーワード／Keywords	社会基盤デザイン学科 防災、減災、防災計画		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	文化マネジメント		
担当教員(所属)／Instructor	中島 宗皓(望)(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R420008
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	中島 宗皓(望)(shodoken@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	中島 宗皓(望)(・原則として授業期間の水・木曜日(17:30～18:00)とする。 ・Eメールで事前に予約。(電話では受け付けません。))		
授業の内容／Course Description	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化は、人間性を涵養し創造性を育む。よって、人々に心豊かな生活を実現してゆく上で不可欠なものである。</li> <li>・なかでも、地域文化の振興には、居住する地域にかかわらず、様々な文化を等しく鑑賞できる機会を拡充する必要がある。</li> <li>・地域文化が持つ豊かさが、日本文化の基盤を成しており、地域文化の振興こそが、日本の魅力を一層高めて行くことにつながるのである。</li> <li>・授業では、「日本特有の様々な文化をいかに国内外に向けて発信するか」をテーマに、【より多くの知識を個々の独創的な知恵へと結びつける力】を養う。</li> </ul>		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わが国の宝といえる多様で豊かな地域文化を活用することが文化マネジメントの使命である。</li> <li>・地域の「遺産」を心の「資産」とすることが肝要であり、さらなる創造を目標とせねばならない。</li> <li>・本学の到達目標は、各人の「感性」をより深めてゆくことであり、この半期間はその手がかりに過ぎない。</li> </ul>		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のテーマは、「文化とは何か」といった基本的な問いからはじまる。</li> <li>・専修する各分野の専門的な考察を展開する前に、美・芸術・感性・情動についてを哲学として学ぶ。</li> <li>・なお、この授業は、社会基盤デザイン学科の学習・教育目標「(H) 社会基盤整備による問題解決のための適切な施策を提案することができる」の修得に寄与する</li> </ul>		
前提とする知識／Prerequisites	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少なくとも、「文化」「芸術」の語を美学辞典などで調べ、美意識が時代文化の持つ世界観と密接に関係することを理解し、文化史、美術史などを精神史として説明できるように準備をしてほしい。これらは、マネジメント以前の問題である。</li> </ul>		
関連科目／Related Courses	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活美学</li> <li>・文化マネジメント演習</li> <li>・コミュニティデザイン演習(文化マネジメント分野)</li> </ul>		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の前半は、文化芸術に関する諸問題を考え、今後の文化マネジメントのあり方を問う。</li> <li>・また、後半は事業シミュレーションを演習形式で行い、それぞれの発表から課題や問題点を見出し、文化マネジメントの具体的な事例とその改善点を挙げてゆく。</li> <li>・AL50: 講義形式を基本とするが、文化事業のプレゼンテーションを通して具体的な問題解決力を養う。</li> </ul>		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 文化とは何か</li> <li>3. 文化政策「守り」</li> <li>4. 文化事業「伝え」</li> <li>5. 文化振興「育む」</li> <li>6. 専門職の立場</li> <li>7. 教育・情報・流通</li> <li>8. リフレクション1</li> <li>9. 事業シミュレーション(企画書の作成方法)</li> <li>10. 事業シミュレーション(企画書の作成校正)</li> <li>11. 事業シミュレーション(プレゼン①グループ)</li> <li>12. 事業シミュレーション(プレゼン②グループ)</li> <li>13. 事業シミュレーション(プレゼン③グループ)</li> <li>14. 事業シミュレーション(ピア・レビュー)</li> <li>15. リフレクション2(レポート作成)</li> </ol>		
教科書・参考書等／Textbooks	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な課題のみ、レジュメを配布する。参考書については、授業中に指示するが、辞典類は数冊比較のうえ購入のこと。</li> </ul>		
成績評価の方法／Evaluation	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回のレポート(ノート作成)より「理解」60%、シミュレーション(発表)より「認識」40%を合計し、60%以上を合格とする。</li> </ul>		
学習上の助言／Learning Advice	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な文化が接触する現代社会のなかに課題を捉え、その文化的背景を考察し、理解する力を身につけて欲しい。</li> </ul>		
キーワード／Keywords	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化芸術</li> <li>・アーツマネジメント</li> </ul>		
備考／Notes	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は開講されません。</li> <li>・平成29年度から開講されますので、履修登録の時期に履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。</li> <li>・これまで、地域デザイン科学部の授業で学んだ理論は、各分野における知識として貴重な「財産」となっている。</li> <li>・また、それら知識を基にした各演習科目では、より多くの知恵を授かり、さらに実践を踏んでこそ深い見識「資産」へとつながるのである。</li> </ul>		



授業科目名(英文名) ／Course Title	地域史		
担当教員(所属)／Instructor	高山 慶子(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R420009
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	高山 慶子(k_takayama@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	高山 慶子(月曜14:30～16:00)		
授業の内容／Course Description	本学の地元である宇都宮の歴史に関する史料を読み、そこから何が読み取れるのかを考えることで、史料から歴史を考える力を養い、地域の歴史に対する理解を深める。		
授業の達成目標／Course Goals	日本史の史料の基礎的な読解力を修得する。また、史料を実際に読むことで、歴史社会のイメージを豊かにするとともに、地域の歴史への関心を深める。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	地域の歴史を学ぶことで、中学・高校で学んできた歴史を地域の視点で見直し、歴史を主体的に考える力を身に付ける。 社会基盤デザイン学科の学習・教育目標「(H) 社会基盤整備による問題解決のための適切な施策を提案することができる」の修得に寄与する		
前提とする知識／Prerequisites	特になし。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	江戸時代の史料(主に活字)を読み、それをどのように読み解き、そこからどのような歴史がわかるのかを、講義形式で解説する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	1～15. 史料講読と解説 宇都宮藩の歴史 江戸町人との関係 大名戸田家の経済事情 宇都宮藩の幕末維新 宇都宮の近代製糸工場 ほか 江戸の女性 女大学を読む 庶民女性の生活 商家の女性 ほか		
教科書・参考書等／Textbooks	プリントを配付する。		
成績評価の方法／Evaluation	レポート(70%)、授業への取り組み(30%)		
学習上の助言／Learning Advice	特になし。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes	社会基盤デザイン学科においては、平成29年度以降に履修が可能になりますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	まちづくり特講		
担当教員(所属)／Instructor	石井 大 一 朗(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R420010
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	石井 大 一 朗(電話 028-649-5386 E-mail ish@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	石井 大 一 朗(木曜 7－8限)		
授業の内容／Course Description	地方都市やその周縁部地域における社会構造や人口・世帯構造の変化を整理しつつ、地域問題の傾向を把握する。そして、典型的な地域問題に対するまちづくりの実践例を学び、問題解決に向けて、まちづくりの今後の方向性を議論し、受講生自らがまちづくりリーダーとなることを想定したまちづくりプランを作成する。講義では複数の教員によるオムニバス授業とワークショップを行う。		
授業の達成目標／Course Goals			
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	社会基盤デザイン学科の学習・教育目標「(H) 社会基盤整備による問題解決のための適切な施策を提案することができる」の修得に寄与する		
前提とする知識／Prerequisites			
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	AL:50 オムニバス授業では、各テーマごとにレポートの提出を求める。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule			
教科書・参考書等／Textbooks			
成績評価の方法／Evaluation			
学習上の助言／Learning Advice			
キーワード／Keywords			
備考／Notes	今年度は開講されません。 平成29年度から開講されますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	流域環境学Ⅱ		
担当教員(所属)／Instructor	池田 裕一(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R420016
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact			
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours			
授業の内容／Course Description	河川の流況および流域環境を解析するための基本的事項を説明し、実際の課題に取り組むことで理解を深める。具体的には、開水路の不等流の計算、開水路における1次元河床変動計算、植生がある場合の1次元河床変動計算、2種の個体群の成長解析、リモートセンシングの事例分析等を課題とする。		
授業の達成目標／Course Goals	河川とその流域について、地球規模から河川微地形まで多様なスケールの解析手法の基本を理解する。 それらを実際に運用し、その結果を有用に解釈することができる。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	社会基盤デザイン学科の学習・教育目標（F）社会基盤整備の実務上の問題に専門知識を適用・発展することができる（社会基盤デザイン学科の学習・教育目標については履修案内（地域デザイン科学部）等を参照）に寄与する。		
前提とする知識／Prerequisites	水理学，河川工学，表計算ソフトなどの基本的知識やスキルが必要である。流域環境学Ⅰを受講していることが望ましい		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	主として総合メディア基盤センターの学習端末室を利用する。毎回の授業では、取り上げたテーマの基本事項とその解析手法を解説した後、表計算ソフトを活用して例題に取り組み、その結果の意味するところを考える。その際、ペアを組んでお互いの進行状況を確認しながら作業を進める。例題が終了したら、振り返りシートを記入して提出する。 AL50：課題の遂行に当たっては、解析手法を理解する、与えられた条件下で解析手法を具体的に適用する、表計算ソフトを活用して計算結果を求める、計算結果の意味を解釈する、などの段階がある。この各段階について学生の進捗状況を確認しながら、適切な助言を与える。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第1週 ガイダンス，生態学の基礎 第2週 個体群の生態学 第3週 生物群集の生態学 第4週 課題1レポート 第5週 生態系の生態学 第6週 水域生態系の生態学 第7週 課題2レポート 第8週 リモートセンシングの基礎 第9週 課題3レポート 第10週 開水路のさまざまな流れ 第11週 開水路の不等流の計算 第12週 課題4レポート 第13週 土砂水理学 第14週 植生水理学 第15週 課題5レポート		
教科書・参考書等／Textbooks	参考書：関根正人，移動床流れの水理学，共立出版 参考書：有田・池田 他，生物圏の環境，東京電機大学出版局 参考書：村上ら，環境情報科学，共立出版		
成績評価の方法／Evaluation	課題（50％）と期末試験（50％）を総合して評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	授業で取り上げる手法は、基礎的というより実務や研究で実際に使われているものである。課題に積極的に取り組み、卒業研究や卒業後の仕事に活かせるようになってほしい。		
キーワード／Keywords	建設学科建設工学コース専門科目，流域，河川，河川工学，生態学，個体群，群集，生態系，水理学，土砂輸送，河床変動，植生水理学，リモートセンシング		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	土質基礎工学		
担当教員(所属)／Instructor	海野 寿康(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R420025
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	本講義は、土構造物や構造物築造における基礎の地盤調査や設計法、地盤内の応力評価、液状化の判定に関する考え方や計算法を学びます。		
授業の達成目標／Course Goals	本講義は、(1) 土質力学に基づき地盤調査結果から地盤判読ができる力を養うこと、(2) 構造物築造に伴う地盤工学的問題(支持力改善、液状化等)を総合的に捉えて、解決できる力を養うこと、を目標とします。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	建設工学コースの教育目標(A)専門基礎力の育成および(B)応用能力の育成(建設工学コースの教育目標について、履修案内(工学部)等を参照のこと)。 社会基盤デザイン学科の学習・教育目標「(F)社会基盤整備の実務上の問題に専門知識を適用・発展することができる」の修得に寄与する(社会基盤デザイン学科の学習・教育目標については履修案内(地域デザイン科学部)等を参照)。		
前提とする知識／Prerequisites	2年生で履修した「土質力学Ⅰ」と「土質力学Ⅱ」で学んだ土の物理特性、強度特性など基本的な土質力学を理解していることを前提とします。		
関連科目／Related Courses	2年生で履修した「土質力学Ⅰ」と「土質力学Ⅱ」で学んだ土の物理特性、強度特性など基本的な土質力学を理解していることを前提とします。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	重要な用語・考えをプロジェクターで映し、教科書(土質力学Ⅰ・Ⅱで使用したテキスト)と併用して解説します。さらに地盤調査や地盤判読、液状化の判定、地盤改良に関しては適宜資料を配布します。地盤調査や地盤判定に関しては、実際に原位置試験を実施して理解してもらいます。 AL50:講義内容の単元毎に演習の時間を作り、講義時間中あるいは宿題とし提出してもらいます(3～4回に1回の割合で演習)。次回授業までに提出物をチェックし次回授業時に解説・コメント付きで答案を返却、理解度の向上を図ります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週ガイダンス 第2週地盤調査、N値の利用、設計定数 第3週原位置試験、土質柱状図 第4週地盤調査_実習1:スウェーデン式サウンディング1(現地実習) 第5週地盤調査_実習2:スウェーデン式サウンディング2(現地実習) 第6週地盤調査_実習3:スウェーデン式サウンディング3(地盤判読) 第7週地盤内の応力計算1:地盤内の応力 第8週地盤内の応力計算2:ブーシネスク計算法、線荷重、帯荷重、長方形荷重に対する地盤内応力の算出方法 第9週地盤内の応力計算3:支持力改善を目的とした地盤改良工法、地盤改良の演習 第10週直接基礎の安定検討1:直接基礎の概要、支持力の考え方、水平抵抗力の考え方、沈下の考え方 第11週直接基礎の安定検討2:直接基礎の安定性照査 第12週地盤の液状化1:液状化のメカニズム、液状化強度の測定法 第13週地盤の液状化2:液状化判定法、液状化に対する抵抗率 第14週地盤の液状化3:液状化対策工法、地盤の液状化判定の演習 第15週まとめ 第16週期末試験		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書河上房義:土質力学(第8版)・森北出版(工学部生協で販売) 参考書安田進:液状化の調査から対策工まで・鹿島出版会 地盤工学会:地盤調査の基本と手引き・地盤工学会 教材適宜配布する。		
成績評価の方法／Evaluation	授業中の課題(合計点を100点満点換算)の50%、期末試験(100点満点)の50%の総合点100点に対して、60点以上を得点した場合に目標が達成されたとします。		
学習上の助言／Learning Advice	授業ではポイントを絞って説明しますので、講義時間内に理解するように集中して下さい。授業中に実際に地盤調査や地盤判読、液状化判定を実施しますので、各内容を行って理解を深めて下さい。理解できないことは時間中外を問わず積極的に質問してください。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	地区計画		
担当教員(所属)／Instructor	長田 哲平(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R420027
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	長田 哲平(E-mail : osada-teppe@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	長田 哲平(・火曜日:10:00～12:00 ※事前にメール予約願います。 ・在室時の随時対応可(8-303) ・講義実施日の講義時間前後および休憩時間に対応)		
授業の内容／Course Description	前半は佐藤教員が、また後半は長田教員が行う。日常生活の身近な範囲である地区を主な対象として、まちづくりとコミュニティの概念の基礎的な理解をもとに、住民参加を推進するコミュニティ計画、地区計画のあり方を解説する。さらに、市街地の具体的な事例を通して計画の進め方と事業制度の根拠を学ぶ。		
授業の達成目標／Course Goals	1. 法定地区計画および自治体まちづくり条例にもとづく地区計画など、地区レベルの計画に必要な基礎的な概念と手法として下記を修得する。 1) まちづくりの概念と地区計画との係わり 2) まちづくり条例とまちづくり規範 3) コミュニティと住民参加 2. 具体的な事例を通して、地区計画の内容と整備手法を理解する。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	社会基盤デザイン学科の学習・教育目標「(F)社会基盤整備の実務上の問題に専門知識を適用・発展することができる」の修得に寄与する (社会基盤デザイン学科の教育目標については、履修案内(地域デザイン学部)等を参照のこと)		
前提とする知識／Prerequisites	社会基盤デザイン学科にあつては、前期で都市計画を受講していることが望ましい。		
関連科目／Related Courses	社会基盤デザイン学科にあつては、前期で都市計画を受講していることが望ましい。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	授業は必要に応じて資料やパワーポイントなどのAV教材を使用し、受講生の理解を促す。前半は主に資料に基づいて講義を行う。毎回、最後に講義内容について小レポートを課す。後半は、教科書の解説と宇都宮市での事例の解説を行い、課題に関するレポートを課す。  AL50:前半では毎回小レポートを行うとともに、後半の講義では毎回、講義内容の理解を促すために講義メモを配布し、記入回収する。適宜、コメントなどを記入させて、学生の理解度を確認しながら講義を進める。また、それとは別に課題レポートを課して地区計画について自身で探求をさせる。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	<b>■佐藤教員担当</b> 1. 地区計画とは 2. 地区計画の諸タイプ 3. まちづくり条例と地区計画 4. まちづくり規範 5. コミュニティと地区計画 6. 住民参加による地区計画 7. 震災復興としての地区計画 8. まとめと中間試験  <b>■長田教員担当</b> 9. 身体尺度 10. 市街地開発事業の位置づけ概要 11. 土地区画整理事業 12. 市街地再開発事業 13. 法定地区計画 14. 市街地開発事業と交通 15. 景観計画		
教科書・参考書等／Textbooks	「新・都市計画概論」加藤晃竹内伝史編 共立出版株式会社 必要に応じてプリントを配布する。		
成績評価の方法／Evaluation	前半は試験(40%)に小レポートの内容(10%)を加味して評価する。後半は課題に対するレポート(50%)で評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	地区計画は制度として一律の固定化されたものではなく、自治体や地区住民の取組により、また、地区が置かれたさまざまな問題に応じて多様であり、変化しつつある。都市や地区をめぐる問題や新たな動向に関心をもつよう心がけてほしい。 なお、本講義は、行政や企業における住宅地開発・都市開発・地域開発などの実務に関わりが強い。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	コンクリート工学Ⅱ		
担当教員(所属)／Instructor	藤原 浩巳(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R420028
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact	藤原 浩巳(【藤原 浩巳】fhiromi@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours	藤原 浩巳(12:00～12:50 事前にメールで予約が望ましい)		
授業の内容／Course Description	現在のコンクリート構造物が抱える種々の問題について解説するとともに、どのように対処していくべきか、また技術開発の最前線について講義を行う。		
授業の達成目標／Course Goals	1. 種々の鉄筋コンクリート構造物に発生する長期的および短期的な種々の劣化現象について、その原因の把握と対応策を提案できること。 2. 鉄筋コンクリート構造物に求められる社会的な要請を理解し、その要請に応えるためにこれまで行われてきた種々の鉄筋コンクリートの高性能化について理解し、説明できること 3. 現在および将来的に予測される鉄筋コンクリートの要求性能について、実現のための調査、研究手法を提案できること。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	社会基盤デザイン学科の学習・教育目標「(F) 社会基盤整備の実務上の問題に専門知識を適用・発展することができる」の修得に寄与する（社会基盤デザイン学科の学習・教育目標については履修案内（地域デザイン科学部）等を参照）		
前提とする知識／Prerequisites	コンクリート工学Ⅰ，鉄筋コンクリート工学の知識が理解の上で必要である。		
関連科目／Related Courses	コンクリート工学Ⅰ，鉄筋コンクリート工学の知識が理解の上で必要である。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	本授業は、コンクリート構造物が早期に劣化し、様々な問題を引き起こしている現状についてビデオなどで学び、このような劣化が何故起こるのかについて、講義で学ぶとともにその対策を知る。また、従来のコンクリートの常識から外れた高い機能を有するコンクリートについて、ビデオや実際のコンクリート製品を見て学び、そのコンセプトや利用状況について学んでいく。また、社会に実用化されている高性能コンクリートについて調べ、どこに優位性があるのかを授業においてプレゼンを行い、それについてのディスカッションを行う。 AL20：社会に実用化されている高性能コンクリートについて各自が調べ、どこに優位性があるのかを授業においてプレゼンを行い、それについてのディスカッションを行う。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第1週コンクリート劣化機構（日本におけるコンクリート構造物の劣化の現状） 第2週コンクリート劣化機構（凍結融解作用、塩害）と対策 第3週コンクリート劣化機構（アルカリ骨材反応、収縮ひび割れ）と対策 第4週コンクリート劣化機構（その他の劣化現象）と対策 第5週コンクリートの高流動化技術 第6週コンクリートのフレッシュ性状の調整技術とその応用 第7週コンクリートの軽量化技術 第8週コンクリートの高強度化技術 第9週コンクリートの環境調和（植栽、吸音、浄水機能の付与） 第10週耐火コンクリートの開発 第11週コンクリートのリサイクル技術 第12週高性能コンクリートの実用例の調査 第13週プレゼンテーション準備 第14週プレゼンテーション 第15週理解度の確認		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書：特にないが、必要に応じて講義時にプリントを配布する。 教材：「コンクリートの高性能化」技報堂出版，市販されています。		
成績評価の方法／Evaluation	2～3回の講義につき1回程度課すレポートとプレゼンテーション（合計50%）および期末試験（50%）を総合し、総合点100点に対して、60%以上を得点した場合に目標が達成されたとする。		
学習上の助言／Learning Advice	技術の最前線の話が聞けます。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	海外プロジェクトⅡ		
担当教員(所属)／Instructor	山岡 暁(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R420029
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	本講義では、海外プロジェクトⅠと海外プロジェクト演習で学習したことを踏まえて、さらに開発途上国での社会基盤整備プロジェクトに関する理解を深め、国際協力や技術支援の在り方を学習する。		
授業の達成目標／Course Goals	社会基盤の世界的動向を把握して、グローバルな技術展開ができる能力を育成するため下記を到達目標とする。 1. 海外プロジェクトの発掘から維持管理までのプロセスを説明できること。 2. 日本政府や国際機関の開発支援を理解し、説明できること。 3. プロジェクトマネジメントを理解し、説明できること。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	社会基盤デザイン学科の学習・教育目標： (F) 社会基盤整備の実務上の問題に専門知識を適用・発展することができる。 (G) 社会基盤の世界的動向を把握して、グローバルな技術展開ができる。 (H) 社会基盤整備による問題解決のための適切な施策を提案することができる。 に寄与する(社会基盤デザイン学科の学習・教育目標については履修案内(地域デザイン科学部)等を参照)。		
前提とする知識／Prerequisites	高等学校における英語および数学、物理、社会領域の知識が必要である。		
関連科目／Related Courses	海外プロジェクトⅠ 海外プロジェクト演習		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義を中心に進めるが、視覚的な資料を用いて理解を深めさせる。プロジェクトを推進する上で、最も重要な要因となる費用対効果を理解するために経済財務分析について講義をする。講義後半では、海外プロジェクトの実例を紹介し、グループ単位で学習する。  AL20：プロジェクトの実例の説明後、必要性や便益、負の影響などの様々な課題について、数人からなるグループで討議し、開発途上国での社会基盤整備プロジェクトにおける国際協力や技術支援について理解と関心を深める。グループ討議結果は、その講義内で発表し、他のグループはコメントをすることによって、相互理解を深める。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週. 海外プロジェクトの概要 第2週. 海外プロジェクトの開発プロセス 第3週. 日本および国際機関の開発支援 第4週. プロジェクトマネジメントの基礎と応用 第5週. 社会基盤整備の経済分析手法 第6週. 途上国の社会基盤整備の経済分析 第7週. 途上国の社会基盤整備の財務分析 第8週. 途上国の社会基盤整備の実例(1/3) 第9週. 課題抽出と分析(1/3) 第10週. 途上国の社会基盤整備の実例(2/3) 第11週. 課題抽出と分析(2/3) 第12週. 途上国の社会基盤整備の実例(3/3) 第13週. 課題抽出と分析(3/3) 第14週. 実例について課題解決策の考案 第15週. 理解度の確認		
教科書・参考書等／Textbooks	作成した教材を使用する予定。		
成績評価の方法／Evaluation	期末試験時に提出するレポート(10%)と期末試験(90%)を総合し、総合点100点に対して、60%以上得点した場合に目標が達成されたとする。		
学習上の助言／Learning Advice	開発途上国の社会基盤整備の課題を探り、その解決策を自ら考えてください。途上国支援のために、日本が今後何をすべきか、自ら何ができるかも考えながら学習してください。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	プロジェクト評価論		
担当教員(所属)／Instructor	阪田 和哉(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R420030
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	阪田 和哉(028-689-6220 k-sakata@cc.utsunomiya-u.ac.jp 陽東地区10号館6階10-604号室 ※ オフィスアワー訪問の空振りを避けたい場合は事前にメール等で予約することをお勧めする。)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	阪田 和哉(前期：木曜日15:00～16:00 後期：月曜日15:00～16:00 ※ 会議などの理由で留守の場合もある。上記以外の時間帯も在室中に対応する。)		
授業の内容／Course Description	まちづくり、地域づくりのプロジェクト(公共事業やイベントなど)を経済評価する手法を学習する。 費用便益分析を中心に、便益の計測手法や、実務的に活用されている事業評価マニュアルの内容、理論的・実務的背景、課題などを学習する。 プロジェクトの経済評価の際には、効果・便益の計測手法が難しいとされており、この科目では、便益計測手法として、CVM、TCM、ヘドニックアプローチ、コンジョイント分析を取り上げ、その理論、手順、適用・研究事例、課題について学習する。		
授業の達成目標／Course Goals			
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	社会基盤デザイン学科の学習・教育目標「(H) 社会基盤整備による問題解決のための適切な施策を提案することができる」の修得に寄与する (社会基盤デザイン学科の学習・教育目標については履修案内(地域デザイン科学部)等を参照)		
前提とする知識／Prerequisites			
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	AL20：便益計測や費用便益分析の学習にあたっては、データを用いて自身で分析・計算を行うことで、技術の修得を図る。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule			
教科書・参考書等／Textbooks			
成績評価の方法／Evaluation			
学習上の助言／Learning Advice			
キーワード／Keywords			
備考／Notes	今年度は開講されません。 平成30年度から開講されますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		



授業科目名(英文名) ／Course Title	高齢者防災論		
担当教員(所属)／Instructor	古賀 誉章(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R420031
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	古賀 誉章(koga-t@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	古賀 誉章(e-mailで予約をとってから質問や相談に応じる。)		
授業の内容／Course Description	心身機能が衰えてくる高齢期には、それまでにない災厄に見舞われやすくなってしまいます。ただ災厄といっても、天災・人災から事故や犯罪などさまざまです。本科目では、高齢者をはじめとする乳幼児・障がい者ら災害弱者に対する防災について広く学び考えることで、万人の安心と安全につながる知識を得ることを目指します。具体的には、災厄の種類と特徴、安心と安全の関係、高齢者等の感覚・知覚・行動・心理の特性、日常生活での予防、罹災時の対応、罹災後のケアなどをテーマにしていく。		
授業の達成目標／Course Goals	本講義によって、高齢者の特性や被災時の人の行動について理解し、災害弱者をはじめとした様々な人々の防災に役立つ知識を得ることを、を目標とします。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	社会基盤デザイン学科専門科目の他学科科目として、学科のディプロマポリシーの中で、(H)社会基盤整備による問題解決のための適切な施策を提案することができる、と関連する		
前提とする知識／Prerequisites	特にありません。		
関連科目／Related Courses	相手の立場になって考えられるようになるためには、「バリアフリー建築論」や高齢者・障害者を主題とした講義を受講していることが望ましい。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	原則毎回、自ら考えるような小課題を出題する。 さらに数回ごとにグループに分かれて、調べ学習や議論・提案発表などを行う。(AL50)		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回 災厄の種類と特徴 1 第2回 災厄の種類と特徴 2 第3回 安心と安全の関係 1 第4回 安心と安全の関係 2 第5回 高齢者等の感覚・知覚の特性 1 第6回 高齢者等の感覚・知覚の特性 2 第7回 高齢者等の行動・心理の特性 1 第8回 高齢者等の行動・心理の特性 2 第9回 日常生活での予防 1 第10回 日常生活での予防 2 第11回 罹災時の対応 1 第12回 罹災時の対応 2 第13回 罹災後のケア 1 第14回 罹災後のケア 2 第15回 まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	(教科書)指定しません。 (参考書)未定。講義で伝えます。		
成績評価の方法／Evaluation	授業出席回数3分の2以上の受講者を対象に、小課題レポート、期末試験を総合的に評価し、原則として、90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とします。		
学習上の助言／Learning Advice	自分と異なる特性の人間の存在を認め、尊重し、理解しようとする姿勢が大切だと思います。		
キーワード／Keywords	高齢者、障害者、乳幼児、災害弱者、防災、予防、減災、ケア、安心、安全		
備考／Notes	2018年度用(社会基盤デザイン学科2016年度入学者用)		

授業科目名(英文名) ／Course Title	地域環境エネルギー計画		
担当教員(所属)／Instructor	横尾 昇剛(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R420032
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	地域環境と地域エネルギー計画に関する講義を行なう。地域の環境資源、未利用エネルギー資源を見出し、それらを地域の特性に応じて技術的に利用可能なシステムとして計画する方法論について取り扱う。先進事例、現地見学・調査、グループ課題を通じて、地域環境計画、地域エネルギー計画の基礎について理解を深める。		
授業の達成目標／Course Goals	1. 地域の環境資源、未利用エネルギーを見出すスキルを身につける。 2. 地域、都市レベルでのエネルギー供給、需給、システムについて理解する。 3. 地域の特性に応じた環境資源、エネルギー資源の活用方法について学ぶ。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	(H) 社会基盤整備による問題解決のための適切な施策を提案することができる。		
前提とする知識／Prerequisites	環境工学Ⅰ、環境工学Ⅱ等を受講しておくことが望ましい。		
関連科目／Related Courses	環境工学Ⅰ、環境工学Ⅱ、設備工学Ⅰ、設備工学Ⅱ		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義と演習が主体であるが、地域の環境資源、未利用エネルギー資源の活用を行なった先進的な事例、再開発事例を随時、紹介する。 地域エネルギー計画について個人課題とグループ課題を出す。地域環境、地域エネルギー活用方策、エネルギー需要抑制方策について討論し、発表する。 学外での現地見学・調査も行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 地域環境資源と地域エネルギー 第2週～第4週 エネルギー供給・需給システム 第5週～第7週 先進都市事例、先進地域開発事例、現地見学 第8週～第9週 地域環境の調査・分析方法、グループ発表と討論 第10週～第11週 システム計画 第12週～第13週 エネルギー計算、環境負荷計算 第14週～第15週 グループ課題発表とグループ討論		
教科書・参考書等／Textbooks	佐土原聡他、都市・地域エネルギーシステム、鹿島出版会 都市環境学教材編集委員会、都市環境学、森北出版		
成績評価の方法／Evaluation	1. 2/3以上の出席回数を満たさない場合は、不可とする。 2. 期末試験の採点に基づき、優100～85点、良84点～70点、可69点～60点とする。 60点未満は不可である。なお秀は90点以上で、且つ授業中の質疑、レポートから総合的に判断し、上位5%程度の学生数とする。		
学習上の助言／Learning Advice	地域の環境デザイン、エネルギー計画を行うための基礎的な知識、理論を身につけ、技術者の立場から環境に配慮した地域のまちづくりに貢献出来るよう期待します。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	環境・資源経済学		
担当教員(所属)／Instructor	加藤 弘二(農学部農業経済学科)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R420035
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	経済学(主にミクロ経済学)の理論をベースに、環境・資源問題がなぜ起こっているのか、どのような方法で解決することが可能であるかを理解する。		
授業の達成目標／Course Goals	環境税や排出権取引制度など環境政策手段の基本的な考え方を理解するとともに、現状の環境・資源問題と経済との関係を知る。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	社会基盤デザイン学科の学習・教育目標「(H) 社会基盤整備による問題解決のための適切な施策を提案することができる」の修得に寄与する		
前提とする知識／Prerequisites	「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」を受講していることが望ましい。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	毎回配布するプリントに沿って講義を行う。 AL20: 講義形式を基本とする。提出レポートに対する添削、授業時間での討論など参加型の学修を取り入れ、能動的学修活動を保証する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	1) 経済成長と持続可能な発展 2) 競争市場の効率性 3) 市場の失敗と環境問題 4) 環境政策その1, 環境税 5) 環境政策その2, 排出権取引制度 6) プロパティライトと環境問題 7) 自然資源の最適利用 8) 再生可能資源 9) 再生可能資源の最適利用 10) 漁業資源管理 11) コモンズ 12) 費用便益分析と環境評価 13) 農産物貿易と日本農業 14) 農産物貿易と農村環境 15) 貧困問題と環境・資源		
教科書・参考書等／Textbooks	特に指定しない。		
成績評価の方法／Evaluation	期末試験(100%)		
学習上の助言／Learning Advice	環境問題に対する経済学からのアプローチを学びます。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes	このシラバスに記載されている授業計画等は、平成28年度に農学部にて開講される「環境・資源経済学」の内容です。 社会基盤デザイン学科においては、平成30年度以降に履修が可能になりますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	工業日本語基礎Ⅱ		
担当教員(所属)／Instructor	堀尾 佳以(工学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R420039
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact			
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours			
授業の内容／Course Description	工学系留学生対象。学生による留学生支援アプリを作成します。また、宇大イグノーベル賞で実験と結果発表を行います。アクティブラーニングを通して、自分たちの学んでいる専門知識がどのように使え、役に立つのかについて考えていきます。		
授業の達成目標／Course Goals	○専門知識を応用し、「ものづくり」に活かす。 ○グループで話し合い、傾聴力をつける。 ○協力して発表の準備を進める。 ○発表の際に役立つ日本語表現を学ぶ。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	この科目は建設学科建設工学コースの学習・教育目標（G）情報および意思伝達能力の育成に寄与する。 宇都宮大学の教育目標である、「専門に関する基礎を身につけ、広い視野とバランスのとれた判断を可能にする豊かな人間性を持った人材の育成」を目指しています。特に、働きかけ力や課題発見力を身につけるだけでなく、グループ活動を通して規律性など、社会人基礎力を養います。		
前提とする知識／Prerequisites	日本語能力試験N2程度の日本語レベルが必要です。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	アクティブラーニングであり、学生の自主性を重視します。 分かりやすく伝わる発表とはどういうものかを学んだ上で、各自テーマを選び、成果を発表します。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第1週：授業および発表についての説明 第2～10週：留学生支援アプリ開発 グループ決定、アプリ開発作成 第11週：発表会練習 第12週：発表会 第13～14週：宇大イグノーベル賞 グループ討論、実験 第15週：発表会		
教科書・参考書等／Textbooks	プリント教材		
成績評価の方法／Evaluation	出席率80%以上のみ評価対象とします。 口頭発表（30%）、課題（30%）、授業態度（40%）を総合的に評価します。 「秀」90点以上、「優」80点～89点、「良」70点～79点以上、「可」60点～69点		
学習上の助言／Learning Advice	発表の準備では、日本語の原稿を書いて貰います。必ずチェックを受けてください。		
キーワード／Keywords	共通専門基礎科目、留学生支援アプリ、発表技術、協働学習		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	地域デザイン訪問		
担当教員(所属)／Instructor	池田 裕一(地域デザイン科学部), 藤原 浩巳(地域デザイン科学部), 阪田 和哉(地域デザイン科学部), 山岡 暁(地域デザイン科学部), 安森 亮雄(地域デザイン科学部), 藤本 郷史(地域デザイン科学部), 杉山 央(地域デザイン科学部), 鈴木 富之(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R100001
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 通年／Year-long 水/Wed 3, 水/Wed 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	藤原 浩巳(【藤原 浩巳】 fhiromi@cc.utsunomiya-u.ac.jp) 阪田 和哉(028-689-6220 k-sakata@cc.utsunomiya-u.ac.jp 陽東地区10号館6階10-604号室 ※ オフィスアワー訪問の空振りを避けたい場合は事前にメール等で予約することをお勧めする。) 安森 亮雄(yasumori@cc.utsunomiya-u.ac.jp) 藤本 郷史(メール: fujim@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	藤原 浩巳(12:00～12:50 事前にメールで予約が望ましい) 阪田 和哉(前期: 木曜日15:00～16:00 後期: 月曜日15:00～16:00 ※ 会議などの理由で留守の場合もある。上記以外の時間帯も在室中に対応する。) 安森 亮雄(e-mail等で予約をとってから質問・相談に応じる) 藤本 郷史(水曜日: 12:00-12:40, 工学部8号館5F 8-514室 メールで予約してから来室すること。 主要な講義ではメーリングリストシステムを構築するので活用してほしい。)		
授業の内容／Course Description	地域社会を自然、歴史、文化的側面から見つめ、これらと地域デザインの知識や技術、対応方策との関連について議論を深めることで、デザイン能力育成の端緒とする。このため、各学科で学外見学(実習)を実施し、地域社会のコミュニティや種々の施設、技術や対策の取組みに直接触れる機会を設ける。見学(実習)後には、学科混成グループに分かれて、地域社会の特性や課題についてグループディスカッションし、その結果を発表する。		
授業の達成目標／Course Goals	地域デザインの現場に直接触れて、それについて調べ、感想・意見を述べることができる。グループで実在する地域デザインについて議論し、その成果を発表することができる。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	学部共通の学習・教育目標「(B) 科学技術と地域デザインに関する共通のリテラシーを身につけている。」に寄与する。(地域デザイン科学部の学習・教育目標については履修案内(地域デザイン科学部)等を参照)		
前提とする知識／Prerequisites	前期に実施する「地域の姿と課題Ⅰ」「地域コミュニケーション演習」「情報処理基礎」は、本授業の基本となる知識やスキルを扱うので、その履修は必須である。		
関連科目／Related Courses	地域プロジェクト演習, 地域の姿と課題Ⅱ, ワークショップ演習, 地域デザイン倫理, 卒業研究		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	初めに、それぞれの学科で、その学科の学生を対象として、地域デザインに関する学外見学(実習)を実施する。 その後、学科混成のグループ編成を行い、グループごとに、①見学(実習)現場について説明・議論し、②ポスターを作成し、③発表してレポートを提出する。特に①は事前に説明の担当者を決めて準備しておく。これを各学科が実施した見学(実習)について、計3セット実施する。以上により、自分の学科の学外見学(実習)だけでなく、他の2学科のものについても知見を広め思考を深めることができ、分野を越えて統合した感覚を養うことができる。 AL80: 学外の見学と学科混成グループによるディスカッション、プレゼンテーションによって、学生が主体的に地域の主題や課題を見出すアクティブ・ラーニングを主要要素とする。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週～第5週(後期授業開始前を含む) 学科ごとに学外見学(実習)実施 第6週 学部全体ガイダンス, 学科混成グループの編成 第7週 グループワーク(1) ①グループ内で発表・議論 第8週 グループワーク(1) ②グループでポスター作成 第9週 グループワーク(1) ③ポスター発表会 第10週 グループワーク(2) ①グループ内で発表・議論 第11週 グループワーク(2) ②グループでポスター作成 第12週 グループワーク(2) ③ポスター発表会 第13週 グループワーク(3) ①グループ内で発表・議論 第14週 グループワーク(3) ②グループでポスター作成 第15週 グループワーク(3) ③ポスター発表会		
教科書・参考書等／Textbooks	特に指定しない。		
成績評価の方法／Evaluation	学外見学(実習)に参加した者を成績評価の対象とする。グループワークの1セットごとに、教員によるプレゼンテーションの評価(40%)、学生によるプレゼンテーション貢献度の他己評価(20%)、教員による学生の個人レポートの評価(40%)を合計して、そのセットの評価とする。3セットの評価の平均により総合的に成績評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	早い段階で地域デザインの現場に触れることは大変有意義であり、それについて、他者を交えて議論し発表することで、より思考を深めることができる。授業への積極的な参加を期待する。		
キーワード／Keywords	地域デザイン科学部専門科目, 学外見学, ディスカッション, グループワーク, ポスター発表, プレゼンテーション		



授業科目名(英文名) ／Course Title	地域プロジェクト演習		
担当教員(所属)／Instructor	高橋 俊守(地域デザイン科学部), 佐藤 栄治(地域デザイン科学部), 長田 哲平(地域デザイン科学部), 石井 大一郎(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R100006
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 通年／Year-long 他/0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	高橋 俊守(ttaka@cc.utsunomiya-u.ac.jp) 佐藤 栄治(e-satoh@cc.utsunomiya-u.ac.jp, 028-689-6202) 長田 哲平(E-mail : osada-teppe@cc.utsunomiya-u.ac.jp) 石井 大一郎(電話 028-649-5386 E-mail ish@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	佐藤 栄治(e-mail等で予約を取って質問, 相談に応じる) 長田 哲平(・火曜日: 10:00~12:00 ※事前にメール予約願います。 ・在室時の随時対応可(8-303) ・講義実施日の講義時間前後および休憩時間に対応) 石井 大一郎(木曜 7-8限)		
授業の内容／Course Description	「地域対応力」として特に重要な、コミュニケーション力、調査・分析力、プレゼンテーション力、チームの一員として動く力(協働力)を養成することを目的としている。学科混成グループに分かれて、これまでに修得した学部共通専門科目や各学科の専門科目の内容を総合して、地域における実問題を扱った問題解決型の演習を行う。具体的には、宇都宮市を中心とした栃木県内の自治体などを対象とし、自らの力で地域探索やヒアリング、各種調査を実施し、収集したデータを分析し問題の原因の特定や、それに対する解決策を提案する能力を身につける。各グループが携わる問題に応じ、それぞれの分野の教員がサポートする。扱う問題対象は、各自治体と協働で取り組むことができるものとし、例えば地域ぐるみ子育て、孤立する高齢者の見守りや集う場づくり、フードデザート、自然環境や生物多様性の保全、地域資源を活用した観光振興等が考えられる。本演習を学修することで、実践的な総合力を向上させ4年次の「卒業研究」に繋げることで、まちづくりを支える専門職業人としての基礎能力を備えることになる。		
授業の達成目標／Course Goals	本演習では、地域対応力に必要な(1)適切な調査設計や調査分析、(2)地域探索において自主的に行動し、具体的な解決策を提案、(3)グループ単位の口頭発表会において資料作成およびプレゼンテーションを、実践を通して身につけることを目標とする。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	地域デザイン科学部のディプロマポリシーのうち、 (B) 地域デザインに関する共通のリテラシーを身に付ける (C) 地域デザインに必要なソーシャルスキルを身に付ける (D) 地域デザインを専門とする職業人としての倫理観を養う の修得に寄与する。 また学科個別のディプロマポリシーに寄与する部分もあるため、これについては履修案内などを参照すること。		
前提とする知識／Prerequisites	とちぎ終章学総論、とちぎ終章学特講、地域デザイン訪問が履修済みであり、同科目において学んだことを知識として有していること。		
関連科目／Related Courses	とちぎ終章学総論、とちぎ終章学特講、地域デザイン訪問を履修済みであること。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	演習は140人全員による発表会等を行う「全体」、40~50人でそれぞれの学びを共有する「クラス」、調査設計や現地調査を班で行う「グループ」の3つの形式で行う。授業1、2回目で班編成を行い、その後は、班単位の個別指導、班単位の調査が中心となる。適宜、調査概要書、調査計画書を提出し、教員とディスカッションしながら進める。なお班編成は5人1チームとし、学科混成とする。また、各人がもつ社会調査、GIS、空間デザイン等のスキルを考慮して決定する。		

授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	<p>前期</p> <p>第1回：〔全体〕ガイダンス（授業のねらいと概要・進め方、調査受け入れ自治体等（＊1）による説明）</p> <p>第2回：〔全体〕ガイダンス（グループ編成、課題の捉え方と調査方法・地区課題の設定方法について学ぶ）</p> <p>第3回：〔クラス・グループ〕事前学習（人口・世帯構造や扱う地域問題に関する施策・制度を学ぶ）</p> <p>第4回：〔クラス・グループ〕事前学習（扱う地域問題に関する文献や既存資料調査）</p> <p>第5回：〔グループ〕プレ調査（現場訪問と行政職員や地域・企業・NPO等へのヒアリング）</p> <p>第6回：〔グループ〕調査設計（①担当課題の問題点の抽出 ②調査方法の検討 ③計画書骨子の作成）</p> <p>第7回：〔グループ〕調査設計（①調査項目の整理 ②予想される結論の検討 ③調査スケジュールの作成）</p> <p>第8回：〔全体〕合同発表会～各グループによる調査計画の発表と相互評価</p> <p>第9回：〔全体〕合同発表会～各グループによる調査計画の発表と相互評価</p> <p>第10回：〔グループ〕調査計画の確定～班ごとに面談による個別指導</p> <p>第11回：〔グループ〕現地調査</p> <p>第12回：〔グループ〕現地調査</p> <p>第13回：〔グループ〕現地調査</p> <p>第14回：〔クラス〕中間報告</p> <p>第15回：〔クラス〕中間報告</p> <p>後期</p> <p>第1回：〔グループ〕現地調査</p> <p>第2回：〔グループ〕現地調査</p> <p>第3回：〔クラス・グループ〕調査結果の整理と発表会資料の作成</p> <p>第4回：〔全体〕合同発表会～全班によるプロジェクトの中間発表と相互評価</p> <p>第5回：〔全体〕合同発表会～全班によるプロジェクトの中間発表と相互評価</p> <p>第6回：〔グループ〕現地調査</p> <p>第7回：〔グループ〕現地調査</p> <p>第8回：〔グループ〕現地調査</p> <p>第9回：〔クラス・グループ〕調査データの整理と分析、考察</p> <p>第10回：〔グループ〕調査データの整理と分析、考察</p> <p>第11回：〔クラス・グループ〕まとめ、プレゼンテーション資料作成（プレゼンテーションの作成法について）</p> <p>第12回：〔グループ〕まとめ、プレゼンテーション資料作成 （①調査目的 ②調査概要 ③調査内容 ④対応策の検討 ⑤改善案の提案）</p> <p>第13回：〔全体〕合同発表会</p> <p>第14回：〔全体〕合同発表会</p> <p>第15回：受け入れ自治体・地域・企業・NPO等を交えたシンポジウム形式における討論会</p>
教科書・参考書等／Textbooks	資料を配付することがある
成績評価の方法／Evaluation	<p>教員と学生相互による評価及び出席点・提出物から成績をつける。</p> <p>成績点＝最終合同発表会評価（教員評価＋学生評価）＋出席点＋提出物</p> <p>尚、批評者や審査員についても不当な質疑や採点の場合は減点対象とする。</p>
学習上の助言／Learning Advice	<p>5人1班で演習を進める。一人ひとりに役割があり主体的な参加が求められる。実社会での演習を通して、自分なりの興味・関心を持ち、4年次の卒業研究に生かしてほしい。</p> <p>興味・関心を広げるため、地元メディア（下野新聞や地域情報紙）に日頃から目を通しておくとよい。</p> <p>地域プロジェクト演習での実践を通して、大学での学びが社会の中でどのように生かすことができるのかを知ることができる。こうした経験は、社会の中の自らの役割を知ることにもつながり、自らのキャリアデザインにも役に立つだろう。</p>
キーワード／Keywords	地域デザイン 演習
備考／Notes	



授業科目名(英文名) ／Course Title	International Political Economics		
担当教員(所属)／Instructor	小林 敏雄(その他)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R190001
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 通年／Year-long 他/0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	Since the end of the cold war at the beginning of 1990s, Three factors have affected the world economically as well as politically. First, globalization has interconnected the world more and more closely. Second, rapid technological development has changed industrial structure, financial businesses and daily life. Third, emerging economies have become more and more important in the world economy as well as politics. We will learn these changes and discuss benefits and issues brought about by them.		
授業の達成目標／Course Goals	This course provides participants with clear images of the current issues that the world economy is now facing and tackling with. In addition, based on the discussion of those issues in the class, participants are expected to have their own opinions about how to challenge with them.		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	この授業は、全学共通科目の“Learning+1”が目標とする「英語運用能力や異文化社会およびグローバルな共存社会への知識を深め、国際的なフィールドでの実践力を身につける」と関連します。		
前提とする知識／Prerequisites	Participants should have interests in world political and economic issues indicated on this lecture program. This course does not require advanced level English ability. It would be sufficient to have skills to read the articles written in English indicated below.		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	After reviewing the current world economic situation and challenges, we will pick up five topics. We will read relevant articles on each topic and discuss on these issues. One or two participants will be assigned to present the summary of the article he or she read.		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	1.Guidance and introduction 2.Review of changes of the world economy during the past decades 3.What are the main issues the world economy is now facing? 4.Asian currency crisis (1); What were the causes of the crisis, and what differences were there between the Asian currency crisis and the previous debt crises in the Latin American countries in 1980s? 5.Asian currency crisis (2); Why were the IMF prescriptions, so called “Washington consensus” criticized? 6.Lehman Brothers collapse(1);Financial Globalization 7.Lehman Brothers collapse(2); Global Contagion 8.Lower Growth of World Economy (1); What is the current world economic situation? 9.Lower Growth of World Economy (2);What would be matters of low economic growth 10.Issues of inequality (1); Current situation of inequality in developed countries 11.Issues of inequality (2); Policy measures towards inequality 12.Relevance of the current international economic organizations (1); Are the international economic organizations established after World War II still relevant to changing world economic and financial situations ? 13.Relevance of the current international economic organizations (2); Assessments of the relevance 14.Writing a short essay; participants are assigned to write a short essay on one of the issues we discussed in the class 15.Presentation of the essay		
教科書・参考書等／Textbooks	ご案内いたしますので修学支援課国際学部係までメールをお願いします。 アドレス (syu-koku@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp)		
成績評価の方法／Evaluation	Attendance30%, Contribution to discussion in the class 30%, Presentation of the essay 40%		
学習上の助言／Learning Advice	Be active in the class discussion and enjoy studying in English		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	Global Management		
担当教員(所属)／Instructor	栗原 俊輔(国際学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R190002
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 通年／Year-long 他/0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	<p>This course provides students with the opportunities for critically reviewing and analyzing the on-going global challenges, beyond borders and across disciplines around the world. Through providing conceptual clarity and concrete case studies, students will be directed to understanding and drawing an overall picture of global issues. Students will also learn about some practical technics and tools for problem analysis, in order to analyze the global issues and seek the real global agenda.</p> <p>Globalization is a relatively new aspect, in association with economic activities, political interventions, social network and many more aspects beyond borders. Therefore, it is also critical to learn and explore about the new actors in the scene such as NGOs and Civil Society. The course will then finally explore the possible ways and alternatives of solution for global issues, examining the major key actors.</p>		
授業の達成目標／Course Goals	<p>At the end of the course with proactive attendance, students will be able to:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-Clarify and understand roles of the actors in global issues</li> <li>-Address, demonstrate and analyze the current issues of globalization and the way forward</li> </ul>		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	This course is related proactively to “Learning +1” as to gaining practical skills of English proficiency and inter-cultural communication, required for professionals in the international filed		
前提とする知識／Prerequisites	No particular prerequisites for this course		
関連科目／Related Courses	No particular prerequisites for this course		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	The course approach is three-fold; 1) interactive lectures, 2) workshops and 3) presentations and discussions. The course will first provide a series of lectures on the overall global issues and the selected case studies, followed by workshops providing students with the opportunities for experiencing the current global issues through activities and discussions. Students will finally make their presentations on their learning at the session.		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	<p>Day 1</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.Global issues beyond boarders ? overall view</li> <li>2.Economic development and social justice: Case study ? Producers and consumers of tea, coffee and clothing</li> <li>3.Workshop 1: Connecting the international community</li> <li>4.Workshop (continued)</li> <li>5.Debriefing</li> </ol> <p>Day 2</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6.International politics and peace building: How civil wars occurred and ended</li> <li>7.International politics and peace building: analytical views</li> <li>8.Workshop 2: Do No Harm ? its theory and practice</li> <li>9.Workshop (continued)</li> <li>10.Debriefing</li> </ol> <p>Day 3</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>11.Actors in global governance: NGOs and Civil Society</li> <li>12.Workshop 3: Connecting pieces of our day-to-day life and the global issues</li> <li>13.Workshop (continued)</li> <li>14.Presentations by students</li> <li>15.Debriefing: Set the global agenda based on what we learned and identified</li> </ol>		
教科書・参考書等／Textbooks	No prior reference or textbooks required		
成績評価の方法／Evaluation	Attendance 30%, Class Participation 30%, Final Report (in English) 40%		
学習上の助言／Learning Advice	This course will be conducted in English, but academic knowledge of the language is not a critical prerequisite. Active participation is the most important for those interested in this course to bring in and share students’ experiences to discussions. Proficiency is not an issue!		

キーワード／Keywords	
備考／Notes	

授業科目名(英文名) ／Course Title	Globalization and Society		
担当教員(所属)／Instructor	湯本 浩之(留学生・国際交流センター)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R190003
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 通年／Year-long 他/0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	湯本 浩之(研究室：峰キャンパス5号館C棟1階 TEL&FAX: 028-649-5236 (直通) E-mail: yumoto@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	湯本 浩之(毎週火曜: 12:10~13:00 ※来室する際には事前に連絡してください。オフィスアワー以外でも可能な範囲で対応します。)		
授業の内容／Course Description	In this course, we learn and discuss about what "globalization" is and what have been going on in this global society. This course introduces some basic ideas of "globalization" and "global issues" in local and global communities. Also, through some groupworks and workshops, some participatory learning skills of global education will be introduced so that we can understand those global issues and take actions for our common future.		
授業の達成目標／Course Goals	The aim of this course is to think globally, act locally and, most importantly, to change personally. In this course, students are expected: 1) to recognize critical events and problems in the world as "global issues", 2) to analyze the causes and the connections with us and Japanese society, and 3) to present his/her own action plan for a fairer and more sustainable society.		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	この授業は、全学共通科目の"Learning+1"が目標とする「英語運用力や異文化社会およびグローバルな共生社会への知識を深め、国際的なフィールドでの実践力を身につける」と関連します。		
前提とする知識／Prerequisites	There are no prerequisites for this course. This class doesn't need advanced-level English skills, so please don't hesitate to join this English-speaking class! In this class, we help each other to learn more about ourselves and our societies. Be active and have a fun!		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	This course will be a series of workshops, which consist of group works, activities and lectures. Active participation is highly welcomed. The following course schedule is tentative and subject to change depending on the number of students and the progress of workshops.		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	Day1 What's Going on in our Yourself? WS1: Self-Introduction and Ice-Breaking WS2: The Material World: What Happiness and Richness are? WS3: Cultural Identity: Majority and Minority  Day2 What's Going on in Your Communities and the World? WS4: What Does It Mean to be "Eco-freindly"? WS5: What are the most serious issues in the Global Society? WS6: Light and Shadow of Globalization  Day3 That We May Live Together in the Modern Society! WS7: Global Issues and Perspectives in Our Society WS8: Action Planning WS9: Group Presentation and Sharing  The content and order of Course Plan and workshops will be subject to be changed by the number of students and/or the progress of our programs.		
教科書・参考書等／Textbooks	No required texts.		
成績評価の方法／Evaluation	Attendance 30%, Class Participation 30%, Final Report (English) 40%		
学習上の助言／Learning Advice	この授業は、将来、海外留学をはじめ、海外でのインターンシップやボランティア活動などを考えているけれども、「英語には自信がない人」を主な対象にします。英語による講義や議論、グループワークに慣れながら、地球社会が直面する問題を英語で理解し、自分の意見やアイデアを英語で発表することを目指します。したがって、必要とされる英語力は初級レベルで結構です。英語が得意な人の履修も歓迎しますが、授業の趣旨や授業で使う英語のレベルを理解した上での履修をお願いします。 なお、授業内で紹介するワークショップは、基盤教育科目の「ワークショップで学ぶ変わりゆく現代社会の中の私たち」と一部重複することがあります。		
キーワード／Keywords	This class intends for the students who are planning to go study abroad, or to join overseas internship program, or to do volunteer activities abroad, even though they are not yet good at English.		

備考／Notes	<p>In this class, the students get accustomed with English lectures, discussions and group work so that they become to able to understand global issues and express their own ideas and opinions in English. Therefore, you don't need advanced-level English skills to join this class.</p> <p>This class, of course, welcomes those who are good at English, but please join this class after understanding the aims and English level of this class.</p>
----------	---

授業科目名(英文名) ／Course Title	Intercultural Education		
担当教員(所属)／Instructor	立花 有希(その他)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R190005
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 通年／Year-long 他/0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	立花 有希(tachibana@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	立花 有希(月曜7-8時限、研究室)		
授業の内容／Course Description	This course examines various theories and practices of intercultural/multicultural education, with a focus on the concepts like bilingualism, heterogeneity, citizenship, social cohesion and so on.		
授業の達成目標／Course Goals	This course aims at making students understand educational challenge in multicultural society.		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	この授業は、全学共通科目の"Learning+1"が目標とする「英語運用力や異文化社会およびグローバルな共生社会への知識を深め、国際的なフィールドでの実践力を身につける」と関連します。		
前提とする知識／Prerequisites	None.		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	The course format is primarily made of lectures, pair or group work, presentations and in-class discussions. Each student will be assigned to present one of case studies in a class. In your presentation, you have to summarize reference books and provide your comment on it.		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	1. Introduction 2. Transnationalism and migration 3. Intercultural/multicultural education 4. Bilingualism in education 5. Heterogeneity in education 6. Case study (1) Immigrant youths in Berlin 7. Case study (2) The education of migrants and minorities in Britain. 8. Case study (3) Australia: Educational changes and challenges 9. Case study(4) Japan: Long-existing minorities and education 10. Case study(5) Japan: Schools, communities, and 'newcomer' children 11. School achievement of migrant students 12. Educational policies for integration 13. Group work 14. Presentation 15. Conclusion and further discussion on multiculturalism in Japanese education		
教科書・参考書等／Textbooks	Luchtenberg, S.(eds.). Migration, Education and Change. London; Routledge, 2012. Tsuneyoshi, R., Okano, K.H. and Boocock, S. (eds.). Minorities and Education in Multicultural Japan: An interactive perspective. London; Routledge, 2011		
成績評価の方法／Evaluation	Contribution to discussion 50%, Presentation 25%, Paper 25%		
学習上の助言／Learning Advice	Enjoy the use of English to learn academic subjects.		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	卒業研究		
担当教員(所属)／Instructor	各教員（地域デザイン科学部）（地域デザイン科学部）		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R216002
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 通年／Year-long 他/0th.	単位数／Credits	4単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact			
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours			
授業の内容／Course Description	専門分野に関する創造的な学修・研究活動を行い、専門知識・技術の実践的な応用力を培うことを目的とする。具体的には、学生が自ら研究テーマを設定し、そのテーマに基づいて、先行研究の整理、関連する理論的検討を重ね、フィールド調査、定性・定量データの収集と解析、分析結果のまとめ、提言等の作業を総体として行う。学部学生の集大成である卒業論文の完成を目指して毎回の指導で段階的に文章を書き上げる形で進めていく。コミュニティデザインの領域において、各自が設定したテーマについて、現場での調査や文献研究を徹底的に掘り下げつつ行う。		
授業の達成目標／Course Goals			
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	コミュニティデザイン学科専門科目主題探究科目群の科目として、「地域デザインを専門とする職業人としての倫理観」を養う。「地域社会の課題を発見するとともに、分析することができる能力」を身に付ける。「地域で主体的・協働的に行動し、活力あるコミュニティの形成に貢献できる能力」を身に付ける。		
前提とする知識／Prerequisites			
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	AL80：グループ学修，フィールドでのアンケート調査，データの解析と結果のまとめ，提言の発表などを行う。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule			
教科書・参考書等／Textbooks			
成績評価の方法／Evaluation			
学習上の助言／Learning Advice			
キーワード／Keywords			
備考／Notes	今年度は開講されません。 平成31年度から開講されますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	建築環境実験		
担当教員(所属)／Instructor	横尾 昇剛(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R310024
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 通年／Year-long 他/0th.	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	本実験は、熱・光・音・空気などの自然の要素が建築内外においてどのような現象を示すかを定量的に測定する方法や分析・評価する方法を学び、自然現象と建築技術の調和を図るための基礎的知識を習得する。また自主的に自由に実験目的を設定して測定を行い考察する能力を身につける。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱・光・音・空気質等の建築物に関わる基本的な環境要素の測定法を習得する。</li> <li>・現象や実態に対する興味、疑問をもとに、解明のためのテーマを設定する力を養う。</li> <li>・設定したテーマに対し、適切な測定計画をたてる力を養う。</li> <li>・測定結果の特徴を分析する力、正しく比較評価する力を養う。</li> <li>・測定結果の効果的な表現力、考察の記述力、簡潔な結論の記述力を養う。</li> </ul>		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	建築学コースの学習・教育目標との関係 (5) 自然現象のメカニズムを理解し、建築・地域デザイン技術に活かす能力を身につける。		
前提とする知識／Prerequisites	「環境工学Ⅰ、Ⅱ」「設備工学Ⅰ、Ⅱ」を修得することが望ましい。		
関連科目／Related Courses	「環境工学Ⅰ、Ⅱ」「設備工学Ⅰ、Ⅱ」を修得することが望ましい。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	授業は、5つの実験項目と3つの調査項目からなる。実験は、グループごとに自由に実験目的を設定し、実験目的に適する測定方法を計画し測定を行う。 また模型などを用いて、環境デザインにより、模型内部の熱環境、光環境がどのように変化するかについて体験する。 調査は、各自が調査目的を設定し調査を行う。各実験・調査項目についてレポートを作成する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	①実験の進め方(1、2週)、②熱(3～6週)、③空気・気流(7、8週)、④光・色(9～12週)、⑤音(13、14週)、⑥実験総括(15週)。また調査は次の3つの調査を行う。①エネルギー、②身近な熱現象、③環境調整手法		
教科書・参考書等／Textbooks	教材：配付資料、参考資料：参考レポート(授業時に貸出し) 参考書：建築環境工学実験用教材Ⅰ、丸善(図書館所蔵)		
成績評価の方法／Evaluation	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2/3以上の出席回数を満たさない場合は、評価の対象とならない。</li> <li>・全ての実験を実施し、実験項目、調査項目ごとに課されるレポート全てを提出しないと単位は取得できない。</li> <li>・各レポートの採点に基づき優89～85点、良84～70点、可69～60点として評価を行う。</li> </ul> 60点未満は不可である。なお秀は、90点以上で、且つ授業、レポートへの取り組み状況から総合的に判断する。		
学習上の助言／Learning Advice	現象を定量化し比較することの重要性を認識し、日頃見逃している環境の特性に関心を持つてほしい。また独創的な実験計画を立てることを望む。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			



授業科目名(英文名) ／Course Title	卒業研究		
担当教員(所属)／Instructor	各教員（地域デザイン科学部）（地域デザイン科学部）		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R319001
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 通年／Year-long 他/0th.	単位数／Credits	4単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact			
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours			
授業の内容／Course Description	卒業研究は、それまでの授業で学習した知識や経験の応用として、建築・都市デザインに関するテーマの研究に取り組み、問題解決のための分析と提案を行うものである。具体的には、配属される研究室において、指導教員による指導の下、実験、実測、現地調査、数値計算などを行い、得た資料・データを整理、分析し、有用で新しい提案を行い、論文としてとりまとめ発表審査を受ける。		
授業の達成目標／Course Goals	卒業研究の達成目標は、主に専門科目において習得した知識や技術を集大成すべく、それらを応用して各自が取り組む研究テーマについて課題解決を図る能力を身につけること。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	下記の建築都市デザイン学科の学修・教育目標に対応します。 （6）人間および社会の要求・条件を理解し、建築・地域・環境・制度を構築する能力を身に付ける。 （7）資源活用と建設プロセスを構想し、建築・まちづくりとして実現する能力を身に付ける。 （9）工学・地域デザインと芸術・文化のバランスのとれた感性を磨く。		
前提とする知識／Prerequisites	学部授業で得た建築に関わる知識・考え方、日常生活に対する問題意識（建物の安全性・耐久性・快適性の向上、高齢者問題や景観・まちづくり等）学部専門科目（必修・選択）のうち卒業研究着手に必要な単位数と内容を修得していること。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	研究チームの一員として、協力しながら実験、実測、調査、数値計算などを行い、定期的に行う研究室のゼミで成果を発表するとともに、ディスカッションを通して問題解決の方針を決める。最終的な成果を卒業論文として書き上げ、審査会で発表する。卒業研究はおおむね下記計画の手順に従って取り組まれる。長期にわたる取組であり、取組姿勢として計画性、自主性、持続性、そして科学的態度、論理的明晰性などが求められる。なお、その後に大学院進学者を中心に建築学会等への発表準備に取り組むこととなる。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	1．研究テーマに関するオリエンテーション 2．研究テーマの選択 3．研究テーマの理解（関連研究資料の収集と読み込み） 4．研究方法および研究内容の検討 5．実験装置製作、資源調達等（必要に応じて） 6．研究作業の予備的試行 7．研究方法および研究内容の再検討（必要に応じて） 8．研究作業の本格的実施 9．実施結果の分析・解析 10．補足的検討、モデリング（必要に応じて） 11．本論文の執筆 12．梗概作成 13．発表内容の検討・発表準備 14．論文発表 15．本論文提出		
教科書・参考書等／Textbooks	各指導教員の指導に従うこと。		
成績評価の方法／Evaluation	梗概提出、論文発表、本論文提出を行った者を対象に、梗概、発表と質疑応答、本論文の内容から、取り組んだ研究テーマについて課題解決を図る能力を身につけたかどうかを判断し評価する。具体的には、学習保証時間が適正であることを前提に、発表審査会を経て、社会的有用性、工学的理解度、論文構成・完成度、発表およびマネージメント（締切遵守）の評価の観点に基づき計10点満点で成績評価を行い、6点以上を合格とする。秀、優、良、可の区分は点数を勘案し、教員の協議により決定する。		
学習上の助言／Learning Advice	卒業研究は、主に学部専門科目において習得した知識や技術を集大成するもので、卒業設計と同じく大変やりがいがある。卒業研究の成果は各自がかけた熱意や労力の大きさに比例し、よい成果を生んだ卒業研究にはそれだけ大きな達成感がある。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	卒業設計		
担当教員(所属)／Instructor	各教員（地域デザイン科学部）（地域デザイン科学部）		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R319002
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 通年／Year-long 他/0th.	単位数／Credits	4単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact			
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours			
授業の内容／Course Description	卒業設計は、設計製図をはじめとする授業で修得した建築・都市デザインに関する知識・技術にもとづき、建築や地域の設計提案を行うものである。具体的には、自ら設計テーマや敷地、建物用途などを自由に設定し、配属される研究室の指導教員のほか、各分野の教員の指導も受けながら提案をまとめ、与えられた枚数の建築図面として表現して発表審査を受ける。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史文化を継承し、地域社会に貢献する建築の意識を持つ。</li> <li>・都市や地域が育んできた歴史や空間の中で建築設計を行う能力を磨く。</li> <li>・施設建築の建築条件を理解し、設計を行う能力。</li> <li>・建築学に関する包括的な専門知識と構造、計画、意匠・歴史、環境・設備、材料・構法、再生・安全等の専門知識の活用。</li> </ul>		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	<p>下記の建築都市デザイン学科の学修・教育目標に対応します。</p> <p>(6) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築・地域・環境・制度を構築する能力を身に付ける。</p> <p>(7) 資源活用と建設プロセスを構想し、建築・まちづくりとして実現する能力を身に付ける。</p> <p>(8) 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築・地域を創造するデザイン能力を身に付ける。</p> <p>(9) 工学・地域デザインと芸術・文化のバランスのとれた感性を磨く。</p>		
前提とする知識／Prerequisites	学部専門科目（必修・選択）のうち卒業設計着手に必要な単位数と内容を修得していること。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	学部在学中の設計教育の集大成として、所属研究室の教員が担当し、製図担当の教員がそれを補佐する形を取る。指導は学生各自の自主性を尊重し、本人が必要な時、希望する教員とコンタクトを取り指導を受ける。各所属研究室の下で、学生の自主を尊重して進められるが、テーマの選定、進行状況について、建築都市デザイン学科として、プレゼンテーションシートの提出や中間発表を行いチェックする。最終的な成果を作品として完成させ、審査会で発表する。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	1)設計テーマの検討                      2)設計敷地の検討 3)現地調査・分析                        4)現地調査・分析 5)コンセプトの立案                      6)基本計画とエスキース 7)中間指導を受ける                      8)計画案の具体化 9)各自作業                                10)中間指導を受ける 11)基本図面の作成作業                    12)基本図面の作成作業 13)基本図面の作成作業                    14)模型の作成作業 15)展示・発表・講評		
教科書・参考書等／Textbooks	各指導教員の指導に従うこと。		
成績評価の方法／Evaluation	以下の観点で評価を行う。 ①着眼・構想：社会的・地球環境的視点、技術者倫理、プログラミング、先駆性 ②工学的合理性：各分野（構造・計画・環境・材料）の知識応用、法規適合性 ③構成・造形・表現：作品統一性・調和性、完成度・密度（図面・模型） ④発表：時間（配分を含む）、わかりやすさ、質疑応答 ⑤マネージメント：締切厳守、時間管理 発表会等における評価の観点に基づき計10点満点で成績評価を行い、6点以上を合格とする。		
学習上の助言／Learning Advice	学部4年間の設計の集大成であることを意識してやって欲しい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	学外実習Ⅰ		
担当教員(所属)／Instructor	郡 公子(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R320012
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 通年／Year-long 他/0th.	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	郡 公子(689-6232 hot@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	郡 公子(火曜日11:00-12:00 10号棟6F)		
授業の内容／Course Description	本科目は全学年を対象としており、実習の担当教員は、学年担任および研究指導教員である。また、開講時期も各担当教員との相談で適宜対応できる。		
授業の達成目標／Course Goals	建築学は実社会との結び付きが極めて強く、学内における講義、演習、実験だけではなく実社会での体験、知識の習得が重要である。本科目では、学外における実社会での体験を通して建築学の社会に果たす役割の一端を把握すること、建築学を学ぶ目的の再確認、そして学生本人の将来の進路を検討するための一つ機会として位置付ける。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	建築都市デザイン学科の学習・教育目標のなかの以下の目標と関係する。 (2) 地域における多様な主体との間で意思疎通が図れるコミュニケーション能力を身に付ける。		
前提とする知識／Prerequisites	建築全般に対する興味や好奇心が大切である。		
関連科目／Related Courses	建築科目全般		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	この授業は様々な実社会体験を対象にしており、インターンシップ以外の実社会体験も対象となる。民間企業やNPO団体やボランティア団体などの実習先を、自ら候補を選びその情報を収集した上で、担当教員と相談して決める。実習先では、責任をもって役割分担の仕事を体験する。実習後は報告書をまとめる。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	個人単位で民間企業や社会団体等に出向いて実習作業を行い、作業日誌や体験レポートなどを作成し提出する。 学外実習Ⅰでは実習期間が1週間以上の体験を合格基準とする。		
教科書・参考書等／Textbooks	特になし		
成績評価の方法／Evaluation	各担当教員と相談して決めたレポート提出〆切を守り、内容が合格の時は「優」以上の成績を与える。		
学習上の助言／Learning Advice	学外実習は大学の授業では得られない経験をすることが出来る機会である。積極的に参加し、実社会の一端を経験し、将来の進路を考える機会として欲しい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	学外実習Ⅱ		
担当教員(所属)／Instructor	郡 公子(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R320013
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 通年／Year-long 他/0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	郡 公子(689-6232 hot@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	郡 公子(火曜日11:00-12:00 10号棟6F)		
授業の内容／Course Description	本科目は全学年を対象としており、実習の担当教員は、学年担任および研究指導教員である。また、開講時期も各担当教員との相談で適宜対応できる。		
授業の達成目標／Course Goals	建築学は実社会との結び付きが極めて強く、学内における講義、演習、実験だけではなく実社会での体験、知識の習得が重要である。本科目では、学外における実社会での体験を通して建築学の社会に果たす役割の一端を把握すること、建築学を学ぶ目的の再確認、そして学生本人の将来の進路を検討するための一つ機会として位置付ける。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	建築都市デザイン学科の学習・教育目標のなかの以下の目標と関係する。 (2) 地域における多様な主体との間で意思疎通が図れるコミュニケーション能力を身に付ける。		
前提とする知識／Prerequisites	建築全般に対する興味や好奇心が大切である。		
関連科目／Related Courses	建築科目全般		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	この授業は様々な実社会体験を対象にしており、インターンシップ以外の実社会体験も対象となる。民間企業やNPO団体やボランティア団体などの実習先を、自ら候補を選びその情報を収集した上で、担当教員と相談して決める。実習先では、責任をもって役割分担の仕事を体験する。実習後は報告書をまとめる。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	個人単位で民間企業や社会団体等に出向いて実習作業を行い、作業日誌や体験レポートなどを作成し提出する。 学外実習Ⅱでは実習期間が2週間以上の体験を合格基準とする。		
教科書・参考書等／Textbooks	特になし。		
成績評価の方法／Evaluation	各担当教員と相談して決めたレポート提出〆切を守り、内容が合格の時は「優」以上の成績を与える。		
学習上の助言／Learning Advice	学外実習は大学の授業では得られない経験をすることが出来る機会である。積極的に参加し、実社会の一端を経験し、将来の進路を考える機会として欲しい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	建築インターンシップ		
担当教員(所属)／Instructor	郡 公子(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R320032
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 通年／Year-long 他/0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	郡 公子(689-6232 hot@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	郡 公子(火曜日11:00-12:00 10号棟6F)		
授業の内容／Course Description	本科目は全学年を対象としており、実習の担当教員は学年担任である。また、開講時期も各担当教員との相談で適宜対応できる。		
授業の達成目標／Course Goals	建築学は実社会との結び付きが極めて強く、学内における講義、演習、実験だけではなく実社会での体験、知識の習得が重要である。本科目では、学外における実社会での体験を通して建築・都市デザイン学の社会に果たす役割の一端を把握すること、建築・都市デザイン学を学ぶ目的の再確認、そして学生本人の将来の進路を検討するための一つ機会として位置付ける。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	建築都市デザイン学科の学習・教育目標のなかの以下の目標と関係する。 (2) 地域における多様な主体との間で意思疎通が図れるコミュニケーション能力を身に付ける。		
前提とする知識／Prerequisites	建築全般に対する興味や好奇心が大切である。		
関連科目／Related Courses	建築科目全般		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	この授業は建築関連分野の企業や団体などでのインターンシップを対象とする。建築関連分野の企業や団体などの学外組織である実習先を、自ら候補を選びその情報を収集した上で、学年担当と相談して決める。実習先では、責任をもって役割分担の仕事を体験する。実習後は報告書をまとめて提出する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	個人単位で民間企業や社会団体等に出向いて実習作業を行い、作業日誌や体験レポートなどを作成し提出するとともに発表会で発表する。 実習期間が2週間以上の体験を合格基準とする。		
教科書・参考書等／Textbooks	特になし		
成績評価の方法／Evaluation	各担当教員と相談して決めたレポート提出〆切を守り、内容が合格の時は「優」以上の成績を与える。		
学習上の助言／Learning Advice	建築インターンシップは大学の授業では得られない経験をすることが出来る機会である。積極的に参加し、実社会の一端を経験し、将来の進路を考える機会として欲しい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	建築学外実習		
担当教員(所属)／Instructor	郡 公子(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R320033
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 通年／Year-long 他/0th.	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact	郡 公子(689-6232 hot@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours	郡 公子(火曜日11:00-12:00 10号棟6F)		
授業の内容／Course Description	古建築や伝統的町並みの見学，あるいは最新の技術を駆使した建築の見学を通して，今後の建築のあり方を考察することに役立てる建築文化や建築技術について学びます．		
授業の達成目標／Course Goals	国内または国外の建築物を実際に見学し，建築に対する理解を深める		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	建築都市デザイン学科の学習・教育目標のなかの以下の目標と関係する。 (8) 歴史文化を尊重し，目標を立てて建築・地域を創造するデザイン能力を身に付ける		
前提とする知識／Prerequisites	都市計画，建築計画，歴史・意匠，建築構造，建築環境，建築材料の基本的な知識		
関連科目／Related Courses	都市計画，建築計画，歴史・意匠，建築構造，建築環境，建築材料の基本的な知識		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	国内または国外の建築物を実際に見学する．		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	1) 建築見学のテーマ，見学計画についての検討 建築見学のテーマについて検討を行う．幾つかのテーマについて，見学すべき都市や建築を選び出し，見学する視点や比較すべき項目などを考え，計画案を作成して検討し，採用案を決定する． 2) 見学対象建築に関する事前調査 文献調査を中心に，歴史的背景，建築や技術の特徴などを調査し，ディスカッションする．都市・地域計画，建築計画・意匠，建築構造，建築環境・設備，建築材料・構法など幅広い視点から調査し，見学にて注目すべき点を整理する． 3) 見学見学計画に従い，見学を実施する．見学記録を分担して作成する．例年，春休みに8日間程度の見学旅行を行う． 4) 見学後の資料・データの整理と考察 事前調査の資料と見学により得られた新しい資料や記録をもとに，各自自由な視点から考察を行い，建築や都市，技術が目指すべき方向などについて考察する．		
教科書・参考書等／Textbooks	特に指定なし．適宜，見学に必要な資料を集める必要がある．		
成績評価の方法／Evaluation	見学記録およびレポートによって評価し，内容が合格の時は「優」以上の成績を与える		
学習上の助言／Learning Advice	人の生活や活動から要求される建築の高度な諸機能，周囲との調和を総合的に満たして建築を実現する手法を実際の建築物を見学することで学んでほしい．		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	工業日本語応用		
担当教員(所属)／Instructor	堀尾 佳以(工学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R320037
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 通年／Year-long 他/Oth.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact			
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours			
授業の内容／Course Description	工学系留学生対象の日本語授業です。 4年間の日本語学習の集大成として、作文技術を学びます。		
授業の達成目標／Course Goals	○日本語の作文力をつける。 ○伝えるための文章の書き方について学ぶ。 ○卒業論文に向け、様々な文章を書く。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	この科目は建設学科建設工学コースの学習・教育目標（G）情報および意思伝達能力の育成に寄与する。 宇都宮大学の教育目標である、「専門に関する基礎を身につけ、広い視野とバランスのとれた判断を可能にする豊かな人間性を持った人材の育成」を目指しています。特に、働きかけ力や課題発見力を身につけるだけでなく、グループ活動を通して規律性など、社会人基礎力を養います。		
前提とする知識／Prerequisites	日本語能力試験N2程度の日本語レベルが必要です。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	アクティブラーニングであり、学生の自主性を重視します。 分かりやすく伝える文とはどういうものかを学んだ上で、成果を発表します。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	【前期】 第1週：授業および発表についての説明 第2～8週：分かりやすい文章とは 第9週：作文発表会 第10～12週：小説 第13～14週：読書感想文 作成 第15週：読書感想文 発表会 【後期】 第1週：所属研究室ごとの卒業論文傾向分析 第2～9週：卒業研究 内容および実験 ポスター作成 第15週：ポスター発表会 第11～14週：卒業論文構成 第15週：発表会		
教科書・参考書等／Textbooks	プリント教材		
成績評価の方法／Evaluation	出席率80%以上のみ評価対象とします。 口頭発表（30%）、課題（30%）、授業態度（40%）を総合的に評価します。 「秀」90点以上、「優」80点～89点、「良」70点～79点以上、「可」60点～69点		
学習上の助言／Learning Advice	日本語で書かれた文をたくさん読みましょう。		
キーワード／Keywords	共通専門基礎科目、作文技術、伝えるための文		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	測量学実習		
担当教員(所属)／Instructor	長田 哲平(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R410018
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 通年／Year-long 他/0th.	単位数／Credits	3単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	長田 哲平(E-mail : osada-teppe@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	長田 哲平(・火曜日:10:00～12:00 ※事前にメール予約願います。 ・在室時の随時対応可(8-303) ・講義実施日の講義時間前後および休憩時間に対応)		
授業の内容／Course Description	本実習は社会基盤デザインにおける基礎的な実習である。 前期の15週にわたる陽東キャンパス内での実習と、夏期休業中に行う2泊4日の実習合宿にて行う。		
授業の達成目標／Course Goals	(1) 測量実習時の課題を理解し、計測方法を身につけるとともに、現地での測量結果をとりまとめ、補正計算などの必要な計算をおこなうことができる。 (2) 測量計画にそった作業を実施し、各自が自分の役割を認識し、分担・共同して測量作業をおこなうことができる。 (3) 継続的な実習・作業をおこなうことができる、ことを教育目標とする。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	社会基盤デザイン学科の学習・教育目標「(E) 自然科学の基礎理論と社会基盤整備のための専門的な基礎知識が理解できる」、「(F) 社会基盤整備の実務上の問題に専門知識を適用・発展することができる」、「(I) 社会基盤整備および施策を、適切な形で着実にやり遂げることができる」の修得に寄与する (社会基盤デザイン学科の教育目標については、履修案内(地域デザイン学部)等を参照のこと)		
前提とする知識／Prerequisites	高校程度の数学の知識と測量学で学んだことを活用する。		
関連科目／Related Courses	高校程度の数学の知識と測量学で学んだことを活用する。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	測量学実習は6人程度の班編成をして、班単位で測量技術の習得をおこなう。前期における実習当日のスケジュールは、まず各実習開始時に講義室にて当日の測量にかかわる実習概要や方法の講義を受け、その後必要機材を借り受け、工学部キャンパス内で実習作業をおこなう。各班の作業現場には技官・TAが各1名常駐して、実習指導補助をおこなう。教員は実習中に全ての班を巡回して指導に当たる。夏期の実習合宿においても同様の班構成にて実習を行う。  AL80: 演習時間中は、教員、技術職員ならびにTAと双方向で演習を行う。またその日の実習内容をまとめた実習ノートを作成し、学生の理解度を適宜、確認しながら指導を行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	(天候等の理由により、実習順序が前後することがあります。従いまして、以下の計画は目安として考えて下さい。) 1. 多角測量(第1回～第6回) (1) 杭打ち、トランシット使用法 (2) 角測定 (3) 距離測量 (4) 補正計算、座標計算 2. 水準測量(第7回～第9回) (1) 点間の比高、(2) 測定各点の標高決定 3. 平板測量・電子平板(第10回～第12回) 4. 製図(第13回) 5. 測角試験(第14回～第15回) 6. 路線測量(夏期の実習合宿) (1) 単曲線設置計算 (2) 中心杭設置 (3) 縦断測量 (4) 横断測量 (5) 土量計算・製図		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書: なし (教材などは講義時に配布あるいは、入手方法を知らせる)		
成績評価の方法／Evaluation	単位認定には次の3つ条件の全てを必要とする。 ①学内実習(前期)と実習合宿(夏期)に全日出席(ただし、やむを得ない事情による遅刻、欠席は事前連絡で許可する) ②測量成果や地図などの提出物の全提出 ③前期終了時のトランシットを用いた測角試験(実技試験)の合格 成績評価は、観測機器の習熟度や計測結果の補正計算、共同作業への貢献度など実習中の評価を70%、測角試験の評価を30%として総合的に判断する。総合点で60%以上の得点を合格とする。		
学習上の助言／Learning Advice	測量学実習は少人数で実施するため、班員間の連携と協力が必要である。実習を円滑に進めるためにも、誰かに任せる姿勢は厳禁であり、各自の準備(予習)は必須である。測量学の技術習得とともに共同作業の重要性を感じていただきたい。 また、卒業要件を満たした者は、卒業後に測量士補の資格を得ることができる。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			



授業科目名(英文名) ／Course Title	社会基盤インターンシップ		
担当教員(所属)／Instructor	清木 隆文(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R410022
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 通年／Year-long 他/Oth.	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	清木 隆文(E-mail: tseiki@cc.utsunomiya-u.ac.jp TEL: 028-689-6216)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	清木 隆文(月・火の12:00～13:00, または, e-mailによる予約)		
授業の内容／Course Description	本実習は夏季休業期間を利用し、実社会での実務体験を通じ、建設工学の重要性、学習した知識が実社会でどのように生かされているか、について学ぶ。また、実社会における責任感と技術者倫理を実感し、倫理観の育成に寄与する。		
授業の達成目標／Course Goals	本実習は、社会基盤デザイン学科の教育目標に関連して、(1) 実務を体験することによって専門知識を深く理解させる。(2) 土木工学の専門基礎知識に基づいた施策が、関連する実務現場でどのように計画的に実行に移されるのかを学ぶ。(3) 実社会の中で責任感と技術者倫理を実感する。以上を達成目標とする。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	社会基盤デザイン学科の学習・教育目標「(D) 社会基盤整備や地域デザインに関わる技術者としての倫理観を身につけている。」、「(F) 社会基盤整備の実務上の問題に専門知識を適用・発展することができる。」および「(I) 社会基盤整備および施策を、適切な形で着実にやり遂げることができる。」の修得に寄与する(社会基盤デザイン学科の学習・教育目標については履修案内(地域デザイン科学部)等を参照)		
前提とする知識／Prerequisites	土木工学分野における基礎知識を必要とする。		
関連科目／Related Courses	土木工学分野の専門科目などが関連している。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	<p>3年次前期に実習先を決定し、夏季休業中の2～4週間程度、個別に各企業等へ赴き、実務体験を行う。後期の10～11月に開催する発表会にて、実習内容を発表および報告書の作成を行う。</p> <p>AL20: 学習の区切り毎に課題を課し答合せの上、回収します。また、返却時に授業において解説や学習上の注意点について追加説明する。</p> <p>実習実施において事前に必要となる書類、実習中に作成する実習報告書(日報等)、実習前から要求される各種書類、および実習終了後の報告書・発表会資料等をもれなく作成・提出することを通じて実務への取り組み方を学ぶ。</p> <p>これまでの受入先の一例(順不同)を示す。          〈官公庁等〉関東地方整備局、東北地方整備局、NEXCO東日本、土木研究所、栃木県内の土木事務所、茨城県、宮城県、群馬県、福島県、宇都宮市、足利市、弘前市、山形市、いわき市 ほか。          〈民間等〉鹿島建設、清水建設、五洋建設、大成建設、ドーピー建設工業、前田建設工業、川田テクノロジーズ、オリエンタル白石、八千代エンジニアリング、富貴沢建設コンサルタントツコンサルタンツ、芙蓉地質、パスキン工業、シー・アイ・エス ほか。</p>		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	<p>1. 学科におけるガイダンス: 4月中に実施、概要および実習方法を説明(この他に2回程度開催)</p> <p>2. 実習先企業等の希望提出: 原則として、学生自身が探るか学科またはものづくり創成工学センターから斡旋する実習先から選択する。</p> <p>3. 調整: 学科および学生で実習先の受入条件(実習内容・時間・日程等)を調整。</p> <p>4. 実習実施: 予め決められた条件に基づき2～4週の実習を実施。実習報告書(日報)等の作成し、提出する。</p> <p>5. 報告書の作成: 所定書式の実習報告書を作成・提出する。</p> <p>6. 報告会での報告: 別途定める報告会に参加し、実習内容を報告する。</p>		
教科書・参考書等／Textbooks	教材: 説明資料を適宜配布。		
成績評価の方法／Evaluation	ガイダンスに出席し、課題・提出物をすべて提出し、報告会で発表することを単位取得の前提条件とする。これらの条件を満たした者について、研修先からの評価(60%)、報告会での評価(40%)を総合し、成績を評価する。総合点100点に対して、60点以上を得点した場合に目標が達成されたとし、合格とする。		
学習上の助言／Learning Advice	学生諸君がこの実習に参画して、実社会での生きた学問を肌で感じて帰ってくると、見違えるように成長する姿を目にします。この実習が、これまで学んだ事柄を応用する場としてだけでなく、3年次後期の勉学や4年次の卒業研究の「ばね」になるように、また、就職など進路を考える契機として、大いに刺激を求め、見聞を広めてもらいたい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	土木工学実験		
担当教員(所属)／Instructor	飯村 耕介(地域デザイン科学部), 中島 章典(地域デザイン科学部), 丸岡 正知(地域デザイン科学部), 海野 寿康(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R410023
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 通年／Year-long 他/0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	飯村 耕介(k.iimura@cc.utsunomiya-u.ac.jp) 中島 章典(028-689-6208 akinorin@cc.utsunomiya-u.ac.jp) 丸岡 正知(mmaruoka@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	飯村 耕介(月曜16:00～17:30(その他の日時でも事前にメール予約で対応可能)) 中島 章典(月曜日, 火曜日12:00-13:00(中島研究室)) 丸岡 正知(木曜10:30～12:00, メールによる事前予約が優先される。)		
授業の内容／Course Description	土木工学の力学系科目である構造力学, コンクリート工学, 水理学, 土質力学について, 講義で学んだ基礎知識を応用し, 材料の特性や応答を, 実際に手で触り, 機器を動かして確認する。この過程から得られた知見をレポートにまとめることで, 土木工学=実学としての理解を深める。		
授業の達成目標／Course Goals	本実験は, 建設工学コースの教育目標に関連して, 以下の項目を到達目標とする。 (1) 各分野で基礎知識を元に実験結果を正確にまとめることができる。(2) 実験を行うために必要な基礎理論の習得・基礎理論の適用範囲の把握・実験結果の妥当性について判断できる。(3) 実験結果をまとめ, 客観的に考察できる。(4) スケジュールを管理し, 自主的に実施できる。(5) 班内の役割分担を適切に決め, 効率よく実験が実施できる。(6) 実験精度, 内容が適切であること。(7) データ処理が適切にできる。(8) 実験結果, 考察, 結論などを報告書の形式でまとめることができる。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	社会基盤デザイン学科の学習・教育目標(C), (E), (F), (I)の修得に寄与する (社会基盤デザイン学科の学習・教育目標については履修案内(地域デザイン科学部)等を参照)		
前提とする知識／Prerequisites	応用力学序論, コンクリート工学Ⅰ, 鉄筋コンクリート工学, 構造力学Ⅰ・Ⅱ, 水理学Ⅰ・Ⅱ, 土質力学Ⅰ・Ⅱの習得が必須。		
関連科目／Related Courses	応用力学序論, コンクリート工学Ⅰ, 鉄筋コンクリート工学, 構造力学Ⅰ・Ⅱ, 水理学Ⅰ・Ⅱ, 土質力学Ⅰ・Ⅱ		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	実施手順は, 1 回目の授業時間に総合的なガイダンスを実施し, 配布資料をもとに説明する。 AL80: 1クラスを4班に分けて実施する。実験前には教員が学生に試問し, 実験の内容・理論について徹底理解を図る。実験作業, データ整理と考察は, 班ごとに協働して行い, レポートを作成し提出する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	以下の16回の実験を週替わりで実施する。 《構造力学実験》第1回 単純はりおよび2径間連続はりの曲げ試験, 第2回 H形鋼はりの曲げ破壊試験, 第3回 柱の圧縮・座屈試験, 第4回 段ボール製橋梁模型製作および載荷試験 《材料実験》第1回 骨材の物理試験・鉄筋の引張試験, 第2回 コンクリートの配合設計および強度試験, 第3回 鉄筋コンクリートはりの作製, 第4回 載荷試験, 《水理実験》第1回開水路流れのエネルギー保存則(堰の相似則), 第2回開水路流れの運動量保存則(跳水現象), 第3回管水路流れのエネルギー保存則, 第4回水理学の研究紹介 《土質力学実験》第1回 圧密試験・土粒子の密度試験, 第2回 一軸圧縮試験, 第3回 土の物理試験(粒度試験, アッターベルク試験), 第4回 土の締め固め試験		
教科書・参考書等／Textbooks	《構造力学実験》実験手引書をガイダンス時に配布, 《材料実験》「コンクリート工学」「鉄筋コンクリート工学Ⅰ」「鉄筋コンクリート工学演習」の教科書, 配布資料, 土木学会コンクリート標準示方書規準編および設計編, 日本工業規格(JIS) 《水理実験》教科書: 「大学土木水理学」, 玉井・有田, オーム社(水理学Ⅰ・Ⅱの教科書) 参考書: 「水理学演習」, 有田・中井, 東京電機大学出版局(水工学演習の教科書) 《土質力学実験》教科書: 「土質試験 基本と手引き」, 参考書: 河上房義 著「土質力学(第7版)」森北出版など, 配布資料。		
成績評価の方法／Evaluation	原則, 前試問→実験準備→実験→後片付け→レポート提出をもって1回の実験とする。全16回の実験への出席者を対象に, 実験時の態度・貢献度, レポートの内容を吟味し評価する。また, 全ての実験終了後, 各分野の理解度を確保するための試験を実施する。すべての実験レポートの合格, 理解度確認試験および道路工学分野の実験見学への出席・レポート提出を総合し, 達成度が60%以上であれば合格とする。		
学習上の助言／Learning Advice	実験は班毎に実施し, 班員全員が一致協力して成果を出すものです。各自率先して参加しましょう。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	卒業研究		
担当教員(所属)／Instructor	各教員(地域デザイン科学部)(地域デザイン科学部), 丸岡 正知(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R419001
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 通年／Year-long 他/0th.	単位数／Credits	8単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	丸岡 正知(mmaruoka@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	丸岡 正知(木曜10:30～12:00, メールによる事前予約が優先される。)		
授業の内容／Course Description	学部で修得した経験・知識を元に、専門分野に関する学習・研究活動を行う。日常の研究活動、ゼミ・ディスカッションへの参加態度、実験・調査・解析の実施態度、卒業論文のとりまとめ、プレゼンテーションそれぞれについて評価を行う。		
授業の達成目標／Course Goals	学部で修得した経験・知識を元に、専門分野に関する研究活動を行い、建設工学に関する総合的視野の育成を目指す。 社会基盤デザイン学科の教育目標に関連して、以下の項目を到達目標とする。 1. 学習・研究目的に合わせた手法の検討やスケジュール管理など、自主的に計画立案し、遂行できること。 2. 実験・調査において、適切な準備・実施・とりまとめ・報告書作成ができていないこと。 3. 関連する文献調査ができていないこと。 4. ゼミ・発表等において、適切な資料の作成・発表・ディスカッション等に積極的に参加できること。 5. 論文作成において、構成・理論構築・現象の説明・とりまとめ・考察が十分にできていないこと。 6. 発表会において、わかりやすい資料の作成ができ、十分な説明能力を有すること。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	社会基盤デザイン学科の学習・教育目標：「(C) 多様な主体との間で意思疎通が図れるコミュニケーション能力を身につけている」, 「(G) 社会基盤の世界的動向を把握して、グローバルな技術展開ができる」, 「(H) 社会基盤整備による問題解決のための適切な施策を提案することができる」, 「(I) 社会基盤整備および施策を適切な形で着実にやり遂げることができる」の修得に寄与する (社会基盤デザイン学科の学習・教育目標については履修案内(地域デザイン科学部)等を参照)		
前提とする知識／Prerequisites	学部で履修したすべての知識が元になる。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	卒業研究に着手するためには、必要単位数を取得し、4年生に進級した上で、社会基盤デザイン学科所属の教員のいずれかの研究室に所属し、直接指導を受けなければなりません。詳細は所属した研究室の指導教員の指示に従う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	原則として指導教員の指示に従う。  評価の前提条件：指導教員の指示の元で学習を行う指導学習時間240時間以上および自主的に学習・研究活動を行う自主学習時間360時間以上を合計し、600時間以上の学習時間が必要。学習時間は、実験・調査・解析・ゼミ・資料作成・論文作成などの卒業研究に関わると考えられる時間を含む。なお、活動状況を証明する書類(日誌・日報・週報など、指導教員の指示に従う)を作成し、必要に応じ提出できる状態にしておく必要がある。また、指定された期日に卒業論文や配付資料を作成・提出しなければ、評価の対象とならない。毎年、2月中旬に卒業研究発表会を開催し、社会基盤デザイン学科関係教職員全員の合議により最終評価を行う。		
教科書・参考書等／Textbooks	指導教員の指示に従う。		
成績評価の方法／Evaluation	主任指導教員による評価：日常の活動、ゼミなどへの参加態度、実験・調査・分析を実施する態度などを中心とした評価(40%) 主任指導教員および副査教員による評価：卒業論文の構成・内容・まとめ方・文献調査量などを中心とした評価(20%) エンジニアリングデザイン教育の自己評価(20%)(指導教員が内容を確認) 複数教員による評価：卒業研究発表会における発表態度、資料の出来、質疑応答の態度などを中心とした評価(20%) 評価の前提条件を満たし、上記の評価の総合点100点に対し、60%以上を得点した場合に目標が達成されたとする。		
学習上の助言／Learning Advice	卒業研究は、自主的な活動が中心となる。指導教員・研究室所属の学生との密接なコミュニケーションが大切である。社会に出る前の訓練と考え、研究遂行において十分考慮し、スケジュール管理を行うとともに、優れた研究成果の発表を期待する。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	工業日本語応用		
担当教員(所属)／Instructor	堀尾 佳以(工学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R420040
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 通年／Year-long 他/Oth.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact			
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours			
授業の内容／Course Description	工学系留学生対象の日本語授業です。 4年間の日本語学習の集大成として、作文技術を学びます。		
授業の達成目標／Course Goals	○日本語の作文力をつける。 ○伝えるための文章の書き方について学ぶ。 ○卒業論文に向け、様々な文章を書く。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	この科目は建設学科建設工学コースの学習・教育目標 (G) 情報および意思伝達能力の育成に寄与する。 宇都宮大学の教育目標である、「専門に関する基礎を身につけ、広い視野とバランスのとれた判断を可能にする豊かな人間性を持った人材の育成」を目指しています。特に、働きかけ力や課題発見力を身につけるだけでなく、グループ活動を通して規律性など、社会人基礎力を養います。		
前提とする知識／Prerequisites	日本語能力試験N2程度の日本語レベルが必要です。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	アクティブラーニングであり、学生の自主性を重視します。 分かりやすく伝える文とはどういうものかを学んだ上で、成果を発表します。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	【前期】 第1週：授業および発表についての説明 第2～8週：分かりやすい文章とは 第9週：作文発表会 第10～12週：小説 第13～14週：読書感想文 作成 第15週：読書感想文 発表会 【後期】 第1週：所属研究室ごとの卒業論文傾向分析 第2～9週：卒業研究 内容および実験 ポスター作成 第15週：ポスター発表会 第11～14週：卒業論文構成 第15週：発表会		
教科書・参考書等／Textbooks	プリント教材		
成績評価の方法／Evaluation	出席率80%以上のみ評価対象とします。 口頭発表（30%）、課題（30%）、授業態度（40%）を総合的に評価します。 「秀」90点以上、「優」80点～89点、「良」70点～79点以上、「可」60点～69点		
学習上の助言／Learning Advice	日本語で書かれた文をたくさん読みましょう。		
キーワード／Keywords	共通専門基礎科目、作文技術、伝えるための文		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	地域福祉の実際		
担当教員(所属)／Instructor	永島 徹(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R214002
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 木 /Thu 5, 木/Thu 6	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	永島 徹(028-649-5381 (若園) pontono@cc.utsunomiya-u.ac.jp (若園))		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	永島 徹(講義終了後に受け付ける。他の時間帯での質問等は、連絡教員に相談すること)		
授業の内容／Course Description	地域生活において、様々な人たちとのつながりの中で、歳をとっても、障害があっても、自分らしい生き方を全うできることが、その人の尊厳を支えることであり、地域福祉の目指すところである。それは、専門職だけでは、実現できないことである。そこで本講義では、住民自らが地域課題に気づき、その解決・改善に向け取り組む様子を、専門職が働きかけた実践事例を用いて地域福祉の考え方や方法について学ぶ。		
授業の達成目標／Course Goals	この学びから、学生自身が地域課題解決のために必要な視点を見いだすことを目標とする。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	コミュニティデザイン学科の学科専門科目地域実践科目群の科目として、主に「地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力」を身につける。		
前提とする知識／Prerequisites	前提とする知識として、出身地域の概要について行政ホームページなどで確認をしておくこと。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	パワーポイントのスライドや映像、関連資料などを利用して講義とグループ討議を活用して学習を進めていく。 AL50: 事例に基づく学生どうし相互のディスカッション、グループワーク等を積極的に取り入れ、アクティブラーニングを用いて講義を進めていく。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 ガイダンスー地域福祉とは何か 第2週 地域福祉の意味ー地域や地域福祉の基本的な考え方を学ぶ 第3週 地域福祉の歴史から学ぶー日本の地域福祉に影響を与えた歴史を学ぶ 第4週 地域福祉の枠組みー行政粗組織と民間組織の役割と実際 第5週 コミュニティソーシャルワークとはーコミュニティソーシャルワークの考え方 第6週 地域福祉推進のための技法ー地域ニーズの把握と地域福祉計画策定 第7週 地域福祉の主体と福祉教育ー地域福祉の推進と福祉教育 第8週 地域における社会資源の活用・調整・開発 第9週 地域福祉の実際(1)ー高齢者福祉の領域 第10週 地域福祉の実際(2)ー障害児者福祉の領域 第11週 地域福祉の実際(3)ー児童福祉の領域 第12週 地域福祉の実際(4)ー生活困窮者支援の領域 第13週 地域福祉の実際(5)ー無縁社会と地域における支援の領域 第14週 地域福祉の実際(6)ー災害支援の考え方と方法 第15週 これからの地域福祉の方向性と課題ー私たちにできることは 第16週 期末試験		
教科書・参考書等／Textbooks	・教科書 高内正子 監修「現代地域福祉論ー地域と生活支援ー」2013 保育出版社 ・参考書 社会福祉士養成講座委員会「地域福祉の理論と方法 第3版」2015 中央法規出版 永島徹「必察! 認知症ケア2 実践編生活ること支援に必要な5つの対人力」2016 中央法規出版 ・また、必要に応じて適宜資料を配布する。		
成績評価の方法／Evaluation	講義の際に振り返りのレポートおよび中間レポート50%、期末試験50%		
学習上の助言／Learning Advice	地域福祉の基本的な理解を踏まえ、地域社会に生じている生活課題を、実践的な生活モデルの視点から仲間たちと一緒に取り組んでいきましょう。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	建築構造力学Ⅱ		
担当教員(所属)／Instructor	中野 達也(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R310003
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 木 /Thu 5, 木/Thu 6	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact	中野 達也(nakanot@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours	中野 達也(月曜日16:00～17:00 or 予約時間に研究室で応じる.)		
授業の内容／Course Description	建築構造力学Ⅰに引き続き構造力学の基礎を学び、構造設計の基本となる静定構造物の応力と応力度の関係、応力と変形の関係について理解を深めます。具体的には、断面図形の性質、断面部材の応力度、座屈、許容応力度設計、変形、仕事と歪エネルギーを学びます。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部材断面の諸性質を理解し、関係諸量を算定できる。</li> <li>・曲げモーメントと垂直応力度の関係を理解し、応力度の検討ができる。</li> <li>・せん断力とせん断応力度の関係を理解し、応力度の検討ができる。</li> <li>・長柱の座屈耐力および座屈応力度を算定できる。</li> <li>・部材および構造物の曲げ変形を求めることができる。</li> </ul>		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	下記の建築都市デザイン学科の学修・教育目標に対応します。 (5) 自然現象のメカニズムを理解し、建築・地域デザイン技術に活かす能力を身に付ける。		
前提とする知識／Prerequisites	建築構造力学Ⅰの内容を理解しておく必要があります。		
関連科目／Related Courses	本講義は建築構造力学演習Ⅱとあわせて履修する必要があります。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	建築構造力学演習Ⅱとあわせて、第1週の講義でスケジュールを提示します。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第1週 断面図形の性質1（断面一次モーメント、図心、断面二次モーメント、断面係数） 第2週 断面図形の性質2（断面相乗モーメント、主断面二次モーメント、主軸） 第3週 断面部材の応力度1（軸方向応力度、曲げ応力度、せん断応力度） 第4週 断面部材の応力度2（2方向曲げモーメント、軸方向力と曲げモーメント、偏心軸方向力） 第5週 座屈、許容応力度（オイラー座屈、座屈応力度、許容応力度） 第6週 静定梁の曲げ変形1（弾性曲線式（片持ち梁）） 第7週 静定梁の曲げ変形2（弾性曲線式（単純梁）） 第8週 静定梁の曲げ変形3（モールの定理（片持ち梁）） 第9週 静定梁の曲げ変形4（モールの定理（単純梁）） 第10週 中間試験（第1～9週のまとめ） 第11週 構造物の変形（静定ラーメン） 第12週 仕事と歪エネルギー1（仕事、歪エネルギー、エネルギー保存則） 第13週 仕事と歪エネルギー2（仮想仕事の原理（静定梁）） 第14週 仕事と歪エネルギー3（仮想仕事の原理（トラス）） 第15週 構造設計への応用（許容応力度設計法）		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書：「建築構造の力学Ⅰ〔静定力学編〕」寺本隆幸 著、森北出版 参考書：「建築骨組の力学 演習編」田中尚 他著、東洋書店 「建築構造のための力学演習」望月重 他著、鹿島出版会 「建築構造力学 図説・演習1」中村恒善 編著、丸善 「構造力学徹底演習」鈴木基行 著、森北出版		
成績評価の方法／Evaluation	中間試験30%、期末試験70%として評価します。原則として、90%以上を「秀」、75%以上を「優」、65%以上を「良」、50%以上を「可」とします。なお、講義と演習の両方を合格した場合に単位が与えられます。		
学習上の助言／Learning Advice	この講義は構造力学の体系の中で最も基本となる応力度と変形の関係が中心となっており、しっかりと理解しておく必要があります。演習問題などをうまく利用して、自分の手を動かして実際に問題を解くことにより、体感的に理解することが大切です。		
キーワード／Keywords	建築都市デザイン学科専門科目		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	社会調査法		
担当教員(所属)／Instructor	小原 一馬(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R211005
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	小原 一馬(koharak@cc)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	小原 一馬(原則として水曜・木曜 7-8限だが、教員が研究室にいるときには随時受け付ける)		
授業の内容／Course Description	本時では社会調査の企画・設計、資料・データ収集、収集されたデータの整理について具体的な方法について理解することを目的とする。具体的には調査目的と方法、調査方法の決定、調査企画と設計、仮説の構成、全数・標本調査、質問文・調査票の作成、配布・回収やインタビューなど調査の実施方法、フィールドノート作成やエディティングなど調査データの整理等について解説を加える。なお、本時は社会調査士資格のB科目に相当する。		
授業の達成目標／Course Goals	世の中でよく見られる社会調査の結果を、批判的に理解できるようになる。自分の目的に沿った、社会調査の質問紙調査票を作成することができる。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	共通専門科目として、地域デザインに関する共通のリテラシー および地域社会の課題を発見するとともに、分析することができる能力を身に付ける		
前提とする知識／Prerequisites	関連する科目に、「社会調査と地域」(2年前期)、「社会調査実習Ⅰ」(3年前期)、「社会調査実習Ⅱ」(3年後期)が開講されている。		
関連科目／Related Courses	関連する科目に、「社会調査と地域」(2年前期)、「社会調査実習Ⅰ」(3年前期)、「社会調査実習Ⅱ」(3年後期)が開講されている。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義形式で調査の基本を学びつつ、3、4人のグループごとに実際に調査票を作成して、調査を実施します。 AL50: グループに分かれ、実際に調査票を作成し、模擬的な回収・分析を行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	1 社会調査の誤解されやすい点について ① 調査はコミュニケーションである 調査結果の文脈依存性 2 ② 絶対値と相対値 相関関係 疑似相関 3 ③ 偶然かもしれない(検定の考え方) 4 質的・量的調査の違いと相補性、テーマの設定、仮説の立て方 (質問紙の実例の分析1) 5 先行研究・文献の調べ方 6 サンプルング 質問紙の実例の分析2 7 因果関係のモデル、大きな調査項目の確定 8 質問文の作り方 1 (意識を知りたい、事実を知りたい) 9 質問文の作り方 2 (イエス・テンデンス、ダブルバーレル、中立的語句の選択など) 10 選択肢の作り方 11 調査票の作成(全体設計) 12 調査票の完成 13 調査の実施(配布) 14 調査の実施(回収) 15 データの集計(データクリーニング、コーディング)		
教科書・参考書等／Textbooks	参考書 『社会調査へのアプローチ』大谷他編著 ミネルヴァ書房		
成績評価の方法／Evaluation	完成した調査票、およびその過程で提出したレポートによる(参考文献リストなど)		
学習上の助言／Learning Advice	この授業だけでも、アンケート調査の基礎は学べます。しかしより高度な調査の分析ができるようになりたい場合には、さらに調査実習を受講して下さい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes	今年度は開講されません。 平成29年度から開講されますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	観光概論		
担当教員(所属)／Instructor	鈴木 富之(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R213004
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	本授業では、観光を学習・研究する際に必要となる基礎的な知識を習得することを目的とする。観光は複雑かつ多様な行動であり、これらを取り扱う産業や観光資源も多岐にわたる。そこで、本授業では、多様な視点から観光の概念や歴史、観光に関する制度や政策、さまざまな観光関連産業の特徴などを多面的に捉え、「観光」の全体像を把握する。		
授業の達成目標／Course Goals	本授業の到達目標は、学生自らが観光やその関連産業の将来展望を理解する能力を備えることである。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	本授業は学部専門科目地域資源科目群の基礎的な科目であり、主に地域の資源を新たなまちづくりに活用することができる能力を身につける。		
前提とする知識／Prerequisites	特になし。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回、レジュメや資料を配布し、それに沿って板書をしながら授業を進める。必要に応じて、動画や画像、スライドなどを用いて、解説する。</li> <li>・毎回、質問や感想などを記入するためのコメントシートを配布します。これをもとに、授業の前半で紹介・回答する。必要に応じて、学生に直接問いかけることもある。できるだけ、双方向の授業を心掛けたい。</li> </ul> AL20：講義形式を基本とする。提出レポートに対する添削、授業時間での討論など参加型の学修を取り入れ、能動的学修活動を保証し、最終的には、観光やその関連産業の将来展望を理解する能力を身につける。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回 ガイダンス 第2回 観光の特性と意義 1 第3回 観光の特性と意義 2 第4回 観光の世界史／観光の日本史 第5回 国際観光の動向：アウトバンド観光およびインバンド観光の動向と観光政策 第6回 国内旅行の動向 第7回 観光対象と観光資源 第8回 観光と情報／観光と経済 第9回 観光と環境 第10回 観光と地域社会 第11回 観光産業の特徴 1：旅行業 1 第12回 観光産業の特徴 2：旅行業 2 第13回 観光産業の特徴 3：宿泊業 1 第14回 観光産業の特徴 4：宿泊業 2 第15回 観光産業の特徴 5：交通業		
教科書・参考書等／Textbooks	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書：指定しない。毎回、レジュメや資料を配布する</li> <li>・参考書：前田勇編(2008)『現代観光総論』学文社、岡本伸之編(2005)『観光学入門』有斐閣アルマ。</li> </ul>		
成績評価の方法／Evaluation	・テスト80%、活動状況20%		
学習上の助言／Learning Advice	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回、地図帳を持参することが望ましい。</li> <li>・授業の復習をし、関連する文献や新聞などに目を通すこと。</li> <li>・毎回、コメントシートを配布しますので、質問や感想、意見などを積極的に記入すること。</li> </ul>		
キーワード／Keywords			
備考／Notes	今年度は開講されません。 平成29年度から開講されますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		



授業科目名(英文名) ／Course Title	文化マネジメント		
担当教員(所属)／Instructor	中島 宗皓(望)(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R213005
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	中島 宗皓(望)(shodoken@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	中島 宗皓(望)(・原則として授業期間の水・木曜日(17:30～18:00)とする。 ・Eメールで事前に予約。(電話では受け付けません。))		
授業の内容／Course Description	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化は、人間性を涵養し創造性を育む。よって、人々に心豊かな生活を実現してゆく上で不可欠なものである。</li> <li>・なかでも、地域文化の振興には、居住する地域にかかわらず、様々な文化を等しく鑑賞できる機会を拡充する必要がある。</li> <li>・地域文化が持つ豊かさが、日本文化の基盤を成しており、地域文化の振興こそが、日本の魅力を一層高めて行くことにつながるのである。</li> <li>・授業では、「日本特有の様々な文化をいかに国内外に向けて発信するか」をテーマに、【より多くの知識を個々の独創的な知恵へと結びつける力】を養う。</li> </ul>		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わが国の宝といえる多様で豊かな地域文化を活用することが文化マネジメントの使命である。</li> <li>・地域の「遺産」を心の「資産」とすることが肝要であり、さらなる創造を目標とせねばならない。</li> <li>・本学の到達目標は、各人の「感性」をより深めてゆくことであり、この半期間はその手がかりに過ぎない。</li> </ul>		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のテーマは、「文化とは何か」といった基本的な問いからはじまる。</li> <li>・専修する各分野の専門的な考察を展開する前に、美・芸術・感性・情動についてを哲学として学ぶ。</li> <li>・なお、この授業は、学科専門科目地域資源科目群の科目として、達成目標は、新たなまちづくりに向けて制度を設計し政策を提案することができる能力、地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力に強く関係する。</li> </ul>		
前提とする知識／Prerequisites	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少なくとも、「文化」「芸術」の語を美学辞典などで調べ、美意識が時代文化の持つ世界観と密接に関係することを理解し、文化史、美術史などを精神史として説明できるように準備をしてほしい。これらは、マネジメント以前の問題である。</li> </ul>		
関連科目／Related Courses	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活美学</li> <li>・文化マネジメント演習</li> <li>・コミュニティデザイン演習(文化マネジメント分野)</li> </ul>		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の前半は、文化芸術に関する諸問題を考え、今後の文化マネジメントのあり方を問う。</li> <li>・また、後半は事業シミュレーションを演習形式で行い、それぞれの発表から課題や問題点を見出し、文化マネジメントの具体的な事例とその改善点を挙げてゆく。</li> <li>・AL50:講義形式を基本とするが、文化事業のプレゼンテーションを通して具体的な問題解決力を養う。</li> </ul>		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 文化とは何か</li> <li>3. 文化政策「守り」</li> <li>4. 文化事業「伝え」</li> <li>5. 文化振興「育む」</li> <li>6. 専門職の立場</li> <li>7. 教育・情報・流通</li> <li>8. リフレクション1</li> <li>9. 事業シミュレーション(企画書の作成方法)</li> <li>10. 事業シミュレーション(企画書の作成校正)</li> <li>11. 事業シミュレーション(プレゼン①グループ)</li> <li>12. 事業シミュレーション(プレゼン②グループ)</li> <li>13. 事業シミュレーション(プレゼン③グループ)</li> <li>14. 事業シミュレーション(ピア・レビュー)</li> <li>15. リフレクション2(レポート作成)</li> </ol>		
教科書・参考書等／Textbooks	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な課題のみ、レジュメを配布する。</li> <li>・参考書については、授業中に指示するが、辞典類は数冊比較のうえ購入のこと。</li> </ul>		
成績評価の方法／Evaluation	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回のレポート(ノート作成)より「理解」60%、シミュレーション(発表)より「認識」40%の結果に、出欠点を含めて総合的に評価する。</li> </ul>		
学習上の助言／Learning Advice	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な文化が接触する現代社会のなかに課題を捉え、その文化的背景を考察し、理解する力を身につけて欲しい。</li> </ul>		
キーワード／Keywords	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化芸術</li> <li>・アーツマネジメント</li> </ul>		

備考／Notes	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は開講されません。</li> <li>・平成29年度から開講されますので、履修登録の時期に履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。</li> <li>・これまで、コミュニティデザイン学科の授業で学んだ理論は、各分野における知識として貴重な「財産」となっている。</li> <li>・また、それら知識を基にした各演習科目では、より多くの知恵を授かり、さらに実践を踏んでこそ深い見識「資産」へとつながるのである。</li> </ul>
----------	---

授業科目名(英文名) ／Course Title	地域実践心理学		
担当教員(所属)／Instructor	白石 智子(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R214005
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact			
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours			
授業の内容／Course Description	<p>地域実践心理学は、地域の中で、地域に生きる私たちが心理学の知識を実践的に活かす、すなわち「地域社会という視点から対人援助や地域の活性化を行う」（中田・串崎，2005）ことを目的としている。</p> <p>本授業では、受胎から死に至るまでの人間の発達の諸相について「生涯発達心理学」の知見を学び、また、そのプロセスを取り巻く種々の課題や心身の問題の理解と援助について「臨床心理学」から学ぶ。また、学んだ知識を地域でどのように実践することができるかについて検討する。</p>		
授業の達成目標／Course Goals	地域に生きる人々がどのように成長し、どのような課題を抱えるのか、その成長や課題に対し、どのように支え合うことができるか、についての学びを基に、それらを自分自身の問題として捉え、より地域に根差した実践のあり方を提案できるようになることを目標とする。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	学科専門科目地域実践科目群の科目として、主に地域で主体的・協働的に行動し、活力あるコミュニティの形成に貢献できる能力を身につける。		
前提とする知識／Prerequisites	前提として要求する知識・経験はないが、授業で学ぶ基礎知識の修得と、グループ活動における積極性を強く求める。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	<p>前半は、担当教員による講義が中心となる。後半は、4～5名程度からなるグループで地域における実践課題について調べ、検討するグループ活動を行い、地域における相互支援の在り方について提案・発表する。</p> <p>AL50：講義を基に、4～5名程度からなるグループで地域における実践課題について調べ、相互支援の在り方について提案・発表を行う。</p>		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	<p>第1回：ガイダンスー地域実践心理学とはー</p> <p>第2回：生涯発達心理学1ー心の発達についての概観ー</p> <p>第3回：生涯発達心理学2ー認知の発達ー</p> <p>第4回：生涯発達心理学3ー自我の発達ー</p> <p>第5回：生涯発達心理学4ー社会性の発達ー</p> <p>第6回：臨床心理学1ー臨床心理学の領域ー</p> <p>第7回：臨床心理学2ー対象理解の方法ー</p> <p>第8回：臨床心理学3ーメンタルヘルスの諸問題ー</p> <p>第9回：臨床心理学4ー心理療法ー</p> <p>第10回：臨床心理学5ーカウンセリング技法の体験ー</p> <p>第11回：グループ活動1ー地域課題とニーズについてのディスカッションー</p> <p>第12回：グループ活動2ー地域課題とニーズの把握ー</p> <p>第13回：グループ活動3ー地域実践の検討ー</p> <p>第14回：グループ活動4ー地域実践の提案ー</p> <p>第15回：発表</p>		
教科書・参考書等／Textbooks	中田行重・串崎真志（著）『地域実践心理学ー支え合いの臨床心理学に向けてー』（ナカニシヤ出版）		
成績評価の方法／Evaluation	リアクションペーパー25%，レポート25%，グループ活動への貢献度25%，最終発表の成果25%		
学習上の助言／Learning Advice	心理学の知識やそれに基づく実践は、専門家のみに必要とされるものではありません。地域に生きる私たちにできることを、心理学の視点からも考えてみましょう。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes	今年度は開講されません。 平成29年度から開講されますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	リフレクション		
担当教員(所属)／Instructor	各教員（地域デザイン科学部）（地域デザイン科学部）		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R216003
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /Oth.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact			
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours			
授業の内容／Course Description	4年間の学修を省察し、自らの学びの軌跡をまとめながら、基盤教育・専門教育で培った学生個人の能力を確認する。学生は、ポートフォリオの集約を基に内容をまとめ、最終的にはポスター発表する。		
授業の達成目標／Course Goals			
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	コミュニティデザイン学科専門科目主題探究科目群の科目として、「地域で主体的・協働的に行動し、活力あるコミュニティの形成に貢献できる能力」を身に付ける。		
前提とする知識／Prerequisites			
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	ポートフォリオは1年次から記録していきます。詳細は入学時のガイダンスにて説明します。 AL80：教員の支援のもと、学生が主体となって振り返りを行い、自らの学びの軌跡をまとめる。発表は公開し、多くの人の評価を得るようにする。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule			
教科書・参考書等／Textbooks			
成績評価の方法／Evaluation			
学習上の助言／Learning Advice			
キーワード／Keywords			
備考／Notes	今年度は開講されません。 平成31年度から開講されますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	まちづくり特講		
担当教員(所属)／Instructor	石井 大 一 朗(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R221001
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	石井 大 一 朗(電話 028-649-5386 E-mail ish@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	石井 大 一 朗(木曜 7－8限)		
授業の内容／Course Description	地方都市やその周縁部地域における社会構造や人口・世帯構造の変化を整理しつつ、地域問題の傾向を把握する。そして、典型的な地域問題に対するまちづくりの実践例を学び、問題解決に向けて、まちづくりの今後の方向性を議論し、受講生自らがまちづくりリーダーとなることを想定したまちづくりプランを作成する。講義では複数の教員によるオムニバス授業とワークショップを行う。		
授業の達成目標／Course Goals			
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	コミュニティデザイン学科専門科目基礎科目群の科目として、「地域で主体的・協働的に行動し、活力あるコミュニティの形成に貢献できる能力」を身に付ける。		
前提とする知識／Prerequisites			
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	AL:50 オムニバス授業では、各テーマごとにレポートの提出を求める。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule			
教科書・参考書等／Textbooks			
成績評価の方法／Evaluation			
学習上の助言／Learning Advice			
キーワード／Keywords			
備考／Notes	今年度は開講されません。 平成29年度から開講されますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	統計学基礎		
担当教員(所属)／Instructor	渡部 勇(その他)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R221002
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	渡部 勇(isamuelwatanabe@yahoo.co.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	<p>本科目では統計資料の読み取り方やまとめ方、関連の考え方や数学的取扱を学修する。統計学の基礎を理解し、基礎的な資料とデータの分析法を身に付ける。各種統計資料を収集し、その内容を解釈し、また独自の資料を作成できるようになる。平均、分散、標準偏差等の主要な記述統計量の意味を理解し、計算できるようにする。相関関係について、クロス集計や相関係数を用いて評価でき、その意味を解釈できるようになる。確率論の基礎、確率分布、推定について理解できるようになる。</p> <p>この科目は、社会調査士資格C科目に該当する。</p>		
授業の達成目標／Course Goals			
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	コミュニティデザイン学科専門科目基礎科目群の科目として、「地域社会の課題を発見するとともに、分析することができる能力」を身に付ける。		
前提とする知識／Prerequisites			
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	AL20：統計データの初歩的な分析に関する相互発表を行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	1 オリエンテーション、統計資料の扱われ方／記述統計データと質的データ 2 平均とその他の代表値 3 度数分布 4 分散とその性質標準偏差とその性質 5 大数の法則 6 クロス集計 7 相関係数 8 相関関係と因果関係、擬似相関 9 統計資料の収集、統計資料の解釈 10 統計資料の作成 11 確率論の基礎と集合 12 確率変数と確率分布 13 さまざまな確率分布 14 標本分布と基本統計量 15 点推定と区間推定		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書は指定しない。プリントを配布する。参考書：ダレル・ハフ著『統計でウソをつく法』講談社ブルーバックス120／「初学者にやさしい統計学」コロナ社		
成績評価の方法／Evaluation	レポート課題(30%)、小テスト(20%)、期末試験(50%)の結果を総合して評価する。60%以上の得点率を合格とする。		
学習上の助言／Learning Advice			
キーワード／Keywords			
備考／Notes	今年度は開講されません。 平成29年度から開講されますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	社会調査実習Ⅱ		
担当教員(所属)／Instructor	石井 大 一 朗(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R221005
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	石井 大 一 朗(電話 028-649-5386 E-mail ish@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	石井 大 一 朗(木曜 7ー8限)		
授業の内容／Course Description	<p>社会調査実習Ⅰ及び、本授業を合わせて、社会調査の企画から報告書の発行までの調査の全過程をひと通り実習する。</p> <p>社会調査実習Ⅱでは、実習Ⅰで決定、検討したテーマをもとにグループをつくる。その上で調査・分析方法の精緻化を行い、決定した調査方法に応じて、量的な調査であれば、調査票作成に関する議論(質問対象者と質問項目の設定・選択肢の作成・レイアウトなど)を行い、質的な調査であれば、インタビュー、参与観察、ビデオ撮影などの準備を行う。そして、実際に調査を実施し、得られた調査データの精緻化、分析、考察といった一連の作業を行い、報告書の作成を行う。なお、社会調査実習Ⅰと同Ⅱを合わせて履修することで、社会調査士資格のG科目となる。社会調査士資格のA～D及びEないしはF科目を履修していない学生は本授業を履修することができない。また、社会調査実習Ⅱを履修するものは本社会調査実習Ⅰを履修しなければならない。</p>		
授業の達成目標／Course Goals			
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	コミュニティデザイン学科専門科目基礎科目群の科目として、「地域社会の課題を発見するとともに、分析することができる能力」を身に付ける。		
前提とする知識／Prerequisites			
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	AL80：調査に当たっての各分担を決め、データ分析作業、報告書作成を行う。調査結果は調査対象地・団体にフィードバックを行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule			
教科書・参考書等／Textbooks			
成績評価の方法／Evaluation			
学習上の助言／Learning Advice			
キーワード／Keywords			
備考／Notes	今年度は開講されません。 平成30年度から開講されますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	マクロ経済学		
担当教員(所属)／Instructor	塚本 純(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R222003
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	現実の経済問題にも触れながら、マクロ経済学の初歩的な経済分析の手法を提示し、経済学の視座と経済学的分析について解説する。		
授業の達成目標／Course Goals	経済学の視座と経済学的分析力を獲得することにより、多面的な社会認識の能力を身につける。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	学科専門科目社会システム科目群の科目として、主に地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力を身につける。		
前提とする知識／Prerequisites	経済学概論の予備的知識を前提に、その内容を復習しながらマクロ経済学の基礎理論について講義する。		
関連科目／Related Courses	経済学概論、経済政策論		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	授業形態は、テキストを用いレジメにより授業の展開を提示した講義を基本とする。必要に応じて資料等を配布して、実社会との関連について討論を行う。マクロの統計を解説する部分では、現実の資料を配付する。中心はマクロ経済理論の解説となる。また、いくとおりかの計算がでてくるので必要に応じて、演習をおこなう。 AL20：提出レポートに対する添削，授業時間内外での演習など参加型の学修を取り入れ，能動的学修活動を保証する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	1. ガイダンス(マクロ経済学の対象と方法) 2. マクロ経済の統計Ⅰ(GDPに関連する諸概念(復習)) <第1章p. 1-26> 3. マクロの経済統計Ⅱ(資産、国際貿易など) <第1章p. 27-32> 4. 有効需要の原理 <第2章p. 33-40> 5. 消費関数とGDPの決定(均衡) <第2章p. 41-48> 6. 均衡GDP(安定性とISバランス) <第2章p. 48-52> 7. 乗数理論(需要の変化) <第2章p. 52-55> 8. 政府を含んだモデル <第2章p. 55-62> 9. 中間まとめ(小テストと振り返り：内容の整理) 10. 資産について、資産市場の均衡 第3章 11. 貨幣の需要と供給、貨幣供給量の操作 第3章 12. 貨幣市場の均衡と利子率、投資関数、 第4章 13. IS-LM分析 第4章 14. マクロの経済指標(雇用、物価に関する指標) 第6章 15. 失業・物価上昇率の決定理論 第6章		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書：『マクロ経済学』第3版、吉川洋著(岩波書店、2009年) プリント：講義の進捗のガイドとなるプリントを配布する		
成績評価の方法／Evaluation	2／3以上の出席で評価対象とし、課題レポート(20%)、授業中の活動(10%)、中間まとめ(30%)、期末テスト(40%)の総合点を判断基準にして、成績を評価する。総合点が60点以上の場合「可」(合格)、70点以上の場合「良」、80点以上の場合「優」、90点以上の場合「秀」とする		
学習上の助言／Learning Advice	経済学概論の予備的知識を前提にしますが、その内容を復習しながらより専門的に学びます。経済学は、高校までで本格的に取り上げられない科目です。これまで何を学んだかということよりも、新たなことに取り組む姿勢が大切になります。ただし、経済学の学習は積み重ねが大事です。仕方なく欠席する場合は、友人のノートを見せてもらったりテキストを読むなりして、次の講義までに自分で補っておくことが、講義を理解するためには必要です。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes	今年度は開講されません。 平成29年度から開講されますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		



授業科目名(英文名) ／Course Title	スポーツ・余暇政策		
担当教員(所属)／Instructor	中村 祐司(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R222012
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	中村 祐司(yujin@cc.utsunomiya-u.ac.jp 028-649-5181)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	中村 祐司(月) 12:00-12:50)		
授業の内容／Course Description	スポーツ、レジャーや趣味、くつろぎ空間といったスポーツ・余暇領域を対象に、政策を公共サービスの多様な担い手が生み出す活動や方針と広く捉え、興味深い素材を新聞報道から紹介しつつ、受講生自らが関心のあるテーマを設定し考察を行う上での助言・指導を行う。グループ討議を積極的に行う。		
授業の達成目標／Course Goals	日本における不況の長期化や企業業績の悪化に伴うリストラの激化、地方税収入の減少や負債の増大に伴う公共サービスの低下といった国民負担の増大は、人々の生活基盤そのものを直撃しつつある。一方で、人々は特定のレジャー領域においては支出を惜しまない傾向も続いている。こうしたスポーツ・余暇環境をどう捉えるかを考察していく。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。 コミュニティデザイン学科専門科目社会システム科目群の科目として、「新たなまちづくりに向けて制度を設計し政策を提案することができる能力」を身に付ける		
前提とする知識／Prerequisites	スポーツ・余暇政策領域に関する何らかの関心を持っていること。余暇活動を人々の生きがいの側面から考察することに対する関心があること。		
関連科目／Related Courses	スポーツ・余暇政策領域に関する何らかの関心を持っていること。余暇活動を人々の生きがいの側面から考察することに対する関心があること。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	スポーツ・余暇をめぐる政府政策、市場メカニズム、消費者選好と、それら相互の作用・依存関係について論じ合う。レポート作成作業を通じて、余暇政策領域の深みとメカニズムを把握できるようにする。グループ討議の実施も視野に入れつつ、様々な余暇領域において、国や地方がどのような政策を立案し、実施に移しているかを具体的なデータを提供しつつ論じる。各自が関心のあるテーマあるいはグループ毎のテーマを設定・討議し、レポートを作成する。 AL80:授業で取り上げた諸課題からテーマを設定し、現状認識や特徴、今後の方向性、解決策などをめぐりグループワークを行い、具体的な提案をグループ毎に報告させる。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回 スポーツ・余暇とは何か 第2回 スポーツ・余暇活動の諸領域 第3回 余暇政策の歴史 第4回 政府と余暇行政 第5回 余暇政策の構成領域 第6回 余暇産業と余暇市場(2020年東京五輪・パラリンピックなど) 第7回 スポーツ・文化産業のメカニズム 第8回 国際交流と余暇活動 第9回 国際交流とスポーツ・文化政策*レポート提出・作成要領の提示 第10回 余暇をめぐる行政と産業のパートナーシップのあり方 第11回 リゾート開発と環境行政*レポート中間報告 第12回 地方におけるテーマパーク運営の課題*レポート中間報告 第13回 レジャー行動の変容と今後の方向性 第14回 提出レポートをめぐる議論(受講生の半数) 第15回 提出レポートをめぐる議論(受講生の半数)		
教科書・参考書等／Textbooks	教材等：適宜資料を配付する(主に新聞報道を紹介したもの) 参考書：中村祐司『政策を見抜く10のポイント』(成文堂) 同「スポーツと震災復興」(成文堂)		
成績評価の方法／Evaluation	期末に提出するレポート内容(65%)、講義やレポートをめぐるディスカッションの際の積極的発言とその内容(35%)。秀は上記各評価において極めて優秀な結果(的を射た質問や意見の提示、卓越したレポート内容など)を出した受講生に与える。「書くという行為」を最重要視する。		
学習上の助言／Learning Advice	スポーツ・余暇活動の世界は人間社会の縮図を体現している。「たかが余暇。されど余暇」の「されど…」に共感する学生の受講を望む。この講義の成果であるレポートをインターネット上に公開する。なお、履修を検討するにあたって事前に「宇都宮大学国際学部行政学(中村祐司)研究室」のホームページ <a href="http://gyosei.mine.utsunomiya-u.ac.jp/">http://gyosei.mine.utsunomiya-u.ac.jp/</a> を参照してほしい(検索用語は「中村祐司」)。		
キーワード／Keywords	スポーツ世界、2020年東京五輪・パラリンピック、余暇政策、余暇産業、余暇と生きがいなど。		

備考／Notes	<p>スポーツ・余暇領域の世界は広くかつ深い。これまでの経験も含めてこの領域に関心を持つ者が受講してほしい。</p> <p>コミュニティデザイン学科では、今年度は開講されません。</p> <p>平成30年度から開講されますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。</p>
----------	--

授業科目名(英文名) ／Course Title	都市計画法		
担当教員(所属)／Instructor	岡田 順太(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R222013
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /Oth.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	本講義では、都市計画法及び関連する法令に関する基礎的な理解をはかるとともに、都市計画とコミュニティ形成との関係で現実的な問題となっている諸事例を取り上げて検討することで、都市計画において、いかに法と政策を融合的に理解し、活用するかという視点を修得する道筋を示す。憲法、民法及び行政法といった基本科目を習得していることが望ましいが、導入部分で最低限度の知識の伝授は行う。		
授業の達成目標／Course Goals			
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	学科専門科目社会システム科目群の科目として、地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力を身につける。		
前提とする知識／Prerequisites			
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	AL20:受講者からの発言を求めるなど双方向の授業を展開し、学際的な議論・理解が行われるように努める。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule			
教科書・参考書等／Textbooks			
成績評価の方法／Evaluation			
学習上の助言／Learning Advice			
キーワード／Keywords			
備考／Notes	今年度は開講されません。 平成30年度から開講されますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	農村起業論		
担当教員(所属)／Instructor	原田 淳(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R223002
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /Oth.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	原田 淳(5521、harada@cc)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	原田 淳(木曜日3-4時限)		
授業の内容／Course Description	経営学の基本的な考えからを学び、それが農村での課題解決にどのように結びつくかを考える。さらに、土地を基盤としていることから生じる農業経営問題の特殊性を理解し、それでも企業的に発展している経営があることを学ぶ。これらを総合して、農村に特有のコミュニティビジネスのあり方を考える。		
授業の達成目標／Course Goals			
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	コミュニティデザイン学科専門科目地域資源科目群の科目として、「地域の資源を新たなまちづくりに活用することができる能力」を身に付ける		
前提とする知識／Prerequisites			
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	AL20：講義形式を基本とする。提出レポートに対する添削、授業時間での討論など参加型の学修を取り入れ、能動的学修活動を保証する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	経営学の考え方(3回)／農村でなぜ経営学が必要か(3回)／土地をベースとした農業経営学(3回)／農業経営の企業的发展の特徴(3回)／コミュニティビジネスの考え方(3回)		
教科書・参考書等／Textbooks			
成績評価の方法／Evaluation			
学習上の助言／Learning Advice			
キーワード／Keywords			
備考／Notes	今年度は開講されません。 平成29年度から開講されますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	食文化論		
担当教員(所属)／Instructor	大森 玲子(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R223003
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	大森 玲子(028-649-5367, rohmori(a)cc.utsunomiya-u.ac.jp ※(a)を@に置き換えてください)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	大森 玲子(木曜日16:00-17:00 ※事前にメールにて予約してください)		
授業の内容／Course Description	<p>和食がユネスコ世界無形文化遺産に登録され、日本人の伝統的な食文化が広く認知され始めた。食文化は、時代や環境により影響を受けながら、長い歳月をかけて、その土地で育まれてきた生活様式に関わる文化の一つとされる。各地域で伝承されてきた食文化を守り継承していくためには、自らの食習慣を分析し、習慣化した背景要因を探ることも重要な過程である。</p> <p>授業では、日本の食文化形成の要因に対する理解を深め、他の文化同様に、自然環境や社会環境に大きく影響を受けることを学ぶとともに、和食の基本的な食事スタイル「一汁三菜」の原点である日本料理の系譜についても取り上げる。また、受講者に関わりのある地域の食文化について調査し、伝統的な食文化を継承するために必要な要因について整理し、共有する。</p>		
授業の達成目標／Course Goals			
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	コミュニティデザイン学科専門科目地域資源科目群の科目として、「地域の資源を新たなまちづくりに活用することができる能力」を身に付ける		
前提とする知識／Prerequisites			
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	AL50：各自の調査に基づいてプレゼンテーションを実施後、グループワークを取り入れ共有化をはかる。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule			
教科書・参考書等／Textbooks			
成績評価の方法／Evaluation			
学習上の助言／Learning Advice			
キーワード／Keywords			
備考／Notes	今年度は開講されません。 平成29年度から開講されますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	観光学実習		
担当教員(所属)／Instructor	鈴木 富之(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R223006
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	バブル経済崩壊後1990年代半ば以降、経済不況に伴う企業による社員旅行の縮小、観光政策の転換、インターネットの普及、余暇活動の多様化などのさまざまな要因により、日本人の観光形態に質的变化がみられている。こうした状況下、地域資源を活かした観光振興が全国で行われており、その地域を熟知した観光まちづくりの担い手の育成が不可欠となっている。そこで、本授業では、巡検形式のフィールドワークを行い、対象地域の産業、文化、観光地域の構造など把握することを目的とする。本授業の到達目標は、対象地域の産業、文化、観光地域の構造などを正しく理解し、その将来展望やまちづくりのあり方について理解できる能力を身につけることである。		
授業の達成目標／Course Goals			
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	コミュニティデザイン学科専門科目地域資源科目群の科目として、「新たなまちづくりに向けて制度を設計し政策を提案することができる能力」を身に付ける		
前提とする知識／Prerequisites			
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	AL80：フィールドワークを中心とした実習形式を基本とする。最終的には、特定地域の将来展望やまちづくりのあり方について理解できる能力を備える。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule			
教科書・参考書等／Textbooks			
成績評価の方法／Evaluation			
学習上の助言／Learning Advice			
キーワード／Keywords			
備考／Notes	今年度は開講されません。 平成30年度から開講されますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	地域史		
担当教員(所属)／Instructor	高山 慶子(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R223007
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	高山 慶子(k_takayama@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	高山 慶子(月曜14:30～16:00)		
授業の内容／Course Description	本学の地元である宇都宮の歴史に関する史料を読み、そこから何が読み取れるのかを考えることで、史料から歴史を考える力を養い、地域の歴史に対する理解を深める。		
授業の達成目標／Course Goals	日本史の史料の基礎的な読解力を修得する。また、史料を実際に読むことで、歴史社会のイメージを豊かにするとともに、地域の歴史への関心を深める。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	地域の歴史を学ぶことで、中学・高校で学んできた歴史を地域の視点で見直し、歴史を主体的に考える力を身に付ける。 コミュニティデザイン学科専門科目地域資源科目群の科目として、「地域の資源を新たなまちづくりに活用することができる能力」を身に付ける		
前提とする知識／Prerequisites	特になし。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	江戸時代のさまざまなテーマの史料(主に活字)を読み、それをどのように読み解き、そこからどのような歴史がわかるのかを、講義形式で解説する。 AL20:講義形式を基本とする。提出レポートに対する添削、授業時間での討論など参加型の学修を取り入れ、能動的学修活動を保証する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	1～15. 史料講読と解説 宇都宮藩の歴史 江戸町人との関係 大名戸田家の経済事情 宇都宮藩の幕末維新 宇都宮の近代製糸工場 ほか 江戸の女性 女大学を読む 庶民女性の生活 商家の女性 ほか		
教科書・参考書等／Textbooks	プリントを配付する。		
成績評価の方法／Evaluation	レポート(70%)、授業への取り組み(30%)		
学習上の助言／Learning Advice	特になし。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes	コミュニティデザイン学科では、今年度は開講されません。 平成30年度から開講されますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	生物多様性論		
担当教員(所属)／Instructor	西尾 孝佳(農学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R223008
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact	西尾 孝佳(電話番号: 028-649-5147 Email: nishio@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours	西尾 孝佳(月曜日午後3時から5時。来室前に電話かEメールで問い合わせて下さい。)		
授業の内容／Course Description	環境破壊の中でも、回復が最も難しいのが生物多様性の破壊です。野生で生活する個体が失われると、その個体群を回復させるのは非常に困難で、絶滅すれば、その種は二度と戻りません。人間は生態系がもたらす様々なサービスに完全に依存していて、そのサービスの相当部分を生物多様性がもたらしています。本講義では、「生物多様性を失うと、こうしたサービスも失われるのか」という問いかけに応じた様々な研究事例と、それらから得られた知見を平易に紹介します。		
授業の達成目標／Course Goals	生物多様性は私たちの暮らしにどのような財や恩恵を提供しているのか、また生物多様性はどのように維持されているのかについての知識を習得し、生物多様性保全の意義について理解することを目標としています。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	「現代社会に必要なリテラシー（素養）」、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につける教養教育を行う」という教育目標に対応します。コミュニティデザイン学科専門科目地域資源科目群の科目として、「地域の資源を新たなまちづくりに活用することができる能力を身に付ける」に対応します。社会基盤デザイン学科のディプロマポリシー「(H) 社会基盤整備による問題解決のための適切な施策を提案することができる」に対応します。		
前提とする知識／Prerequisites	特にありません。		
関連科目／Related Courses	雑草観察入門，野外調査論，人と自然の共生を考える		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	写真や図表を中心としたスライドを用い、講義形式で以下を行います。 1. 基礎となる用語及び概念の説明，2. 研究方法の解説，3. 様々な研究事例からの各種現象の紹介 AL20：講義形式を基本とする。提出レポートに対する添削，授業時間での討論など参加型の学修を取り入れ，能動的学修活動を保証する。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第1回ガイダンス（講義内容の説明，生物多様性の定義） 第2回生物が支える私たちの暮らし 第3回大量絶滅時代の到来 第4回逆行する進化非在来種の侵入 第5回遺伝子組み換え作物の光と影 第6回どの生物が重要なのか？ 第7回生物間の結びつき 第8回水がもたらす恵み 第9回土壌は生きている 第10回植物とその生産力 第11回土地を形作る生命の力 第12回気候と大気 第13回保全そして再生の取り組み 第14回それでも自然は必要か？ 第15回利益の分配を目指して		
教科書・参考書等／Textbooks	必要に応じて配布する。		
成績評価の方法／Evaluation	講義内ミニレポートの結果を20%，レポートの結果を80%として成績評価を行います。		
学習上の助言／Learning Advice	日常生活の中でも，生物多様性の問題について興味と関心を持ち，私たち一人一人に何ができるのか考えてもらいたいです。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes	今年度は開講されません。 平成30年度から開講されますので，履修登録の時期になったら，履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。 ※ 社会基盤デザイン学科の学生は「生物の多様性とは何か」を履修することで，本科目へ読み替えます。「生物の多様性とは何か」は平成28年度も開講されます。		



授業科目名(英文名) ／Course Title	文化マネジメント演習		
担当教員(所属)／Instructor	中島 宗皓(望)(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R223010
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	中島 宗皓(望)(shodoken@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	中島 宗皓(望)(・原則として授業期間の水・木曜日(17:30～18:00)とする。 ・Eメールで事前に予約。(電話では受け付けません。))		
授業の内容／Course Description	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、「文化の持つ力と必要性を社会に対してどのように説明し、その機会を設けることができるか。」をテーマに、実際に文化事業をシミュレーション企画してみる。</li> <li>・また、その過程で【文化「モノ」と諸論「コト」を結びつける実践力】を養う。</li> </ul>		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わが国の宝といえる多様で豊かな地域文化を活用することが文化マネジメントの使命である。</li> <li>・地域の「遺産」を心の「資産」とすることが肝要であり、さらなる創造を目標とせねばならない。</li> <li>・本時の到達目標は、各人の「感性」をより深めてゆくことであり、この半期間はその手がかりに過ぎない。</li> </ul>		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のテーマは、「マネジメントのチカラ」である。このことへの問いからはじまる。</li> <li>・これまでの理論が、実務においてどのように有効かをシミュレーション企画によって検証する。</li> <li>・コミュニティデザイン学科専門科目地域資源科目群の科目として、「新たなまちづくりに向けて制度を設計し政策を提案することができる能力」を身に付ける。</li> </ul>		
前提とする知識／Prerequisites	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティデザイン演習の授業を通して、多くのことを感じとれる心(感性)を備えておいてほしい。</li> <li>・マネジメントのチカラは個人のチカラではなく、個々のチカラのバランスである。</li> <li>・それら個々のチカラをコミュニケーションできるコトがマネジメントである。</li> </ul>		
関連科目／Related Courses	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活美学</li> <li>・文化マネジメント</li> <li>・コミュニティデザイン演習(文化マネジメント分野)</li> </ul>		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の前半は、文化芸術に関する諸問題を考え、今後の文化マネジメントのあり方を問う。</li> <li>・また、後半は事業シミュレーションを演習形式で行い、それぞれの発表から課題や問題点を見出し、文化マネジメントの具体的な事例とその改善点を挙げてゆく。</li> <li>・AL80: 常に文化への理解と各種企画・運営等の具体的なテーマを持ってディスカッションしてゆく。</li> </ul>		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. リフレクションーコミュニティデザイン演習</li> <li>3. 課題Ⅰによる試行(企画)</li> <li>4. 課題Ⅰによる試行(発表)</li> <li>5. 課題Ⅱによる試行(企画)</li> <li>6. 課題Ⅱによる試行(発表)</li> <li>7. 個別テーマの計画</li> <li>8. 個別テーマの発表</li> <li>9. 個別テーマの研究</li> <li>10. 個別テーマの発表</li> <li>11. 個別テーマのリフレクション</li> <li>12. グループテーマの計画</li> <li>13. グループテーマの研究</li> <li>14. グループテーマの発表</li> <li>15. レポートの作成</li> </ol>		
教科書・参考書等／Textbooks	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な課題のみ、レジュメを配布する。</li> <li>・参考書については、授業中に指示するが、辞典類は数冊比較のうえ購入のこと。</li> </ul>		
成績評価の方法／Evaluation	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回のレポート(ノート作成)より「理解」60%、シミュレーション(発表)より「認識」40%を合計し、60%以上を合格とする。</li> </ul>		
学習上の助言／Learning Advice	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な文化が接触する現代社会のなかに課題を捉え、その文化的背景を考察し、理解する力を身につけて欲しい。</li> </ul>		
キーワード／Keywords	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化芸術</li> <li>・アーツマネジメント</li> </ul>		

備考／Notes

- ・今年度は開講されません。
- ・平成30年度から開講されますので、履修登録の時期に履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。
- ・伝達、発信する力、多種多様な方々とふれあう経験、社会との結びつきを考える力。これら実践を通して論理的な思考を身につける「実学」は、コミュニティデザイン学科の教育指針でもある。地域でのさまざまな方とのコミュニケーションのなかで、理論と実践を一体化できるように心がけて欲しいと願っている。

授業科目名(英文名) ／Course Title	福祉社会学		
担当教員(所属)／Instructor	中川 敦(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R224011
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	中川 敦(木曜日5-6限 中川研究室)		
授業の内容／Course Description	本講義では現代社会の福祉の重要な問題として、「障害者問題」「貧困問題」「児童虐待」「生命の選択」等を主要テーマとして設定して学ぶ。どのテーマにおいても、それらが問題になる背景としての歴史的・制度的・政策的な背景について説明を行った上で、そうした福祉の問題に直面している当事者の人たちの経験について、福祉社会学の視点から理解を深める。		
授業の達成目標／Course Goals	現代社会の福祉の問題について、その背景を理解すると同時に、現代社会における福祉の問題を自ら発見し、その解決のためにどのような方向性が存在するのかを見出せるようになることを目標とする。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	本授業は、コミュニティデザイン学科専門科目に含まれ、「新たなまちづくりに向けて制度を設計し政策を提案することができる能力」及び「地域で主体的・協働的に行動し、活力あるコミュニティの形成に貢献できる能力」の養成に必要な、福祉社会学の視点の涵養という点で、学習・教育目標と関連している。		
前提とする知識／Prerequisites	前提として要求する知識は求めないが、福祉社会学を学ぶための真摯な姿勢を要求する。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	パワーポイントのスライドや映像資料などを利用して講義を行う。また講義の途中で、理解度を問う確認テストを随時行う。 AL20：講義形式を基本とする。最終的には、学生各人が自ら見いだした福祉の問題について、その解決の方向性を提示する作業を行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回：生命の選択(1)優生手術 第2回：生命の選択(2)出生前診断がもたらす問い 第3回：生命の選択(3)遺伝子差別の現在 第4回：生命の選択(4)遺伝子差別の未来 第5回：生命の選択(5)不妊治療を巡る社会的問題 第6回：障害者問題(1)自立生活運動の歴史 第7回：障害者問題(2)自立生活運動の現在①家族からの自立 第8回：障害者問題(3)自立生活運動の現在②施設からの自立 第9回：障害者問題(4)自立生活運動の現在③自立後の現実 第10回：障害者問題(5)聴覚障害と手話 第11回：児童虐待(1)児童福祉の歴史的展開 第12回：児童虐待(2)児童福祉と血縁的家族関係の葛藤 第13回：貧困論(1)格差論から貧困論へ 第14回：貧困論(2)生活保護 第15回：貧困論(3)ホームレスの現実		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書は指定しない。資料は配付する。参考書などは授業の中で適宜紹介する。		
成績評価の方法／Evaluation	授業内の確認テストで45点、学期末テストを55点として評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	現代社会の福祉の問題に対する視野を広げられるよう、講義で学んだことについて、授業外の中で家族や友人などと積極的に議論してみて欲しい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes	今年度は開講されません。 平成30年度から開講されますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	ストレスマネジメント		
担当教員(所属)／Instructor	白石 智子(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R224013
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact			
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours			
授業の内容／Course Description	<p>社会に生きる私たちは、常に自分中心に物事が進み、自分だけが快適に生活することなどできないということを知っている。周囲の人々も同様であり、皆、思い通りにはならない現実と折り合いをつけながら生活している。その意味で、誰もストレスと無縁に生活することはできない。しかし、ストレスの感じ方・表出の仕方には大きな個人差があり、ストレスにうまく対処できている人もいれば、悩み続けて、本来の能力を発揮できない人もいる。</p> <p>本授業では、ストレスについての理論を学んだ上で、自己のストレスについての理解を図り、各自に適したストレス・マネジメント法を実践を通して身につける。授業で取り扱うストレス・マネジメントには、自己の内面の調整、対人関係の調整、環境の調整が含まれる。そのようなストレス・マネジメントスキルを身につけることで、地域社会において対人関係を円滑にし、個人としてのみではなく、集団としても、うまく機能できるようになることを目的とする。</p>		
授業の達成目標／Course Goals			
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	コミュニティデザイン学科専門科目地域実践科目群の科目として、「地域社会の課題を発見するとともに、分析することができる能力」を身に付ける。「地域で主体的・協働的に行動し、活力あるコミュニティの形成に貢献できる能力」を身に付ける。		
前提とする知識／Prerequisites			
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	AL80：ストレス・マネジメントについて、個人ワークと4名程度からなるグループワークを行い、実践的に学ぶ。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule			
教科書・参考書等／Textbooks			
成績評価の方法／Evaluation			
学習上の助言／Learning Advice			
キーワード／Keywords			
備考／Notes	今年度は開講されません。 平成30年度から開講されますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	外国語文献講読		
担当教員(所属)／Instructor	中村 祐司(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R226001
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	中村 祐司(yujin@cc.utsunomiya-u.ac.jp 028-649-5181)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	中村 祐司(月) 12:00-12:50)		
授業の内容／Course Description	社会科学領域における英語文献は、個々の文章に真正面から向き合えば必ず読みこなせる類のものである。この授業では、量よりも質を重視し、ひとまとまりの英文(社説や評論)を丁寧に読むことに徹する。		
授業の達成目標／Course Goals	散文とは異なり、社会科学領域の英文はA+B=Cといった単純な足し算に近いものがある。まずは一つ一つの文章の意味を正確に把握し、文章と文章の間の「つなぎ」を意識しつつ、段落(パラグラフ)におけるポイントを押さえる。そしてさらに、段落と段落の間がどのような論理展開でつながっているのか理解できるようにする。母国語でなくても英語も人間が思考した表現形態の一つと考えれば、その内容は必ず理解できる。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	思考・判断:異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。 コミュニティデザイン学科専門科目主題探究科目群の科目として、「地域デザインに関する共通のリテラシー」を身に付ける		
前提とする知識／Prerequisites	国内外の政治的社会的事象、すなわち、この世界の出来事に関心を有し、社会科学領域における英語の社説(論説)を確実に読みこなしていきたいという希望を持っていること。		
関連科目／Related Courses	行政学、地方自治論、スポーツ・余暇政策、現代政治の理論と実際など。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	“The Japan Times on Sunday”の中から、教員が特に国内外の現代政治に関わる興味深い記事(社説や評論を含む)を教材として毎回一つ取り上げる。授業の際に次の授業で用いる記事のコピーを配布するので、1週間の間に一つ一つのセンテンスの意味を自分なりに把握してくる。量としてはタブロイド判(A4判ないしB4判)の半分程度である。訳す際は、白紙の状態から、文章に向き合ってほしい。グループごとの読み進めが中心になる。 AL50:グループのメンバーが協力し合いながら正確に訳していく。その際、教員は各グループを回りながら、質問に回答する。授業の終盤には各グループのまとめの報告を行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	(以下は取り扱う記事タイトルの例示) 第1週Asia's health authorities said ready for SARS return 第2週Bush talk of death penalty for Saddam stirs unease 第3週Saddam footage offers rare image of broken dictator 第4週Bin Laden, Omar won't be taken alive: cleric 第5週In New York, an empty ashtray is a smoking gun 第6週Waiting for Gandhi: India's Congress looks to heir apparent 第7週Missile defense gets green light 第8週DPJ's Kan warns of casualties in Iraq 第9週Magazine sold by homeless people 第10週Invisible minority 第11週Unlike South Korea, India's credit boom won't fade 第12週Boeing to begin taking orders for new dream passenger jet 第13週Gene-altered crops around the world 第14週Sexual revolution in China 第15週Different views on history		
教科書・参考書等／Textbooks	毎回、教材(英文社説4本)を配布。 参考書:中村祐司『政策を見抜く10のポイント』(成文堂)		
成績評価の方法／Evaluation	予習の度合(55%)。読解力(15%)。積極的な取り組み(30%)。秀は毎回の授業で英文解釈に積極的に取り組み、また、英文内容の卓越した把握を継続した受講生に与える。		
学習上の助言／Learning Advice	この授業の質は、受講生が1週間の間に最低でも5〜6時間程度、どれだけ集中して予習をしていくかにかかっている。一つ一つのセンテンスと「格闘する」ぐらいの気持ちが求められる。		
キーワード／Keywords	国際関係、世界、政策、政治、政府など。		
備考／Notes	英文社説に真正面から向き合ってほしい。 コミュニティデザイン学科では、今年度は開講されません。 平成30年度から開講されますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	外国語文献講読		
担当教員(所属)／Instructor	三田 妃路佳(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R226002
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	社会科学領域における英語文献は、個々の文章に真正面から向き合えば必ず読みこなせる類のものである。この授業では、量よりも質を重視し、ひとまとまりの英文(社説や評論)を丁寧に読むことに徹する。		
授業の達成目標／Course Goals	散文とは異なり、社会科学領域の英文はA+B=Cといった単純な足し算に近いものがある。まずは一つ一つの文章の意味を正確に把握し、文章と文章の間の「つながり」を意識しつつ、段落(パラグラフ)におけるポイントを押さえる。そしてさらに、段落と段落の間がどのような論理展開でつながっているのか理解できるようにする。母国語でなくても英語も人間が思考した表現形態の一つと考えれば、その内容は必ず理解できる。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	思考・判断:異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。 コミュニティデザイン学科専門科目主題探究科目群の科目として、「地域デザインに関する共通のリテラシー」を身に付ける		
前提とする知識／Prerequisites	国内外の政治的社会的事象、すなわち、この世界の出来事に関心を有し、社会科学領域における英語の社説(論説)を確実に読みこなしていきたいという希望を持っていること。		
関連科目／Related Courses	行政学、地方自治論、スポーツ・余暇政策、現代政治の理論と実際など。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	“The Japan Times on Sunday”の中から、教員が特に国内外の現代政治に関わる興味深い記事(社説や評論を含む)を教材として毎回一つ取り上げる。授業の際に次の授業で用いる記事のコピーを配布するので、1週間の間に一つ一つのセンテンスの意味を自分なりに把握してくる。量としてはタブロイド判(A4判ないしB4判)の半分程度である。訳す際は、白紙の状態から、文章に向き合ってほしい。グループごとの読み進めが中心になる。AL50:グループのメンバーが協力し合いながら正確に訳していく。その際、教員は各グループを回りながら、質問に回答する。授業の終盤には各グループのまとめの報告を行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	(以下は取り扱う記事タイトルの例示) 第1週Asia's health authorities said ready for SARS return 第2週Bush talk of death penalty for Saddam stirs unease 第3週Saddam footage offers rare image of broken dictator 第4週Bin Laden, Omar won't be taken alive: cleric 第5週In New York, an empty ashtray is a smoking gun 第6週Waiting for Gandhi: India's Congress looks to heir apparent 第7週Missile defense gets green light 第8週DPJ's Kan warns of casualties in Iraq 第9週Magazine sold by homeless people 第10週Invisible minority 第11週Unlike South Korea, India's credit boom won't fade 第12週Boeing to begin taking orders for new dream passenger jet 第13週Gene-altered crops around the world 第14週Sexual revolution in China 第15週Different views on history		
教科書・参考書等／Textbooks	毎回、教材(英文社説4本)を配布。 参考書:中村祐司『政策を見抜く10のポイント』(成文堂)		
成績評価の方法／Evaluation	予習の度合(55%)。読解力(15%)。積極的な取り組み(30%)。秀は毎回の授業で英文解釈に積極的に取り組み、また、英文内容の卓越した把握を継続した受講生に与える。		
学習上の助言／Learning Advice	この授業の質は、受講生が1週間の間に最低でも5~6時間程度、どれだけ集中して予習をしていくのかにかかっている。一つ一つのセンテンスと「格闘する」ぐらいの気持ちが必要。		
キーワード／Keywords	国際関係、世界、政策、政治、政府など。		
備考／Notes	英文社説に真正面から向き合ってほしい。 コミュニティデザイン学科では、今年度は開講されません。 平成30年度から開講されますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	建築計画学Ⅱ／Architectural Planning 2		
担当教員(所属)／Instructor	佐藤 栄治(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R310010
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact	佐藤 栄治(e-satoh@cc.utsunomiya-u.ac.jp, 028-689-6202)		
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours	佐藤 栄治(e-mail等で予約を取って質問, 相談に応じる)		
授業の内容／Course Description	建築計画の方法は空間のスケールにより異なってきます。空間スケールが大きくなるに従い、建築計画の対象は個々の人間生活から人間活動の集合としての地域コミュニティや都市に移ります。その一連の考え方や方法を歴史的な変遷を含め、具体的に解説します。		
授業の達成目標／Course Goals	本講義の達成目標は、集合住宅の住戸計画を始めとして、住棟、住宅団地、街区、都市など各スケールでの建築・都市計画の基本的な考え方と方法を習得することにあります。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	建築都市デザイン学科の学習目標（４）建築・地域デザイン技術者としての倫理観を養う、（６）人間および社会の要求・条件を理解し、建築・地域・環境・制度を構築する能力を身に付ける、に関連する。		
前提とする知識／Prerequisites	建築計画の基礎知識を習得していること。		
関連科目／Related Courses	建設学序論（地域デザイン学序論B）、新入生セミナーおよび建築計画学Ⅰを修得していることが望ましい。また、建築計画学Ⅲ、同Ⅳ、都市計画、地区計画につながる科目です。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	授業は、下記計画のように、毎回の講義において1つずつテーマを取りあげ解説する講義形式で進めます。また、バス見学により実際の集合住宅団地やニュータウンの見学を行う機会を設けます。なお、講義内容は副読本を配布する予定です。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	1. オリエンテーション ／集合住宅に対する計画者の社会的責務 2. 日本の集合住宅計画の歴史 3. 世界各地の集合住宅 4. 住様式と住戸平面計画 5. 順応型住戸：新しい住戸計画 6. コレクティブ住宅等新しい集住形態 7. 住戸まわりと住棟の計画 8. 領域と集合の理論 9. 住棟配置計画 10. 住戸密度計画と土地利用の計画 11. 近隣住区理論とコミュニティ計画 12. 共同施設配置計画 13. 住宅団地の開発手法 14. 地域開発、ニュータウン開発と集合住宅 15. 集合住宅の維持管理		
教科書・参考書等／Textbooks	(参考書)「建築計画」鈴木成文・守屋秀夫・太田利彦編著 実教出版 「第2版 コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編 丸善株式会社  ※いずれも工学部生協で入手可		
成績評価の方法／Evaluation	授業出席回数3分の2以上の受講者を対象に、授業の達成目標である建築計画の考え方と基本的な方法を習得しているかどうかを、レポート（おおむね15%）および小テスト（おおむね10%）、期末試験（おおむね75%）の内容・結果から判断し評価します。原則として、90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とします。		
学習上の助言／Learning Advice	建物の解釈は種々ありますが、計画学的側面を理解しましょう。		
キーワード／Keywords	建築計画, 住宅計画		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	建築設計製図Ⅱ		
担当教員(所属)／Instructor	安森 亮雄(地域デザイン科学部), 佐藤 栄治(地域デザイン科学部), 古賀 誉章(地域デザイン科学部), 各教員(地域デザイン科学部)(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R310015
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	安森 亮雄(yasumori@cc.utsunomiya-u.ac.jp) 佐藤 栄治(e-satoh@cc.utsunomiya-u.ac.jp, 028-689-6202) 古賀 誉章(koga-t@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	安森 亮雄(e-mail等で予約をとってから質問・相談に応じる) 佐藤 栄治(e-mail等で予約を取って質問, 相談に応じる) 古賀 誉章(e-mailで予約をとってから質問や相談に応じる。)		
授業の内容／Course Description	各種の設計課題を通して、多人数が利用する建築の空間や動線の構成、周辺環境との関係、構造の一般的な納まり等をふまえた、設計手法と表現方法を修得する。		
授業の達成目標／Course Goals	本科目の達成目標は、建築設計のうち保育施設や集合住宅等の各種建築の基礎的な設計手法と意匠表現を習得することにある。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	建築都市デザイン学科の学習・教育目標のなかの、以下の目標と関係する。 4. 建築・地域デザイン技術者としての倫理観を養う 8. 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築・地域を創造するデザイン能力を身に付ける 9. 工学・地域デザイン科学と芸術・文化のバランスのとれた感性を磨く		
前提とする知識／Prerequisites	建築図学、建築設計基礎、建築設計製図Ⅰを修得していること。		
関連科目／Related Courses	本科目は、建築設計製図Ⅲ、建築地域設計製図、卒業設計につながる。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	授業は製図室における実習形式で進める。敷地調査や関連する建築事例の調査をふまえ、建物配置、機能配置、動線、構造、環境配慮、内観、外観などの各側面を話し、それらを空間構成としてまとめる設計手法と意匠表現を習得する。課題の冒頭で内容・ねらいなどを解説し、最終回に図面・模型による発表と講評を行う。なお、工学倫理および研究者倫理についてもふれる。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 オリエンテーション、第1課題(保育施設等)解説 第2週 敷地調査、事例調査 第3週～4週 設計の検討 第5週～6週 設計のとりまとめ 第7週 講評会 第8週 第2課題(集合住宅等)解説 第9週 敷地調査、事例調査 第10週～12週 設計の検討 第13週～14週 設計のとりまとめ 第15週 講評会		
教科書・参考書等／Textbooks	(教科書)「コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編 丸善株式会社 ※工学部生協で入手可		
成績評価の方法／Evaluation	与えられた全課題を提出した者を対象に、設計手法、図面表現、模型表現等を習得しているかを提出課題ごとに評価します。各課題作品は原則としてA評価(90点)、B評価(75点)、C評価(60点)およびD評価(不合格=再提出)に段階分けし、これを各課題に要した時間(週)数で重みづけして評価する。原則として、90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とする。		
学習上の助言／Learning Advice	本科目は、実社会においては建築設計の実務と強く関連します。本科目の履修と並行して、設計の基礎となる建築計画Ⅱを履修することが望ましい。また、本科目に関連する設計事例を見学したり、建築作品集等の書籍を読むことで、その空間構成、構造、ディテール等を学ぶ機会をもつことが必要である。また、建築設計事務所、建築現場などでの実体験を通して、建築が社会とどう関わるか、幅広い知識が必要とされる。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			



授業科目名(英文名) ／Course Title	建築法規／Architectural Code		
担当教員(所属)／Instructor	福田 康文(工学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R310021
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	福田 康文(689-6186 nobuom@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	福田 康文(e-mailや電話で予約をとってから質問や相談に応じる。)		
授業の内容／Course Description	1. 建築法規の基本である建築基準法を体系的に理解するため、建築基準法の沿革及び構成について学ぶ。 2. 建築法規は法律特有の表現からくる難解さがあるので、法規を理解するための基礎知識として、法令の種類、形式について学ぶ。 3. 建物を建築するには、建築基準法だけではなく多くの法令が関わってくるため、建築に関する主な法令のあらましについて学ぶ。 4. 建築士の資格、建築士事務所の業務を定めている建築士法について学ぶ。 5. 行政事例を通して、建築物の安心、安全について理解を深める。		
授業の達成目標／Course Goals	建築物の最低の基準を定めた「建築基準法」の理解を深めることは、建築に携わる技術者にとって極めて大切なことである。本授業の目標は「建築基準法」と建築に関する他の法令等の基本的な知識を習得し、今後の具体的な建築物の設計、施工の際に、その知識を生かすことにある。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	建築都市デザイン学科の学習・教育目標との関係：以下の2つの学習・教育目標と関係する。 (4) 建築・地域デザイン技術者としての倫理観を養う (6) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築・地域・環境・制度を構築する能力を身に付ける		
前提とする知識／Prerequisites	日常生活に対する問題意識(高齢者問題や景観・まちづくり等) 地域デザイン学序論B、建築計画学Ⅰ、建築計画学Ⅱ、都市計画を受講していることが望ましい。 また、本科目は卒業設計につながる。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	行政資料や時事問題の載った資料等を適宜配布する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 1. 建築基準法の沿革 第2週 2. 建築基準法と都市計画法 第3週 3. 建築基準法(総則部分) 第4週 4. 建築基準法(単体規定部分) 第5週 5. 建築基準法( ) 第6週 6. 建築基準法(集団規定部分) 第7週 7. 建築基準法( ) 第8週 8. 関係法令等(建築士法他)		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書：特になし 参考書：「建築基準法令集」、「基本建築基準法関係法令集」		
成績評価の方法／Evaluation	試験を実施する。問題は講義内容から出題する。原則として、90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とする。		
学習上の助言／Learning Advice	建築法規は、地味な科目ですが、私たちの日常生活に関わる大事な決まりです。この講座により、建築規制の歴史、建築の基本法たる建築基準法の沿革や特色等を大局的に理解してください。法規は覚え込むのではなく、どんな法令が存在し、その法令の主旨を把握することが重要であり、そのためには法令集を辞書として使うよう心掛けましょう。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	建築生産		
担当教員(所属)／Instructor	秋山 学(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R310022
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	秋山 学(028-689-6196 k_kaneko@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	秋山 学(授業当日12:00～12:45建築材料研究室又は希望者は金子技術専門職員を通じて連絡する事。)		
授業の内容／Course Description	建築技術者として知っている必要が有ると考える種々の施工に関する技術・知識について説明し、それらが実際の建設工事でどのように行なわれているかをビデオ等で見せる。		
授業の達成目標／Course Goals	1. 建物を作る方法を詳述し、建築工事についての学生の理解を深める。 2. 上記により、設計、構造、土質、材料等各分野の学習の補完をする。 3. 実社会に出て建築の様々な分野に進んだ時に、各分野と施工がどう関連するかを学習させる。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	下記の建築都市デザイン学科の学習・教育目標に対応する。 (7) 資源活用と建設プロセスを構想し、建築として実現する能力を身に付ける。		
前提とする知識／Prerequisites	・ 建築に関する基礎知識を有している事。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	初めに日本の建設業の歴史と現状及び請負契約などについて概説した後、施工計画の立案から竣工までの建設工事のフローに従って各専門工事の基礎知識と実際の施工方法についてビデオ、パワーポイント等を用いて視覚的に教える。 また、課題を与えてグループ毎に討議させ、発表させて、参加しながら学習を深める。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回 建築概論(日本の建設業の歴史と現状他) 第2回 地下躯体工事関連(土工事、山留工事、杭工事等) 第3回 地上躯体工事関連(鉄骨、鉄筋、型枠、コンクリート、PC工事等) 第4回 仮設工事と工事工程 第5回 積算と請負について 第6回 仕上げ工事の技術概論、外装工事、内装工事 第7回 設備工事解説他 第8回 最新技術の紹介 ※規定時間数の講義を、全8回で実施する。		
教科書・参考書等／Textbooks	1. 教科書； 第2版「建築施工法」 田村 恭 編集 丸善出版 2. 教材； 「建築施工技術基準」、「JASS」より抜粋し、配布する。 3. 参考教材；「ようこそ建築学科へ」 五十嵐太郎 監修 学芸出版社 4. 資料他； 各種専門工事のビデオ、パワーポイント等による説明、課題による学習		
成績評価の方法／Evaluation	グループ発表と期末試験により評価する。総合点100点に対して60点以上を得点した場合に目標が達成されたとする。		
学習上の助言／Learning Advice	課題を与え、グループで実際に解決しながら学習させていくので、自由な発想で臨んで欲しい。 教材を事前配布するので予習し、講義に臨んで欲しい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	建築地域設計製図		
担当教員(所属)／Instructor	安森 亮雄(地域デザイン科学部), 佐藤 栄治(地域デザイン科学部), 古賀 誉章(地域デザイン科学部), 各教員(地域デザイン科学部)(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R310023
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /Oth.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	安森 亮雄(yasumori@cc.utsunomiya-u.ac.jp) 佐藤 栄治(e-satoh@cc.utsunomiya-u.ac.jp, 028-689-6202) 古賀 誉章(koga-t@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	安森 亮雄(e-mail等で予約をとってから質問・相談に応じる) 佐藤 栄治(e-mail等で予約を取って質問, 相談に応じる) 古賀 誉章(e-mailで予約をとってから質問や相談に応じる。)		
授業の内容／Course Description	建築設計製図Ⅰ、Ⅱ、Ⅲに続いて、計画、意匠、構造、環境、材料等の現代的な課題をふまえた建築設計や、地域地区の設計を行う。現代社会における建築と地域についての問題意識の向上を図るとともに、地域社会に対する新しい設計提案を求める。また、図面表現、発表表現における高度な修練を行う。		
授業の達成目標／Course Goals	本科目の達成目標は、建築設計のうち地域社会との関連における建築の設計手法と高度な意匠表現を習得することにある。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	建築都市デザイン学科の学習・教育目標のなかの、以下の目標と関係する。 4. 建築・地域デザイン技術者としての倫理観を養う 8. 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築・地域を創造するデザイン能力を身に付ける 9. 工学・地域デザイン科学と芸術・文化のバランスのとれた感性を磨く		
前提とする知識／Prerequisites	建築図学、建築設計基礎、建築設計製図Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを修得していること。		
関連科目／Related Courses	本科目は卒業設計につながる。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	授業は製図室における実習形式で進める。敷地調査や関連する建築事例の調査をふまえ、建物配置、機能配置、動線、構造、環境配慮、内観、外観などの各側面を話し、それらを空間構成としてまとめる設計手法と意匠表現を習得する。課題の冒頭で内容・ねらいなどを解説し、最終回に図面・模型による発表と講評を行う。なお、工学倫理および研究者倫理についてもふれる。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 オリエンテーション、第1課題(地域施設等)解説 第2週 敷地調査、事例調査 第3週～4週 設計の検討 第5週～6週 設計のとりまとめ 第7週 講評会 第8週 第2課題(地域施設等)解説 第9週 敷地調査、事例調査 第10週～12週 設計の検討 第13週～14週 設計のとりまとめ 第15週 講評会		
教科書・参考書等／Textbooks	(教科書)「コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編 丸善株式会社 ※工学部生協で入手可		
成績評価の方法／Evaluation	与えられた全課題を提出した者を対象に、設計手法、図面表現、模型表現等を習得しているかを提出課題ごとに評価します。各課題作品は原則としてA評価(90点)、B評価(75点)、C評価(60点)およびD評価(不合格＝再提出)に段階分けし、これを各課題に要した時間(週)数で重みづけして評価する。原則として、90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とする。		
学習上の助言／Learning Advice	本科目は、実社会においては建築設計の実務と強く関連します。また、本科目に関連する設計事例を見学したり、建築作品集等の書籍を読むことで、その空間構成、構造、ディテール等を学ぶ機会をもつことが必要である。また、建築設計事務所、建築現場などでの実体験を通して、建築が社会とどう関わるか、幅広い知識が必要とされる。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	建築構造力学Ⅳ		
担当教員(所属)／Instructor	中野 達也(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R320004
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	中野 達也(nakanot@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	中野 達也(月曜日16:00～17:00 or 予約時間に研究室で応じる。)		
授業の内容／Course Description	構造設計に役立つ弾性論、塑性論、座屈論、振動論などの基礎理論を学び、部材や骨組の弾塑性挙動に関する理解を深めます。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弾性論と塑性論の基礎を理解し、部材の弾塑性挙動を算定できること。</li> <li>・座屈論の基礎を理解し、単一圧縮材の曲げ座屈耐力の算定式を誘導できること。</li> <li>・仮想仕事の原理を理解し、板の塑性耐力を算定できること。</li> <li>・振動論の基礎を理解し、質点系の応答を算定できること。</li> </ul>		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	<p>下記の建築都市デザイン学科の学修・教育目標に対応します。</p> <p>(5) 自然現象のメカニズムを理解し、建築・地域デザイン技術に活かす能力を身に付ける。</p>		
前提とする知識／Prerequisites	建築構造力学ⅠおよびⅡの内容を理解しておく必要があります。		
関連科目／Related Courses	線形代数及演習、微積分学及演習の他に、常微分方程式の講義を履修していることが望まれます。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義を中心に、適宜、演習や実験などを含めて進めます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 構造設計規範 第2週 構造材料の特性と力学モデル 第3週 軸力材の弾塑性解析1 第4週 梁材の弾塑性解析1 第5週 梁材の弾塑性解析2 第6週 柱材の弾塑性解析1 第7週 柱材の弾塑性解析2 第8週 単一圧縮材の曲げ座屈 第9週 塑性解析と塑性ヒンジ理論1 第10週 塑性解析と塑性ヒンジ理論2 第11週 板の弾塑性解析1 第12週 板の弾塑性解析2 第13週 骨組の振動解析1 第14週 骨組の振動解析2 第15週 骨組の弾塑性解析		
教科書・参考書等／Textbooks	参考書：「建築の力学－弾性論とその応用－」桑村仁 著、技報堂出版 「建築の力学－塑性論とその応用－」桑村仁 著、井上書院 「建築鋼構造－その理論と設計－」井上一朗、吹田啓一郎 著、鹿島出版会		
成績評価の方法／Evaluation	授業出席回数2/3以上の学生を対象に、期末試験で評価します。原則として、90%以上を「秀」、75%以上を「優」、65%以上を「良」、50%以上を「可」とします。		
学習上の助言／Learning Advice	数式が出てくるので、建築構造力学Ⅰ・Ⅱと比べると多少わかり難いかもしれませんが、自分の手を動かして実際に問題を解くことにより、体感的に理解することができると思います。		
キーワード／Keywords	建築都市デザイン学科専門科目		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	建築史Ⅰ／History of Architecture Ⅰ		
担当教員(所属)／Instructor	渡邊 美樹(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R320006
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	渡邊 美樹(0284-22-5676 mikiw@ashitech.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	渡邊 美樹(e-mailや講義の前後で問い合わせや質問に応じる)		
授業の内容／Course Description	建築史の学習には、広い知識(歴史、様式、技術)が必要である。さらに建築の「意匠」を学習するには、それらの知識の蓄積の上に「造形(建築)言語」、つまり建築を評価する視点が必要となる。本講義では、これまで先学が行ってきた膨大な量の建築史研究をもととして、古代エジプト、ギリシャ、ローマ、ビザンチン、ロマネスク、ゴシック、ルネサンスバロック、ロココ、植民地建築とリバイバルの様式変遷を軸とした西洋の建築史の概要を学習する。		
授業の達成目標／Course Goals	西洋の建築史について、古代エジプト、ギリシャ、ローマ、ビザンチン、ロマネスク、ゴシック、ルネサンスバロック、ロココ、リバイバルの流れを軸とした様式変遷を修得すること、またそれらの材料、構造、技術、デザインの概要を把握すること。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	建築都市デザイン学科の学習・教育目標との関係：以下の1つの学習・教育目標と関係する。 (8) 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築・地域を創造するデザイン能力を身に付ける		
前提とする知識／Prerequisites	歴史的な建築や歴史一般に関する興味、西洋の伝統、文化に関する興味。 地域デザイン学序論B、建築計画学Ⅰを受講していることが望ましい。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	授業は隔週2コマ授業、補足資料(ある場合)とパワーポイントによる講義とする。 教科書の朗読を求めるので教科書を必ず持参すること。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週	ガイダンス、古代エジプト、古代ギリシャ 古代ローマ ビザンチン、ロマネスク ゴシック ルネサンス バロック、ロココ 植民地建築、リバイバル様式	教科書、補足資料 // // // // // //
教科書・参考書等／Textbooks	【教科書】 桐敷真次郎著「西洋建築史」共立出版 【参考書・資料】 日本建築学会編「西洋建築史図集」彰国社(宇大生協で販売) 森田慶一「西洋建築史入門」東海大学出版会 クリスチャン・ノルベルグ・シュルツ著、前川道郎訳「西洋の建築」本の友社 光井渉、太記祐市著「建築と都市の歴史」井上書院		
成績評価の方法／Evaluation	演習および学期末試験で評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	教科書や講義で頻出するキーワードについて資料や様々な文献で補足学習すること。 現存の建物はストリートビューなどで閲覧すると理解が数倍に膨らむ。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	建築史Ⅲ／History of Architecture 3		
担当教員(所属)／Instructor	山崎 綱介(工学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R320008
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	山崎 綱介(689-6186 nobuom@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	山崎 綱介(あらかじめ電話やメール(e-mail)で予約をとってから質問や相談に応じる)		
授業の内容／Course Description	本講義は、古代から近世に至る日本建築の形成および発展過程を捉え、日本建築の特徴あるいは日本的な意匠とはどのようなものかについて解説する。歴史意匠は建築史学の意匠(デザイン)を含む学問で、過去の歴史において、どのような建物が建てられ、どのような意味で歴史に残っているのか、またその意匠はどのような歴史的背景と技術的変遷を経て建てられたものかについて学ぶもので、現代の設計行為やデザインをする際に、基本的な概念と現代の問題解決に必要なヒントを与えようとするものである。		
授業の達成目標／Course Goals	古代から近世に至る日本建築の形成および発展過程を捉え、日本建築の特徴あるいは日本的な意匠とはどのようなものかを理解する。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	建築都市デザイン学科の学習・教育目標との関係：以下の1つの学習・教育目標と関係する。 。(8) 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築・地域を創造するデザイン能力を身に付ける		
前提とする知識／Prerequisites	・平面図や立面図、断面図など建築図面の基本を理解していること。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	・各テーマに沿って指定の教科書(日本建築史図集)と補足プリント、スライドを用いて説明する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先史時代の集落と建物</li> <li>2. 古代・中世の神社建築</li> <li>3. 仏教建築の導入と日本化</li> <li>4. 古代の貴族住宅と中世の武家住宅</li> <li>5. 中世の寺院建築と禅宗文化の影響</li> <li>6. 近世の城と御殿、霊廟建築</li> <li>7. 数寄屋風意匠の建築</li> <li>8. 民家と町並</li> </ol>		
教科書・参考書等／Textbooks	日本建築学会編『日本建築史図集 新訂第三版』(彰国社)／教科書		
成績評価の方法／Evaluation	レポート(1回)の成績で評価する。授業参加の実績のない学生は評価しない。		
学習上の助言／Learning Advice	主体的な関心を持って授業に臨み、疑問があれば授業後に質問して下さい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	建築計画学Ⅳ／Architectural Planning 4		
担当教員(所属)／Instructor	古賀 誉章(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R320016
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact	古賀 誉章(koga-t@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours	古賀 誉章(e-mailで予約をとってから質問や相談に応じる。)		
授業の内容／Course Description	建築設計の基礎となる各種公共建築物に関する専門的、技術的な事項について解説する。		
授業の達成目標／Course Goals	本講義の達成目標は、公共建築物および業務施設の計画に関する専門技術の知識とそれらを設計デザインに応用できる能力を養うことである。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	建築都市デザイン学科の学習目標（４）建築・地域デザイン技術者としての倫理観を養う，（６）人間および社会の要求・条件を理解し，建築・地域・環境・制度を構築する能力を身に付ける，に関連する。		
前提とする知識／Prerequisites	公共建築物（医療・福祉施設）の利用のしやすさ、管理 運営のあり方、デザイン等に日頃から関心を持ち、建築作品集、現地見学などを通して 自分なりの評価とその根拠を明確にするトレーニングを積むこと。特に高齢者福祉施設 について、ボランティア活動の経験を有することは受講に際しても大いに役立つ。		
関連科目／Related Courses	建築計画学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを履修していることが望ましい		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義中心に進めるが、授業毎に配布する資料は、施設機能とその空間対応の理解を深めるうえで重要である。特に福祉施設についてはその種類も多く幅が広いので、高齢社会の計画課題に対応する高齢者福祉に焦点をあてる。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	1. 福祉環境の変化と計画課題 （講義の概要紹介と受講に当たっての留意事項） 2. 高齢者福祉に関する動向と制度 3. 高齢者福祉施設の種類と計画 4. 高齢者の居住環境計画 5. 高齢者住宅の制度と計画 6. 福祉施設の種類と機能(特養老人ホーム) 7. 保健医療の概念と施設対応 8. 保健医療施設の種類と機能 9. 医療施設の立地に関する計画条件 10. 医療施設の部門構成と空間配置 11. 病棟の計画 12. 外来診療部の計画 13. 中央診療部の計画 14. 医療施設の管理・供給（サービス）部の計画 15. まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書は特に指定せず、必要な教材は授業毎に作成して配布する。参考書は以下の通り。 1. 建築計画教科書研究会編著「建築計画教科書」 2. 新建築学大系編集委員会編「新建築学大系21 地域施設計画」 3. 新建築学大系編集委員会編「新建築学大系23 建築計画」 4. 新建築学大系編集委員会編「新建築学大系31 病院の設計」 5. 新建築学大系編集委員会編「新建築学大系32 福祉施設・レクリエーション施設の設計」		
成績評価の方法／Evaluation	筆記試験（中間試験50%および期末試験50%）を中心に評価するが、施設見学後にレポートを課して評価を加味する場合がある。成績は総合して秀（90点以上）、優（80点 以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可の5段階で評価する。また、授業期間の 3 分の 1 以上の欠席は認めない。		
学習上の助言／Learning Advice	日々深化する高齢者施設と医療施設の運営方法と関連した、建物の変遷を理解しましょう。		
キーワード／Keywords	建築計画，高齢者施設，医療施設		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	地区計画／District Planning		
担当教員(所属)／Instructor	佐藤 栄治(地域デザイン科学部), 長田 哲平(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R320026
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	佐藤 栄治(e-satoh@cc.utsunomiya-u.ac.jp, 028-689-6202) 長田 哲平(E-mail : osada-teppe@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	佐藤 栄治(e-mail等で予約を取って質問, 相談に応じる) 長田 哲平(・火曜日:10:00~12:00 ※事前にメール予約願います。 ・在室時の随時対応可(8-303) ・講義実施日の講義時間前後および休憩時間に対応)		
授業の内容／Course Description	前半は佐藤教員(建築都市デザイン学科)が、また後半は長田教員(社会基盤デザイン学科)が行う。日常生活の身近な範囲である地区を主な対象として、まちづくりとコミュニティの概念の基礎的な理解をもとに、住民参加を推進するコミュニティ計画、地区計画のあり方を解説する。さらに、市街地の具体的な事例を通して計画の進め方と事業制度の根拠を学ぶ。		
授業の達成目標／Course Goals	1. 法定地区計画および自治体まちづくり条例にもとづく地区計画など、地区レベルの計画に必要な基礎的な概念と手法として下記を修得する。 1) まちづくりの概念と地区計画との係わり 2) まちづくり条例とまちづくり規範 3) コミュニティと住民参加 2. 具体的な事例を通して、地区計画の内容と整備手法を理解する。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	建築都市デザイン学科の学習目標(6) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築・地域・環境・制度を構築する能力を身に付ける、に関連する。		
前提とする知識／Prerequisites	都市屋地域に関する基礎的な知識を有することが望ましい。		
関連科目／Related Courses	都市計画を前期で受講していることが望ましい。 建築都市デザイン学科にあっては、建築計画学Ⅱを履修していることが望ましい。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	授業は必要に応じて資料やパワーポイントなどのAV教材を使用し、受講生の理解を促す。前半は主に資料に基づいて講義を行う。毎回、最後に講義内容について小レポートを課す。後半は、教科書の解説と宇都宮市での事例の解説を行い、課題に関するレポートを課す。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	<p>■佐藤教員担当</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地区計画とは</li> <li>2. 地区計画の諸タイプ</li> <li>3. まちづくり条例と地区計画</li> <li>4. まちづくり規範</li> <li>5. コミュニティと地区計画</li> <li>6. 住民参加による地区計画</li> <li>7. 震災復興としての地区計画</li> <li>8. まとめと中間試験</li> </ol> <p>■長田教員担当</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9. 身体尺度</li> <li>10. 市街地開発事業の位置づけ概要</li> <li>11. 土地区画整理事業</li> <li>12. 市街地再開発事業</li> <li>13. 法定地区計画</li> <li>14. 市街地開発事業と交通</li> <li>15. 景観計画</li> </ol>		
教科書・参考書等／Textbooks	「新・都市計画概論」 加藤晃 竹内伝史編 共立出版株式会社 必要に応じてプリントを配布する。		
成績評価の方法／Evaluation	前半は試験(40%)に小レポートの内容(10%)を加味して評価する。後半は課題に対するレポート(50%)で評価する。		
学習上の助言／Learning Advice			
キーワード／Keywords			
備考／Notes			



授業科目名(英文名) ／Course Title	構造設計論		
担当教員(所属)／Instructor	細澤 治(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R320029
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	細澤 治(03-5381-5220 hosozawa@arch.taisei.co.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	細澤 治(E-mailによって予約時間を調整し、質問や相談に応じる)		
授業の内容／Course Description	建築物の構造設計の流れと具体的な内容について、実際の設計例を教材として学びます。地震と構造設計との関連を被害例から学びます。		
授業の達成目標／Course Goals	構造設計の流れを理解する 構造設計の基本的な内容を理解する。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals			
前提とする知識／Prerequisites	建築構造力学Ⅰ， 建築構造力学Ⅱ		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義と適宜演習を含めて進めます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回：地震と構造設計 第2回：構造設計の考え方 第3回：鉄筋コンクリート造の設計 第4回：鉄骨造の設計 第5回：保有水平耐力計算 第6回：限界耐力計算 第7回：地震と制御技術 第8回：ドーム建築の構造設計		
教科書・参考書等／Textbooks	特になし		
成績評価の方法／Evaluation	授業出席回数2/3以上の学生を対象に、定期試験で評価します。原則として、90%以上を「秀」、75%以上を「優」、65%以上を「良」、50%以上を「可」とします。		
学習上の助言／Learning Advice			
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	構造力学Ⅱ		
担当教員(所属)／Instructor	中島 章典(地域デザイン科学部), 藤倉 修一(工学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R410005
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact	中島 章典(028-689-6208 akinorin@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours	中島 章典(月曜日, 火曜日12:00-13:00（中島研究室）)		
授業の内容／Course Description	本講義では、構造力学Ⅰで学んだ力のつり合い、断面力の考え方を基本とし、1) 車両などの移動荷重を受ける静定はりやトラス橋を設計する場合の考え方、2) 静定はりに比較して、より複雑な不静定はりやラーメン構造の断面力の算定法、3) 圧縮軸力を受ける柱部材を設計する場合の考え方（座屈問題を含む）、4) はり以外の構造要素の1つである板構造の力学に関する基本的事項、を学ぶ。		
授業の達成目標／Course Goals	本講義は、建設工学コースの教育目標に関連して、1) 移動荷重によるはりあるいはトラス橋の応答、不静定はり、ラーメン構造、柱を設計する際の基本的事項および必要な応答の求め方、2) 実構造物における板構造の存在とその挙動に関する基本的事項、3) トラス橋、不静定はり、ラーメン構造、柱などの挙動を実構造物の挙動と対応付けて、設計をする際の基本的事項、4) 数学あるいは前期の構造力学Ⅰで学んだ関連事項の必要性および普段の継続的学習の必要性、5) 講義資料、教科書以外の文献などからの関連情報収集の重要性、を理解することを達成目標とする。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	社会基盤デザイン学科の学習・教育目標「(E) 自然科学の基礎理論と社会基盤整備のための専門的な基礎知識が理解できる」の修得に寄与する（社会基盤デザイン学科の学習・教育目標については履修案内（地域デザイン科学部）等を参照）		
前提とする知識／Prerequisites	構造力学Ⅰの講義を履修していること。構造力学Ⅰの講義履修条件を満足していること。		
関連科目／Related Courses	構造力学Ⅰの講義を履修していること。構造力学Ⅰの講義履修条件を満足していること。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	構造力学Ⅰと同じオリジナル講義資料に基づいて授業を行う。また、それに関する宿題を毎週課すので、受講者は指定した期日までに宿題を提出する。翌週の授業時に宿題の解説を行う。 AL20：授業は講義を中心に進めるが、毎週課題を提出するのでそれを解くことによって各自が理解を深めることが重要である。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第1週トラス構造とトラス部材の部材力算定、 第2週影響線の定義、利用法、静定はりの影響線、 第3週ゲルバーはり、間接載荷を受けるはりの影響線、 第4週トラス橋の部材力の影響線、 第5週種々のトラス橋の部材力影響線の算定、 第6週静定、不静定の判別、重ね合わせ法による不静定はりの解法、 第7週微分方程式法および3連モーメント法による不静定はりの解法、 第8週ラーメン構造の特徴、微分方程式法によるラーメン構造の解法、 第9週中間の理解度確認、 第10週柱の特徴、短柱の力学、 第11週座屈の概念、中心軸圧縮軸力を受ける柱の座屈荷重の誘導、 第12週柱の強度に及ぼす初期不整の影響、 第13週柱の設計の考え方、板の力学、 第14週板構造の特徴と2次元弾性問題の解法、 第15週面外荷重を受ける板の力学		
教科書・参考書等／Textbooks	構造力学Ⅰと同様、オリジナルの講義資料を使用する。ただし、構造力学関係の図書は数多くあるので、他に1冊程度参考書として購入することを薦める。		
成績評価の方法／Evaluation	期末定期試験（満点45点）と中間の理解度確認（満点45点）および毎週の宿題への対応状況に応じた評価点（最高10点）の合計点100点に対して、60点以上を得点した場合に目標が達成されたとする。		
学習上の助言／Learning Advice	講義の内容を理解するためには、普段の自主的な学習および講義後の復習が欠かせない。過去数年の期末試験などの問題および略解をMoodleに掲載しているので参考にすること。また、他の構造力学関係の図書の例題も参考にすること。なお、この講義を履修していない場合には、3年次の土木工学実験のうち構造力学分野の履修を認めない場合があるので注意すること。		
キーワード／Keywords	構造力学, トラス構造, 影響線, 不静定構造, 柱, 座屈, 板の力学		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	社会基盤設計演習		
担当教員(所属)／Instructor	海野 寿康(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R410020
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	土木工学の力学系科目である構造力学、コンクリート工学、水理学、土質力学分野の講義で学んだ基礎知識を応用し、設計・演習課題を通して各分野に関する知識を深めるとともに、設計手順等を身に付ける。		
授業の達成目標／Course Goals	本演習では、1)各分野の課題に対して、講義で学んだ土木専門分野の基礎知識を整理し、応用することができる、2)各分野における算定手法や設計手法について理解し、設計・照査方法を習得する、3)課題条件を満たすために必要な措置を検討し、適切な計算や製図ができる、を達成目標とします。 土木工学の力学系科目である構造力学、コンクリート工学、水理学、土質力学について、講義で学んだ基礎知識を応用し、設計課題等をはじめとした演習問題を解くことで各分野の習熟度を確認します。この過程から土木工学＝実学としての理解を深めます。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	社会基盤デザイン学科の学習・教育目標「(C)多様な主体との間で意思疎通が図れるコミュニケーション能力を身につけている。(E)自然科学の基礎理論と社会基盤整備のための専門的な基礎知識が理解できる。(F)社会基盤整備の実務上の問題に専門知識を適用・発展することができる。」に寄与する。(社会基盤デザイン学科の学習・教育目標については履修案内(地域デザイン科学部)等を参照)		
前提とする知識／Prerequisites	社会基盤解析法Ⅰ・Ⅱ、応用力学序論、コンクリート工学Ⅰ、鉄筋コンクリート工学、構造力学Ⅰ・Ⅱ、水理学Ⅰ・Ⅱ、土質力学Ⅰ・Ⅱの履修が必須。		
関連科目／Related Courses	社会基盤解析法Ⅰ・Ⅱ、応用力学序論、コンクリート工学Ⅰ、鉄筋コンクリート工学、構造力学Ⅰ・Ⅱ、水理学Ⅰ・Ⅱ、土質力学Ⅰ・Ⅱの履修が必須。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	AL50:本演習では、その設計課題に即した設計計算書や製図などを課し、締切を設定して提出してもらいます。提出物をチェックし、これらの成果を完成させるために定期的にコメントを述べ、学生の疑問点などを解決し、理解度の向上を図ります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	(1 中島章典／4回) 構造力学分野に関する演習および設計課題 (7 丸岡正知／4回) 鉄筋コンクリート構造物に関する演習および設計課題 (11 飯村耕介／3回) 水工学分野に関する演習および設計課題 (3 海野寿康／4回) 土質力学分野に関する演習および設計課題		
教科書・参考書等／Textbooks	構造:授業中に資料を配布する。構造力学Ⅰ・Ⅱで指定された教科書および参考図書も持参すること。 材料:教科書:コンクリート工学、鉄筋コンクリート工学で指定された教科書および参考図書も持参すること。このほか必要な資料は配付する。 水理:教科書:水理学演習、有田・中井、東京電機大学出版局。 地盤:教科書:河上房義 著 土質工学演習(第3版) 森北出版。設計課題は配布資料をもとに説明します。		
成績評価の方法／Evaluation	全15回の講義への出席者を対象に、授業時の態度、レポートの内容を吟味し評価します。また、全ての授業終了後、各分野の理解度を確認するための試験を実施します。すべての演習レポートの合格、理解度確認試験を総合し、達成度が60%以上であれば合格とします。		
学習上の助言／Learning Advice	各内容について、事前の準備をしっかりと行うこと。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	地質工学		
担当教員(所属)／Instructor	各教員（地域デザイン科学部）（地域デザイン科学部）		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R420026
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 他 /0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact			
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours			
授業の内容／Course Description	社会基盤のすべては地盤・岩盤の上にあり、その地盤・岩盤の特性を表す地質は、建設工学の中でも重要な役割を果たす。 本講義は、実務に携わっている講師により、地質工学について有用な知識・調査方法・とりまとめ方等の講義を通じ、地質工学の必要性を説明できるスキルを養成する。		
授業の達成目標／Course Goals	本講義は、建設工学コースの教育目標に関連して、以下の項目を到達目標とする。 （１）土木工学において地質学的ものの見方・考え方が必要であることを理解している。 （２）岩石の成因・分類と地質構造について体系的に理解されている。 （３）岩石・岩盤の基本的な工学的特徴と地質との関連が理解されている。 （４）種々の地質調査法について、目的と調査にあたっての注意事項を理解し、概ね提案できると共に、地質図作成法を理解し、簡単な地質平面図、地質断面図を作成できる。 （５）岩盤分類の目的と特徴が理解されている。 （６）調査データに基づいて岩盤の工学的特徴を評価できる。 （７）ダムやトンネルにおける地形・地質工学上問題となる事象について理解する。 （８）実務や実社会において土木技術者が地質工学を必要とすることを説明できること。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	社会基盤デザイン学科の学習・教育目標「（Ｆ）社会基盤整備の実務上の問題に専門知識を適用・発展することができる」の取得に寄与する（社会基盤デザイン学科の学習・教育目標については履修案内（地域デザイン科学部）等を参照）		
前提とする知識／Prerequisites	土質力学Ⅰ・Ⅱおよび構造力学Ⅰ・Ⅱの知識が必要。高校課程の地学の知識があるとなお良い。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	授業は主にプロジェクトを使って行う。受講者数は４０名程度までとする。 授業は原則として後期隔週で開講し、１回２．５コマ（５～９時限）とする。 AL20：本授業では、授業の中で課題を課し理解度の向上を図る。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第１週（２．５コマ）地質学の基礎知識、 第２週（１．５コマ）地質学の基礎知識（１コマ）岩石・岩盤の工学的性質、 第３週（１．５コマ）岩石・岩盤の工学的性質（１コマ）岩盤分類とその考え方、 第４週（１コマ）地質工学の必要性（１．５コマ）地質調査の考え方（トンネル）と地質調査法、 第５週（１コマ）地質調査法（１．５コマ）地質図の作成方法、 第６週（１．５コマ）ダムの地質調査（１コマ）トンネルの地質調査 第７週（１コマ）期末試験		
教科書・参考書等／Textbooks	テキスト：「地質工学概論」菊地宏吉著 土木工学社（初回の講義もしくはその都度配布します） 参考書：「トンネル標準示方書〔山岳工法編〕・同解説」土木学会		
成績評価の方法／Evaluation	成績は、講義中に与える課題に対するレポート・演習問題（５０％）および期末試験（５０％）をもって評価する。レポート・演習問題の５０％および期末試験の５０％の総合点１００点に対して、６０点以上を得点した場合に目標が達成されたとする。		
学習上の助言／Learning Advice	本講義は、建設事業を行うために必要な地質学に関する基礎知識および、事例・経験（成功、失敗）についても紹介する。 興味をもって受講すること。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	財政学		
担当教員(所属)／Instructor	坂本 直樹(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R222015
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 集中／Intensive 他/0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	<p>財政が果たすべき役割, および, それを成し遂げるための財政制度を理解し, 増減税や公債発行による経済効果を考察するための基礎的な知識を学習する。併せて, 歳出に関する経済理論や財政制度を理解し, 歳出の規模や構成が変化することによる経済効果を考察するための基礎的な知識を学習する。また, 制度面でも財源面でも国家財政と不可分の関係にある地方財政について, 地方財政と国家財政間の機能分担および財政移転のあり方を考察し, 併せて, 地域の日常生活に不可欠な行政サービスを担う地方財政のあり方について地域の暮らしや活力の観点から学習する。</p>		
授業の達成目標／Course Goals			
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	コミュニティデザイン学科専門科目社会システム科目群の科目として, 「地域社会の現状と成り立ちを幅広い視点から理解することができる能力」を身に付ける		
前提とする知識／Prerequisites			
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	AL20: レポート課題等を通じて知識の定着を図るとともに, 暮らしと財政のかかわりについて身近な事例や地域の事例などを通じて考える機会を設ける。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule			
教科書・参考書等／Textbooks			
成績評価の方法／Evaluation			
学習上の助言／Learning Advice			
キーワード／Keywords			
備考／Notes	今年度は開講されません。 平成30年度から開講されますので, 履修登録の時期になったら, 履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	景観解析		
担当教員(所属)／Instructor	高山 範理(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R223009
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 集中／Intensive 他/0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	景観とは私たち人間を取り巻く環境の眺めであり、同時に私たちと環境との関係を理解するための有効な指標である。本講義では、景観工学的な視点からまず景観とは何かについて学び、景観の物理的な解析方法を学習する。さらに環境生理・心理学的な視点から人間の反応・評価を通じた景観の解析手法について学習する。		
授業の達成目標／Course Goals			
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	コミュニティデザイン学科専門科目地域資源科目群の科目として、「地域社会の課題を発見するとともに、分析することができる能力」を身に付ける。		
前提とする知識／Prerequisites			
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	AL50：解析手法を学んだ後、演習として履修者各自で実際の景観の解析を行う。その後、発表会を通じて各自の景観解析結果の共通性や相違性に触れることで、景観に対する本質的な理解を深めるとともに、良い景観とは何かを提案できる実践的な能力を養成する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule			
教科書・参考書等／Textbooks			
成績評価の方法／Evaluation			
学習上の助言／Learning Advice			
キーワード／Keywords			
備考／Notes	今年度は開講されません。 平成30年度から開講されますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	財政学		
担当教員(所属)／Instructor	坂本 直樹(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R420033
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 集中／Intensive 他/0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	<p>財政が果たすべき役割、および、それを成し遂げるための財政制度を理解し、増減税や公債発行による経済効果を考察するための基礎的な知識を学習する。併せて、歳出に関する経済理論や財政制度を理解し、歳出の規模や構成が変化することによる経済効果を考察するための基礎的な知識を学習する。また、制度面でも財源面でも国家財政と不可分の関係にある地方財政について、地方財政と国家財政間の機能分担および財政移転のあり方を考察し、併せて、地域の日常生活に不可欠な行政サービスを担う地方財政のあり方について地域の暮らしや活力の観点から学習する。</p>		
授業の達成目標／Course Goals			
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	<p>社会基盤デザイン学科の学習・教育目標「(H) 社会基盤整備による問題解決のための適切な施策を提案することができる」の修得に寄与する (社会基盤デザイン学科の学習・教育目標については履修案内(地域デザイン科学部)等を参照)</p>		
前提とする知識／Prerequisites			
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	<p>AL20: レポート課題等を通じて知識の定着を図るとともに、暮らしと財政のかかわりについて身近な事例や地域の事例などを通じて考える機会を設ける。</p>		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule			
教科書・参考書等／Textbooks			
成績評価の方法／Evaluation			
学習上の助言／Learning Advice			
キーワード／Keywords			
備考／Notes	<p>今年度は開講されません。 平成30年度から開講されますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。</p>		

授業科目名(英文名) ／Course Title	景観解析		
担当教員(所属)／Instructor	高山 範理(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	R420034
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 集中／Intensive 他/0th.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	景観とは私たち人間を取り巻く環境の眺めであり、同時に私たちと環境との関係を理解するための有効な指標である。本講義では、景観工学的な視点からまず景観とは何かについて学び、景観の物理的な解析方法を学習する。さらに環境生理・心理学的な視点から人間の反応・評価を通じた景観の解析手法について学習する。		
授業の達成目標／Course Goals			
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	社会基盤デザイン学科の学習・教育目標「(F) 社会基盤整備の実務上の問題に専門知識を適用・発展することができる」の修得に寄与する (社会基盤デザイン学科の学習・教育目標については履修案内(地域デザイン科学部)等を参照)		
前提とする知識／Prerequisites			
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	AL50: 解析手法を学んだ後、演習として履修者各自で実際の景観の解析を行う。その後、発表会を通じて各自の景観解析結果の共通性や相違性に触れることで、景観に対する本質的な理解を深めるとともに、良い景観とは何かを提案できる実践的な能力を養成する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule			
教科書・参考書等／Textbooks			
成績評価の方法／Evaluation			
学習上の助言／Learning Advice			
キーワード／Keywords			
備考／Notes	今年度は開講されません。 平成30年度から開講されますので、履修登録の時期になったら、履修する年次のシラバスの内容を改めて確認してください。		